

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110001
<b>開設科目名</b>	ミクロ経済学 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>	a			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	寺地 伸二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義をします。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくるとは思いますが、しっかり出席して学習しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
経済学用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 経済学用語の意味を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 経済学用語を用いて、経済の仕組みを考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現実の経済問題に関心をもつようになる。					
<b>態度の観点:</b> 周りの人に迷惑になるので私語は絶対にしないこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験を実施して、授業の理解度をみる。					
<b>教科書</b>					
ミクロ経済学 I :市場の失敗と政府の失敗への対策 / 八田達夫: 東洋経済新報社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業で分からないことがあれば、質問しましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031110002
開設科目名	ミクロ経済学 I			単位	4 単位
対象学生	b			学年	～
担当教員	石田 成則			区分	
<b>授業の概要</b>					
ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義します。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくると思いますが、しっかり出席して学習しましょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
経済学用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 経済学用語の意味を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 経済学用語を用いて、経済の仕組みを考える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 現実の経済問題に関心をもつようになる。					
<b>態度の観点:</b> 周りの人に迷惑になるので私語は絶対にしないこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験を実施して、授業の理解度をみる。					
<b>教科書</b>					
ミクロ経済学 I :市場の失敗と政府の失敗への対策 / 八田達夫: 東洋経済新報社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110003
<b>開設科目名</b>	マクロ経済学II			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中村 保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
「マクロ経済学 I」を履修した学生を対象に、マクロ経済学のより進んだ内容について講義を行う。取り上げるトピックは、IS-LM モデルの復習、マンデル・フレミングモデル、総需要・総供給分析、等である。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. IS-LM モデルを用いた分析を通して、財政・金融政策の効果及び有効性を理解する。</li> <li>2. マンデル・フレミングモデルを用いて、財政・金融政策の国際的な波及について学ぶ。</li> <li>3. 総需要・総供給分析によって、マクロ経済政策が物価水準及び国民所得に与える影響について理解する。</li> <li>4. フィリップス曲線を用いて、インフレの原因やそのコントロールについて考える。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
宿題と期末試験を総合して評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
マクロ経済学 I (第2版) / N. グレゴリー・マンキュー: 東洋経済新報社, 2003					
マクロ経済学 II (第2版) / N. グレゴリー・マンキュー: 東洋経済新報社, 2004					
<b>メッセージ</b>					
基礎的な科目なので面白みはないかもしれませんが、将来マクロ経済に関する議論をする際に不可欠なのでしっかり勉強してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
最初の授業の際にお伝えします。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031110004
開設科目名	政治経済学 I			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	植村 高久			区分	
<b>授業の概要</b>					
この授業はアクティブな大学生活を送りたい人向けです。1)まず大学生生活の意義や考え方を確認します。2)次に大学生生活に必要なものごとやその選択方法を考えます。3)最後に大学生生活の中心になる「テーマ」を各自で模索します。(具体的内容は前期・後期の授業開始時にスケジュールを配布します)					
<b>授業の一般目標</b>					
参加者全員が完全燃焼の、自分で満足できる大学生生活を送れるような力の知恵を身につけること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 大学生生活に必要な常識を獲得し、独力で選択ができること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> つねに自分の「テーマ」を意識して行動できること。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に人と関わり、様々な行動を率先して行えるようなリーダーシップを持つこと。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の意思や考え方を他人に確実に伝えることができるコミュニケーション能力を持つこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
最終報告に対する相互評価を中心(50%)とし、授業内報告(25%)と演習参加度(25%)を加えて評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110005
<b>開設科目名</b>	経済統計学			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	野村 淳一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義のねらいは統計学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に統計学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。また直感的な理解を優先するので、説明において厳密には不正確な場合が存在する。後半では、2変数の関係を単回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。統計学を習得するには、本来実際のデータを用いてコンピュータにより実習を重ねる必要があるが、本講義では時間的・空間的制約のためコンピュータ実習は行わない。ただし各自が自習できるように資料を用意する予定である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>統計学の基礎的な理論を修得し、統計学の見方・考え方を理解する。  統計的手法を現実の経済データに応用し、得られた結果を正しく解釈・考察できるようにする。  2変数の関係を扱うための理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な統計学の理論を理解している。  <b>思考・判断の観点:</b> 統計学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。  <b>態度の観点:</b> 分からないところを積極的に質問する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。  評価割合は期末試験 80%、質問書・レポート 20%。</p>					
<b>教科書</b>					
入門統計学/木下宗七:有斐閣ブックス, 1996					
<b>参考書</b>					
計量経済学/山本拓:新世社, 1995					
<b>メッセージ</b>					
ルートの計算ができる電卓を用意すること。					
<b>連絡先</b>					
nomurajl@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
講義中に指示					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110006
<b>開設科目名</b>	経済数学 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	柏木 芳美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
公務員試験の問題はミクロ経済学を理解するのによいものが少なくない。このゼミでは公務員試験の問題を利用してミクロ経済学のより深い理解を目指す。必然的にある程度の数学を使う。また、通常の授業とは異なり、ゼミなので君たちが参加者に解説する。尚、全く別なことを勉強しなければ相談このる。					
<b>授業の一般目標</b>					
公務員試験の問題を通してミクロ経済学を理解すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. ミクロ経済学の基本的事項を説明できる。 2. 公務員試験のミクロ経済学の問題を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 経済現象を数理的にとらえることができる。 2. 他人のプレゼンテーションを評価できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. ゼミに積極的に参加する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表 60～80%, 出席 20～40%, 他人のプレゼンテーションに対する評価 10%。					
<b>教科書</b>					
新スーパー過去問ゼミ2 ミクロ経済学/資格試験研究会編:実務教育出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
遅刻欠席をしないように心懸けること。無断欠席には厳しく対処する。 楽しくやりましょう。					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp Tel&Fax: 083-933-5595					
<b>オフィスアワー</b>					
開始時点に伝える。研究室は経済学部 C 棟 C213。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031110007
開設科目名	経済数学II			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	柏木 芳美			区分	
<b>授業の概要</b>					
線形計画法, 産業連関論などで用いられる線型代数について概説する。内容は, 連立 1 次方程式の掃き出し法による解法, 行列, 行列式などで時間があれば固有値についても説明する。予備知識は高等学校の数学 I 程度があればよい。線型代数と微積分は数学的に書かれたものを読むときには仮定されることが多いのでしっかり身につけるように。					
<b>授業の一般目標</b>					
経済学の理解に必要な程度の線型代数の基礎知識を身につけること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 連立 1 次方程式を掃き出し法で解くことができる。 2. 行列の基本的な演算ができる。 3. 行列式の基本的な性質を理解し計算ができる。 4. 固有値, 固有ベクトルを求めることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間試験と期末試験の平均 60 点以上が合格。演習問題をよく解くこと。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは, テストという名前を付けているが実際には周りの人と相談してもよく, 授業内容の理解の確認である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。					
<b>教科書</b>					
経済数学II/柏木芳美, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
演習問題を着実に解くこと。分からないことは授業やオフィスアワーなどで質問すること。遅刻・欠席をしないこと。					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp Tel&Fax: 083-933-5595					
<b>オフィスアワー</b>					
授業開始時点に伝える。研究室は経済学部 C 棟 C213。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110008
<b>開設科目名</b>	経済成長論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中村 保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済成長及び経済発展に関する基本的な事実についての知識を身に付ける。</li> <li>2. 経済成長及び経済発展の基礎的理論としてのソロー・モデルをきちんと理解する。</li> <li>3. 現実の政策的課題について成長理論を用いて理論的に考える。</li> <li>3. 1980年代後半以降急速に発展した内生的成長理論の考え方・エッセンスを学ぶ。</li> <li>4. 最後に理論と現実との整合性及びギャップについて考える。</li> </ol>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済成長及び経済発展の尺度、経験的な事実及び各国間の違いについて理解する。</li> <li>2. 簡単な数学モデルを用いて経済成長及び発展の多くの側面を説明出来るようになる。</li> <li>3. 研究開発投資と経済成長の関係、経済政策と経済成長の関係について議論できるようになる。</li> <li>4. 理論の有用性とともにその限界についても正しく認識できるようになる。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
宿題と期末試験を総合して成績評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
簡単な数学モデルを使いますが、最初からアレルギーを持たずに挑戦してみると意外と面白いと思います。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
最初の授業の際に伝えます。					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110009
<b>開設科目名</b>	金融経済論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	兵藤 隆			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義では、初めて金融論を学ぶ学生諸君を対象にして、現実の金融現象を理解するために必要な基礎的な学力を育成することを目標としている。よって、できるかぎり「なぜこの理論を学ばなければならないのか」、あるいは、「理論がどのように現実を説明しているのか」がよくわかるような解説を心がけたいと考えている。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.金融論の基礎的知識の習得 2.国民経済というマクロ的視点を身につける 3.金融経済に関する統計データを正しく把握する力を身につける 4.貨幣の役割、利子率とはなにかなど、貨幣理論の基礎を理解する 5.我が国の金融市場や金融システムの概略を理解する					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
理解度をチェックするための中間テストが2回(各15%)、定期試験が1回(70%)が基本点となります。講義中の質問票の提出やメーリングリストへの積極的な参加については若干の考慮をします。					
<b>教科書</b>					
たのしく学ぶ金融論／瀧川好夫:ミネルヴァ書房, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
講義ノート配布および質問の受付には当講義のメーリングリスト( <a href="http://groups.yahoo.co.jp/group/yu-me/">http://groups.yahoo.co.jp/group/yu-me/</a> )を使用します。 参加方法などは講義中に説明します。					
<b>連絡先</b>					
thyodo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031110010
開設科目名	財政学			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員				区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。</p> <p>本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>財政学の講義内容は大きく分けて、①財政理論、②財政制度、③財政事情に分けることができると考えられる。どれか1つの分野だけを講義したとしても財政学の全体像をつかむことは困難である。財政学の全体像をつかませるためにこれら3つの分野をバランスよく組み合わせた講義を行い、財政学について関心を持たせることを目標とする。</p> <p>ただ、講義を行うだけでなく、現実の財政制度や財政事情と財政理論を組み合わせることで講義することにより、現在の財政制度の是非について説明を行い、現実の財政事情がどのような意味を持つのかを明らかにするなど、関心を持つような講義を心がけたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 現実の財政事情や財政制度及び財政理論を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 財政理論を学習し、現実的な政策について考える。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 財政についてのニュースに関心を示し、積極的に知ろうとする。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績については、期末試験を50%、小テスト(1回)とレポート(1回)をそれぞれ25%の割合で評価する。小テストもレポートも提出しなかった場合、例え期末試験を受けたとしても単位を取得することができないので注意すること。</p>					
<b>教科書</b>					
コア・テキスト財政学/小塩 隆士:新世社, 2002					
<b>参考書</b>					
図説 日本の財政(平成20年度版)/池田 篤彦:東洋経済新報社, 2008					
図説 日本の税制(平成20年度版)/川上 尚貴:財経詳報社, 2008					
<b>メッセージ</b>					
確実に内容を理解するためには、毎回の講義への出席が大切です。					
<b>連絡先</b>					
E-mail は yasuka@kitakyu-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
オフィスアワーについては、追って説明する。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110011
<b>開設科目名</b>	日本財政論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	仲間 瑞樹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
多額の財政赤字、その他、諸問題を抱える日本財政を理解するために、必要となるであろう財政の基礎知識を説明します。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本の財政制度、予算制度、財政赤字問題などを確実に理解し、各人が自分の問題として把握できるようにすること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本の財政制度・予算制度・財政赤字問題などを確実に理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本の財政制度・予算制度・財政赤字問題などを、自分自身の問題として把握する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
前期末試験(持込不可)に基づく。 また6月くらいにレポートを作成してもらおう。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
予備知識を必要とはしません。ただし日本財政に関する関心があること、マクロ経済学で習った知識を時々使います。					
<b>連絡先</b>					
講義内でお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					
講義内でお知らせします。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110012
<b>開設科目名</b>	地域福祉社会学			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鍋山 祥子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>地域社会と福祉の関わりについて、高齢者福祉をテーマに考えていく。マスコミによって連日のように「高齢化の危機」が叫ばれている。では一体、高齢化とはわれわれの社会にどのような変化をもたらすのだろうか。本講義では、高齢者のおかれている現状とこれまでの日本の高齢者福祉政策の変遷とを明らかにし、今後「いかなる超高齢社会が目指されているのか」について考察を進める。その際、地域社会の役割変化に着目し、新たなコミュニティのあり方を考える。また、ジェンダー視点を有効な分析手段として使用するため、ジェンダー概念についても詳しく講義する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1. 日本の高齢化状況と高齢者の生活を知る 2. 社会政策としての高齢者福祉の成立を理解する 3. 国家・市場・家族・地域と高齢者介護との関連について理解を深める 4. 現行の高齢者福祉政策に関する知識を得る 5. 自分の生きていく社会状況として高齢化を理解する</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。</p> <p>配点は、授業内外レポート30%・定期試験70%とする。ただし、定期試験の点数が、70点満点中35点に満たない者は不可とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>社会の高齢化を「自分の問題」として、当事者意識を持ちながら受講をしてもらうことを望みます。</p>					
<b>連絡先</b>					
Eメール:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 3/4 限					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110013
<b>開設科目名</b>	労働経済論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	濱島 清史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
労働経済論、とりわけキャリア形成論を中心に講義する。キャリア形成とは、本講では企業において生涯に涉ってどのように仕事能力を高めていくのかという視点から見ていくが、同時に労働者の諸権利についても周知を図りたい。最近の派遣労働者を始めとする非正規雇用の問題など時事問題も取上げたい。そして、日本の雇用慣行に関して、社会通念的な議論を批判し、キャリア形成論との関連を重要視する。さらに、応用的な内容として、女性労働、若年労働、高年労働について概観していく。					
<b>授業の一般目標</b>					
労働経済論の基本的な内容、即ち失業率、有効求人倍率、労働力率、M字型カーブ、限界生産力説、フィリップス曲線、UVカーブ、後方屈曲曲線などの理解。日本の雇用慣行(終身雇用制、年功序列型賃金体系、企業別労働組合)の通念に対する批判の理解、キャリア形成(OJT、同期同時昇進、ジョブ・ローテーション)による幅の広い専門性の育成などの用語と内容の理解、その他上記応用的な内容の理解。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験が50点ほど。模擬試験を事前に行ない、模範解答を配布して、論理的に知識を展開し、定着させるようにする。よって模擬試験(レポート)も20点ほどを占める。他、出席点20点。その他、授業中の課題など10点。					
<b>教科書</b>					
仕事の経済学／小池和男:東洋経済新報社, 2005					
<b>参考書</b>					
知的熟練論批判／野村正實:ミネルヴァ書房, 2001					
<b>メッセージ</b>					
知識はどこまでも伸びやかなものです。共に学ばん!					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031110014
<b>開設科目名</b>	日本経済史総論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	木部 和昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義では、明治維新以降の近代日本経済史を取り扱う。近代日本は、幕末の開国により世界資本主義体制の下に強制的に編入され、「後進資本主義国」として出発することになった。その日本が、産業革命を成功させ、経済的發展を成し遂げた事実は周知の通りである。本講義では、そうした近代日本の経済發展のプロセスを具体的に明らかにするとともに、資本主義社会の形成過程や特質、その将来像についても検討していく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在我々が生きる資本主義社会の歴史的特徴を把握する。</li> <li>2. 日本経済史に関する様々な視点・学説について理解する。</li> <li>3. 日本の経済發展のプロセスや要因を具体的に把握する。</li> <li>4. 日本経済の歴史を学ぶことを通じて、現代の経済社会を分析するのに必要な幅広い視野を養う。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>学期末試験は論述形式(持ち込み不可)。  講義中、数回程度の小レポートを課す。  期末試験 65%、小レポート 20%、出席 15% により成績を評価する。ただし出席状況によっては、この基準に関係なく不合格とする場合がある。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>概説日本経済史 近現代[第2版]／三和良一: 東京大学出版会, 2002  日本資本主義百年の歩み／大石嘉一郎: 東京大学出版会, 2005  経済史入門(日経文庫)／川勝平太: 日本経済新聞社, 2003</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>2005年以前入学の学生で、すでに「経済史総論」の単位を取った者は、この科目は受講できないので注意すること。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>経済学部 C207 研究室  内線 5566、E-mail; kibe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120001
<b>開設科目名</b>	経営学総論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	長谷川 光圀, 内田 恭彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経営学の入門で、基礎的な問題を解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
基礎的な専門用語の習得と鬼門問題に対する基本的な思考を養う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 問題の専門的理解とスピーチ能力					
<b>思考・判断の観点:</b> 応用問題に対する思考の展開力					
<b>関心・意欲の観点:</b> 授業の出席と質問					
<b>態度の観点:</b> ノートを良く取り、整理し、質問に備える					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
筆記試験と出席					
<b>教科書</b>					
日本企業の知的資本マネジメント／内田恭彦・ヨーランルース:中央経済社, 2008					
<b>参考書</b>					
組織の経済学／ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ:NTT出版, 1997					
<b>メッセージ</b>					
ノートを丁寧に取り、質問する。					
<b>連絡先</b>					
内田 y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120002
<b>開設科目名</b>	財務管理論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	城下 賢吾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
企業の財務行動について、テキストとプリントに基づいて講義を行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
財務管理の基礎的な専門知識習得と、その応用					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テスト、レポート、定期試験					
<b>教科書</b>					
コーポレートファイナンス入門/砂川伸幸: 日本経済新聞社, 2004					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
sirosita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031120003
開設科目名	国際経営論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	有村 貞則			区分	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、多様な人材を活かす戦略・組織・管理として最近注目を集めているダイバーシティ・マネジメントについて学習します。米国で誕生したダイバーシティ・マネジメントは、どのような特徴があるのか、また日本企業ではこれをどのように実践しているのか、などを考察していきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
最近、流行語にもなっているダイバーシティやダイバーシティ・マネジメントとは何なのかを理解する。また、ダイバーシティ・マネジメントへの取り組みという点で、日本企業とアメリカ企業にはどのような違いや類似性があるのかを考える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. ダイバーシティ・マネジメントの理念・目標・背景を説明できる。					
2. ダイバーシティ・マネジメントの具体的展開例を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 日本型ダイバーシティ・マネジメントの問題点について自分なりに思考・判断することができる。					
2. 日本企業にダイバーシティ・マネジメントが根付くための可能性を模索することができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 正しい理念がなぜ現実には実施されないかという根源的な問題について深く考えることができるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 1. 人間社会とは何なのか、どうあるべきかを主体的に考えることができるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末テストで最終成績を出す。授業中にレポートを提出してもらうこともあるが、期末テストが悪い場合の加点対象とする。					
<b>教科書</b>					
ダイバーシティ・マネジメントの研究/有村貞則:文真堂, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
経済学部C206研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室に在室中はいつでも可					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031120004
開設科目名	経営史			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	古川 澄明			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>授業の概要</p> <p>歴史に学ばない者は、また現在を知らない。周知の名言です。いま私たちがどのようなビジネス社会に暮らしているかを認識することは、将来の就職先を選ぶ上でも、またビジネスの世界に身を置いて活躍する上でも、非常に重要なことでしょう。現代の企業社会の目まぐるしい変化が、身近には雇用構造の変化に伴う求態様の変化となって現れています。そうした激変の波に飲み込まれて自分の進むべき進路を見失わないためにも、経営史、つまりビジネス・ヒストリー(Business History)に学ぶ意義は小さくないでしょう。アメリカのハーバード大学で20世紀中葉にビジネス・ヒストリーの教育研究体制が確立された背景には、そうした理由もあるように思います。半世紀を経て、国際ビジネスはますます全世界を巻き込み、各国間の時間・情報・移動の距離を縮め、生態系環境を激変させ、従来の社会を席巻するなかにあつて、みなさんが自分の進路を見失わないためにも、それに学ぶ意義は、よりいっそう大きくなっています。現在の世界経済を動かし社会の変化に大きな影響力を及ぼしている国際ビジネスの世界では、何が起きているのでしょうか。現在の国際ビジネスの実状に目を向け、その特徴を概観するなかで、国際ビジネスの進化のプロセスを歴史的視点から見つめ直すのが、この講義のテーマです。日本をはじめとする世界の企業・経営システムには、何が起きているのか。何が変化しつつあるのか。そもそも国際ビジネスを展開する企業は、いかなる状況下で歴史的に変貌してきたのか。またどこへ向かって更なる変貌を遂げようとしているのか。現代企業は、大企業だけでなく、中小企業を含めて、どのような方向へ歩もうとしているのか。そうした疑問を解き明かすために、企業と経営の歴史を遡り、現代企業・経営システムを生み出してきた歴史的プロセスを検討することにします。そして、国際ビジネスの更なる進化への方向を展望してみたいと思います。具体的な事例も、とくに自動車産業を中心に取り上げます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1) 現代国際ビジネスを展開する企業の事業展開や戦略について、何が問題になっているかを知る。</p> <p>(2) 現代企業が歴史的にどのようなプロセスをへて進化・発展してきたのかについて、理解する。</p> <p>(3) 現代企業の経営戦略と組織がどのようにして進化・発展してきたかについて、理解する。</p> <p>(4) 現代企業のサバイバル競争とマネジメントの基礎問題について、理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 企業経営史の基礎知識を身に付ける。とくに現代企業とそのマネジメントの出現及び進化について、理解を深めること。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 現代のマネジメントとはどのようなものか。それは、どのような進化を辿って今日に至ったのかを理解し、企業経営の諸問題を把握する思考力を養うこと。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 企業とマネジメントの歴史的進化について、関心を持ち、積極的にビジネス社会について、そのシステムを知ろうとする意欲が必要である。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業では、完全出席し、積極的に学ぶ姿勢が重要である。積極的な質問や問題提起は大歓迎である。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 積極的に質問し、あるいは問題提起を行い、自分の見解を理路整然と表明できることが望ましい。</p> <p><b>その他の観点:</b> 講義では、パワーポイントを使う。受講ノートを自分の理解力と要点要約力を身に付けてもらいたいとの観点から、敢えて印刷物は配布しない。受講者は、単に書き取り作業をするのではなく、意識的に講義内容の要点を理解し、それをノートに書き留める訓練をしていただきたい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験実施(自筆ノートのみ持ち込み可)。成績には、出席度合いを反映させます。またその都度の小テストやレポートを課すことがある場合、それらも同様に成績評価に反映させます。質問・討論時間を設けますので、積極的に質問・討論をして、勉強意欲を示した方を高く評価し、成績に大きく反映します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>グローバル・ビジネスの現状とヒストリーに関心を持ち、自分が力になるビジネス社会にどのように関わっていくのかを考えてほしい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>学務係</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>事前アポの上、随時。</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120005
<b>開設科目名</b>	企業論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	河村 榮			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>企業は経営計画で戦略を立案し年度予算で人・金などの経営資源の最適配分を図りながら、成長と適正な利益を確保し雇用確保や企業価値の最大化に努めている。しかし、日本市場での事業拡大には限界があるため、多数の企業がグローバル化を推進しており、海外企業との販売競争や為替による業績変動など厳しい経営環境にある。このような経済環境下における企業経営の考察、Case Study で実際の事業戦略や経営戦略を学習し企業経営の基本的知識を学ぶ。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>企業の社会的責任、企業統治、組織形態、事業戦略、財務戦略などを考察し、企業経営の知識と実践力を身につける。個別の企業を事例に最新の企業経営を理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 企業生成や発展の歴史及び企業経営上の諸問題を学習し、経営戦略、財務戦略、労務戦略などの基本的事項について説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 企業経営の課題について自分の意見を述べることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 新聞や経済雑誌の企業に関する記事に関心を持つ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>(1) 授業中に小テストを数回行う。</p> <p>(2) 試験は期末に1回実施する。</p> <p>(3) 小テストと期末試験を総合して成績評価する(期末試験の受験資格には小テスト4回以上が必要)</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>授業は理論と事例の組み合わせを基本とするが、事例を多様し自分で考える力をつける。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>研究室: 研究棟1号館305</p> <p>内線: 5601</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>火曜日是一日中在室。火曜日以外は事前連絡あれば対応可能。</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120006
<b>開設科目名</b>	多国籍企業論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	有村 貞則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
企業の多国籍化を説明する理論と実例を主に日本企業を題材に理解する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 多国籍企業論の理解 2. 日本企業の多国籍化に関する歴史や現状などを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1・多国籍化の理論とその問題点について説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 日本企業の多国籍化に関する問題点について判断することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. グローバル競争社会における企業経営のあり方について関心を持つことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末テストで最終成績を出す。小レポート等の提出を求めることもあるが、期末テストで悪い場合のみの加点対象とする。					
<b>教科書</b>					
新グローバル経営論／安室憲一:白桃書房, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
経済学部C206					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室在室中はいつでも可					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120007
<b>開設科目名</b>	経営工学			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	橋本 寛			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経路問題、流量問題などのネットワークで表現される計画問題を取り上げ、それらの解法と応用について平易に解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
経路問題、流量問題などの基本的なネットワーク計画問題を理解するとともにそのアルゴリズムの考え方について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ネットワークに関する基本的概念や性質を理解し、ネットワーク問題の考え方を学ぶ。					
<b>技能・表現の観点:</b> ネットワーク計画法の定式化と基本的解法を習得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
出席して理解するのが能率的					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120008
<b>開設科目名</b>	情報科学			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	成富 敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
情報技術の理解をとおして、情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて述べる。また、電子商取引やネットワーク犯罪等、最近の話題についても学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
情報技術や情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされるのかについて理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験と出席および提出物で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031120009
開設科目名	経営数学			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	渋谷 綾子			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>パーソナル・コンピュータが設置されている実習室で授業をおこなう。</p> <p>Excelを用いて経営に関わる問題のうち、数値計算を伴うものについて学ぶ。</p> <p>具体的には、「損益分岐点分析」や「金利の影響を考慮した資金計画」、「資源配分問題(資源制約下での最適化問題)」等を、すでに確立している分析手法を用いて問題解決する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>数学を使った分析によって、経営に関わる様々な概念とそれらの相互作用に対する理解を深め、論理的思考力も養う。</p> <p>経営に関わる色々な量が、経営全体にどのようなインパクトを与えるかについても考察する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>利益、費用、収益(率)、資金の時間的価値、経営資源の制約下での最適化等の問題に関して正しい分析ができるようにする。問題を関数やグラフで表現する一般的な数学の知識と、問題全体から数量化できる側面を正しく抽出できる洞察力も身につける。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>経営に関わる問題の数量的な要因を正しく取り扱ったうえでの判断ができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>さまざまな”量”が、”経営”にどのような影響力をもつかについての関心があることが最低条件です。</p> <p><b>態度の観点:</b>計算問題を解く場面では、個々人の計算の速さが授業進行に大きく影響を与える。</p> <p>授業進行の流れに乗るには、適度な緊張感が必要である。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験45%、提出フォルダの充実度45%、態度10%					
<b>教科書</b>					
基礎から学ぶ経営科学—文系の論理的な問題解決法—、高井徹雄編著:税務経理協会, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
shibuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日12時～13時。他、在室中はいいつでも可。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120010
<b>開設科目名</b>	会計学			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山下 訓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>会計原則、会計の基礎概念の把握した上で、財務諸表が企業の実態をどのように示す構造となっているのか。最近の会計制度の大幅な変更により、どのような変化が生じたのか、について考えていきたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>会計の役割を理解し、利害関係者にとって有用な情報とはどのようなものかを把握してもらう。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>中間の課題と期末試験で評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>新検定簿記講義 平成21年度版 1級会計学/加古・渡辺・片山:中央経済社, 2009</p>					
<b>参考書</b>					
<p>ワークブック 新検定簿記講義 平成21年度版 1級会計学:中央経済社, 2009</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>5518 yamasita@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>火の昼休み</p>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120011
<b>開設科目名</b>	税務会計論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	米谷 健司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>経営者の目的が企業価値の最大化であるならば、キャッシュの増減をもたらす税金が企業の投資上の意思決定(あるいは事業上の意思決定)に与える影響は かなり大きい。本講義では、こうした税金の影響を分析・評価するうえで必要となる税務会計の基本的なフレームワークを解説する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>税務会計に関する基本的なフレームワークの理解を目的とする。税務会計の基本は課税所得の計算方法(あるいはその理論的背景)を理解することである が、本講義では企業の投資意思決定と税金の関係や財務報告上の会計利益に与える税金の影響についても考察する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>講義への貢献(10%)、数回の課題提出(20%)および期末試験(70%)によって総合的に評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期集中	<b>曜日時限</b>	集中	<b>時間割コード</b>	1031120012
<b>開設科目名</b>	会計監査2			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	栗林 栄太			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
監査に関して基礎的な知識があることを前提に授業が進められます。授業の中心は、会計監査論1で取り上げなかった、より実践に即した監査手続き、その他の監査関連問題(内部監査、監査役監査等)になります。					
<b>授業の一般目標</b>					
監査の基礎だけでなく、応用・関連についても理解していく。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 財務諸表監査の実践・応用他、内部監査や監査役監査についても理解すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ベーシック監査論新版/伊豫田 隆俊 著/松本 祥尚 著/林 隆敏 著:同文館出版, 2006					
<b>参考書</b>					
新版監査論を学ぶ/八田進二編著:同文館出版, 2005					
<b>メッセージ</b>					
会計監査論1を履修後に履修してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
在室中いつでも質問にお答えします。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120013
<b>開設科目名</b>	簿記1			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	a			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	野村 弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記3級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定3級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。</p> <p>なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約3000社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ALFA 3級/大原簿記学校 教材開発部,大原簿記学校,2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120014
<b>開設科目名</b>	簿記1			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	b			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	野村 弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記3級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定3級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。</p> <p>なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約3000社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ALFA 3級/大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120015
<b>開設科目名</b>	簿記1			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	c			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	野村 弘			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記3級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定3級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。</p> <p>なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約3000社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ALFA 3級／大原簿記学校 教材開発部、大原簿記学校、2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120016
<b>開設科目名</b>	簿記2			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	米谷 健司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
簿記1に続いて、いわゆる日商2級の商業簿記の水準を習得することが、この授業の概要である。					
<b>授業の一般目標</b>					
日商2級の商業簿記の水準を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と出席、授業への参加度を評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120017
<b>開設科目名</b>	法人税法 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	香田 一憲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>法人税は、法人が一事業年度に得た所得(もうけ)に対して課される国税です。ここでいう所得(もうけ)とは、損益計算書上の当期利益とはその範囲が若干異なるので、これを調整した上で、法人税額を計算することになります。このような調整項目を中心に学習します。この法人税法Iは法人税法IIと一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。この法人税法I・IIは公認会計士試験を踏まえた内容になっています。職業会計人コース会計専攻2年生は履修すること。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>納付税額の計算・条文理解を中心に、公認会計士試験の租税法を踏まえた、法人税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
法人税法一般テキスト・チェック／大原簿記学校 教材開発部:大原簿記学校, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>なお、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業は4月始めから7月までです。</li> <li>2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。</li> <li>3) この法人税法Iは法人税法IIと一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。</li> </ol>					
<b>連絡先</b>					
<p>質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031120018
開設科目名	工業簿記			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤田 智丈			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>企業にはヒト・モノ・カネといった様々な資源がありますが、会計の世界ではこれら全てを金額(貨幣価値)で把握します。企業は製品やサービスを提供するために、材料や労働力といった多様な資源を投入し、加工をします。最終的な製品やサービスが完成するまでに、どのようにプロセスが進み、結果として各製品やサービスにどれぐらいお金が使われたのかということを明らかにする手段が工業簿記です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>製品やサービスを作るプロセスを貨幣価値で把握する手法や考え方を身につける。実践としては、日商簿記検定2級レベルの計算能力を身につけることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 簿記の「勘定」はばらばらに存在しているのではなく、実際の物作りの流れを反映して繋がっている。そのような流れに対応させて勘定の繋がりを理解できるようになる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 実際の物作りを、簿記がどのように表現しているのかをイメージできるようになる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 勘定の流れを理解し、正確な計算をできるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>基本的に期末試験で評価しますが、出席も若干加味します。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>スタディガイド 工業簿記/渋谷武夫:中央経済社, 2008</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120019
<b>開設科目名</b>	原価計算論1			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中田 範夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
原価計算の基本的な部分についてテキストを使用しながら講義する。この科目の履修には工業簿記の知識を必要とする。管理会計論や経営分析の授業を併せて履修することが、原価計算論の理解を容易にする。					
<b>授業の一般目標</b>					
日商簿記検定では1級に属するので、基礎的な知識のない学生には理解が困難かもしれない。講義の目標は原価計算の基本的な部分の理解を進めることである。当日の授業について、復習をすることが必要であろう。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と前期末試験によって評価する。					
<b>教科書</b>					
最新 原価計算講義／溝口一雄著:中央経済社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120020
<b>開設科目名</b>	経営分析論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	羽生 正宗			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031120021
開設科目名	管理会計論1			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤田 智丈			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>管理会計にはマネジメントと意思決定分析という二つのテーマがあります。前者では、利益獲得という組織目標を実現するために、どのような仕組みを作ればよいか、どのように従業員のやる気を引き出せばよいか、といった内容を考えます。後者では、経営者や管理者の意志決定、従業員の業務遂行などにおいて、どのような会計情報が役立つか、どのように分析すればよいか、といった内容を考えます。この授業ではこのような内容について学習していきます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
上記の内容について、基本的な考え方を理解し、簡単な分析をできるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>管理会計の基礎となる考え方、分析手法を身につける。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>私たちが普段は客として利用している店や企業は、何を考え、どのようにして儲けようとしているのか、といった身の回りにあるビジネスを分析できるようになる。また、会計情報を用いて事例分析をできるようになる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>授業で習う知識や事例をきっかけとして、ビジネス関連のニュースや雑誌に興味を持ち、そのような情報を理解できるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験とレポートにより評価します。出席は若干加味します。					
<b>教科書</b>					
管理会計・入門 新版(有斐閣アルマ)／浅田孝幸 他:有斐閣, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120022
<b>開設科目名</b>	流通論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	藤田 健			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>わが国の流通は、大きな変革期を迎えている。たとえば、小売売額の減少、中小小売業者の淘汰・廃業、卸売業者の合併、産地偽装・食の安全問題、商店街・百貨店の衰退、商社による商業資本の系列化、ネットビジネスの増大など、さまざまな変化に直面している。こうした複雑で多様な現象を理解するためには、流通に関する基礎理論の習得が不可欠である。そのため、本講義では、さまざまな企業の事例をとおして流通の現実を概観するとともに、現実の流通を分析するための基礎理論の習得を目指す。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1.流通論を体系的に修得する。 2.流通現象を理論的に理解できるようになる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 流通論の基礎理論を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 流通現象への関心を高め、理論的な視点から理解する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験(80%)、授業内レポート(20%)					
<b>教科書</b>					
1からの流通論/石原武政・竹村正明編著:中央経済社, 2008					
<b>参考書</b>					
ビジネスエッセンシャルズ(5)流通/大阪市立大学商学部編:有斐閣, 2002					
<b>メッセージ</b>					
<p>流通システム講座の基礎科目に位置づけられます。マーケティング論、商品学等を体系的に勉強したい人は、ぜひ受講してください。 なお、授業中の私語は厳禁です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120023
<b>開設科目名</b>	マーケティング論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	武居 奈緒子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義では、マーケティングについての基本的概念、分析枠組みについて、理解を深めてもらうことを目的とする。</p> <p>本講義では、マーケティングの2つの側面を取り扱いたい。第1は、マーケティング現象を企業の中の管理でみる側面である。ここでは、マーケティングの観点のもとに、企業全体をどのようにコントロールするかということが、問題となってくる。第2は、マーケティング現象を社会全体でみる側面である。ここでは、他のマーケティング主体との競争関係の中で、企業のマーケティングに関わる行動を考察することになる。</p> <p>本講義を通じて、このような2つの視角から、企業行動について合理的な判断や考え方ができる能力を養ってもらえればと思う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
マーケティング現象を理解するための基本枠組みと基本概念、分析方法を修得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験 80%、小テスト・授業内レポート 20%					
<b>教科書</b>					
消費行動／武居奈緒子:晃洋書房, 2000					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031120024
<b>開設科目名</b>	商品学			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	柳田 卓爾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
商品をめぐる諸問題を理解するための基本的な枠組みを、解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
商品をめぐる諸問題を知り、理論的な枠組みを使って理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として、定期試験 100%。レポート等を課す場合がある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
現代商品論／見目洋子・神原理:白桃書房, 2006					
新版 豊かな社会の商品学／関義雄、馬淵キノエ:大学教育出版, 1998					
商品学読本 第2版, (読本シリーズ)／水野良象:東洋経済新報社, 1987					
新・商品学の創造／栗原史郎:白桃書房, 2003					
西洋事物起原(一)～(四), (岩波文庫)／ヨハン・ベックマン著, 特許庁内技術史研究会訳:岩波書店					
<b>メッセージ</b>					
初回の講義の際に、詳しいレジュメを配布して、講義内容、進め方などについての説明を行う。履修希望者は、必ず出席すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031130001
<b>開設科目名</b>	国際経済学			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	田淵 太一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義は、国際経済学のうち、とりわけ国際貿易理論を概説します。たんに通常のテキストブックに記述された内容を修得するだけでなく、通説を理論史や現実の世界経済に照らし合わせて、批判的に捉える考え方も紹介します。					
<b>授業の一般目標</b>					
国際経済学のうち国際貿易理論の基本概念を把握したうえで、理論史や現実の世界経済の動きから既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験 100%					
<b>教科書</b>					
貿易・貨幣・権力／田淵太一:法政大学出版局, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
基礎理論のたんなるトレーニングでなく、批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。					
<b>連絡先</b>					
経済学部学務係					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031130002
<b>開設科目名</b>	国際マクロ経済学			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	田淵 太一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義は、国際経済学のうち、とりわけ国際金融論の基本概念を概説します。たんに通常のテキストブックに記述された内容を修得するだけでなく、通説を理論史や現実の世界経済に照らし合わせて、批判的に捉える考え方も紹介します。					
<b>授業の一般目標</b>					
国際経済学のうち国際金融論の基本概念を把握したうえで、理論史や現実の世界経済の動きから既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験 100%					
<b>教科書</b>					
貿易・貨幣・権力／田淵太一:法政大学出版局, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
基礎理論のたんなるトレーニングでなく、批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。					
<b>連絡先</b>					
経済学部学務係					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031130003
<b>開設科目名</b>	国際運輸論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>交通は、私たちににとって最も身近な経済的現象・事象であり、同時に私たちはその主体となることもあります。また、運輸インフラは経済活動にとって欠くことのできないものであり、その整備は経済発展のための条件ともなります。</p> <p>本講義では、旅客輸送や物流など交通に関する多くの最新の情報を提供しながら、交通の生産的三要素と交通の物理的三要素という観点から交通とビジネスについて講義します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
交通経済の基礎知識を習得しつつ、交通とビジネスの関係についての見目を養います。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は、出席(30点)、期末試験(70点)によって行います。					
<b>教科書</b>					
交通とビジネス／澤喜司郎他編著：成山堂書店，2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031130004
<b>開設科目名</b>	国際関係論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>国際社会は日々変化しています。国際社会との関わりを持たずに生きていくことは現在では不可能です。一国にとって外交は最も重要な課題です。そのため、日本が直面している外交問題をはじめとする国際問題や世界政治の動向を取り上げ、それを理解するために必要な基本的知識と情報を提供し解説します。同時に、正しい日本の歴史を学ぶことによって日本という国について考える機会を提供します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>国際政治学や国際関係論の基本的理論を習得して国際問題を考える素養を養うとともに、それを前提として身近な国際問題を説明できるコンセプチュアル・スキルと、専門的な国際問題への学際的アプローチの仕方を習得しつつ国際関係についての理解を深める。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価は、出席(30%)と学期末試験(70%)を総合して行います。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031130005
開設科目名	現代世界経済論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	河野 真治			区分	
<b>授業の概要</b>					
現代世界経済の諸問題について、テーマ別に解説をする。取り上げる問題は、WTO や自由貿易協定などの貿易問題、直接投資と多国籍企業、国際通貨とドル、中国とインド経済、現在の金融危機と不況、地球温暖化、世界の貧困と援助、などである。各テーマについて新聞記事などを使いながら、テーマに関連する進行中の事柄についても説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
新聞で世界経済の記事がすらすら(読んで意味がわからず、嫌にならない)読める程度の世界経済に関する基礎知識を得ること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 新聞が読めるようになること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分なりの「世界経済観」を持つこと。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えをレポートにまとめる能力を身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の小テストで60点(1回4点×15回)、期末テスト40点、合計100点で評価する。 小テストは出席点ではなく、書かれた内容で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜10:00-12:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031130006
開設科目名	国際協力論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	今津 武			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>21 世紀はグローバル化が進む中で、「格差」と「環境」が世界の重要な課題になってきています。この課題と緊密に関連する貧困、食料、エネルギー、環境悪化、感染症、地域紛争の拡大といった地球規模の課題(Global Issues)の解決には、それぞれの国の努力だけではなく、全ての国が相互に協力しながら、取り組まなければならないと考えられます。こうした世界の中での日本の立場を正確に把握しておくことが、今後の日本の進路にとってきわめて重要かつ有用だと考えられます。こうした時に世界の現状を情報量の多い工業先進国を標準モデルとして理解し議論する傾向が見られます。しかし、世界人口 67 億人の 80%は開発途上国にすむと推定されており、その意味では開発途上国への理解、そうした国々と先進諸国の関係のあり方を正確に知っておくが、今後の世界のゆくえを考えるためには不可欠であると思われる。本授業ではこうした世界の状況を展望し、今後日本が国際社会においてどのような貢献をしてゆくべきなのかを、政府開発援助(ODA)を中心に概観して行きたいと思えます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>世界人口の約 80%がすむ開発途上国の現状を理解し、そうした国々の貧困を初めとする深刻な課題に対し、先進諸国がどのように協力してゆくべきか、「何故、開発途上国への支援が必要なのか？」を考え、「開発途上国支援」が日本をはじめとする先進諸国を含めた地球社会のあるべき姿や進むべき道を模索する上で、大きな示唆を与えるものであることを理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 貧困を中心とする世界の開発途上国の課題とそうした課題への日本を含む先進諸国の支援の必要性につき説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 開発途上国の課題やそのことが日本を含む先進国のあり方にどのように影響を与えるかといった点を踏まえ、21 世紀の世界の方向性を自らの考えとして説明できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 日常生活における国際社会との関わりに関心を持つ。</p> <p><b>態度の観点:</b> 自らも参加できる国際協力活動に関心を持つ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>(1)授業の中で小テストを2回実施する。</p> <p>(2)日本の国際貢献に関する 2000 字程度のレポートを作成し、第 12 回授業時に提出する。</p> <p>(3)出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>国際協力用語集(第3版):国際開発ジャーナル社, 2004</p> <p>ODA(政府開発援助) 日本に何が出来るか/渡辺利夫、三浦有史:中央公論新社, 2003</p> <p>貧困と開発/絵所秀紀他編著:日本評論社, 2004</p> <p>援助は役に立っているか?/ロバート・カッセン:国際協力出版会, 1997</p> <p>途上国ニッポンの歩み 江戸から平成までの経済発展/大野健一:有斐閣, 2005</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>開発途上国のことや日本の政府開発援助(ODA)については、「よく理解できない」との声が聞かれます。本講義では国際協力やボランティア事業に携わった方々の現場からの報告を取り入れました。担当教員も 40 年近く途上国と関係する仕事をしてきましたので、分かり易く途上国の問題を考えるヒントを提供します。受講者がそれぞれの立場で途上国の課題や日本の役割についての意見交換を活発に行える授業にしたいと考えています。</p>					
<b>連絡先</b>					
imazu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031130007
<b>開設科目名</b>	東アジア社会経済			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	李 海峰			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
東アジア社会経済はどのように変化しているのか、マクロ的には国際社会経済の変化と関連を考察しながら、市場経済化に伴う社会経済の変化を統計データ、実態調査から検討する。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国の社会経済と国際化の実態分析を通して、中国と日本および他の東アジア諸国との経済、ビジネスにおける競争、協力関係を検討し、国際的に活躍できる人材の育成を目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
知識理解、思考判断、関心・意欲、態度、 出席回数、授業態度、レポートなど					
<b>教科書</b>					
中国の大衆消費社会／李 海峰:ミネルヴァ書房, 2004					
<b>参考書</b>					
アジア経済読本／渡辺利夫:東洋経済新報社, 2003					
<b>メッセージ</b>					
東アジア社会の変化を分析し、日本経済の今後を考えましょう、					
<b>連絡先</b>					
学務係					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室にいる時、いつでもよろしい、					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031130008
開設科目名	中国経済論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	陳 建平			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>1970年代末から約30年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的に良好なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間にわたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ30年近くの中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期の関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期の関係を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国の抱えている諸問題について、自分なりの考えを持ち、意見を述べる事が出来る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国関連の出来事について、関心を持つ。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に出席し、課題にまじめに取り組む。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席、課題レポート、期末試験を総合して評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>中国経済論／加藤弘之・上原一慶:ミネルヴァ書房, 2004</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>よくノートを取り、必ず整理しておくこと。また、メディア等における中国関係の情報にも関心を持つこと。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031130009
<b>開設科目名</b>	中国経済事情			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	李 海峰			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国の高度経済成長が 20 数年も持続され、これまでに先進国に見られなかった現象である。1990 年代まで「世界の工場」とされていたが、21 世紀に急速に「世界の市場」へと変化した。中国経済の改革、社会主義市場の発展について、理論的に、歴史的に分析する。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国の市場経済発展事情の分析を通して、経済理論や経済社会への知見を深める一方、現在の中国経済とどう付き合っていくのか、日中経済関係の発展にも役に立つことを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業態度、レポートなど					
<b>教科書</b>					
図説中国経済／渡辺利夫:東洋経済新報社, 2000 現代中国の流通と社会／田中, など:ミネルヴァ書房, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
経済社会現象を通して、経済理論を考えよう、					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室にいる時、いつでもよろしい、					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031130010
<b>開設科目名</b>	中国経済論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>	(旧)			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	陳 建平			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>1970年代末から約30年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的に良好なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間にわたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ30年近くの中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期の関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期の関係を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 中国の抱えている諸問題について、自分なりの考えを持ち、意見を述べる事が出来る。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 中国関連の出来事について、関心を持つ。</p> <p><b>態度の観点:</b> 授業に出席し、課題にまじめに取り組む。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席、課題レポート、期末試験を総合して評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>中国経済論／加藤弘之・上原一慶:ミネルヴァ書房, 2004</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>よくノートを取り、必ず整理しておくこと。また、メディア等における中国関係の情報にも関心を持つこと。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140001
<b>開設科目名</b>	法学 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	a			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	上杉 信敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代社会においては一人ひとりが自立し、尊重されつつまた多くの人が交わり、互いに関係しあいながら生活している。そうした中でそのような営みもルールに従って行われている。個人の生活、社会での生活、公的関係での生活などにおけるの典型的な領域に関するいろいろな法について知り、見ていくことを通じて法と社会の関係に関する事への理解や今後の社会実践に関する初歩的なことについて考えていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
1、社会における生活に関するさまざまな領域における法について知り、考える。 2、他の社会諸科学と比べての法の世界についての特徴や問題状況を知り考える。 3、社会人として生活していくうえでの社会的常識の重要な要素について一定の理解をする出発点を作る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の成績を決定打とする。さらに出席を毎回取り出席点も加味する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
現代社会について理解し、生活するうえでのいろいろな領域のルールについて考えていきましょう。					
<b>連絡先</b>					
内線(5588)、 e-mail:uesn@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031140002
開設科目名	法学 I			単位	2 単位
対象学生	b			学年	～
担当教員	土生 英里			区分	
<b>授業の概要</b>					
この講義は、法律の専門科目を学ぶために必要不可欠な法律に関する基本的な用語・概念を理解するとともに、社会においてどのような法律が存在し、機能するかを学ぶことにより、教養としての法律学(経済社会における法的問題に対する処理能力)の基礎を学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
法学の基本的な考え方、概念、実定法の体系等について理解すること、および一般社会で使われている基礎的な法律用語の習得を目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 法学の基礎知識の習得					
<b>思考・判断の観点:</b> 法的思考および問題処理能力の滋養					
<b>関心・意欲の観点:</b> 社会に生起する法律問題を的確に把握する能力					
<b>態度の観点:</b> 日常生活の中の法律行為を認識する					
<b>技能・表現の観点:</b> 法学の世界に特有の専門用語のうち、基本的なものを理解する					
<b>その他の観点:</b> 自らの法的存在を認知する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、小テスト、期末試験の成績を総合的に評価します。期末試験は各回の講義内容から必ず1問出題します。5 回以上欠席した学生は、事故、病気、忌引き等、やむを得ない事情についてしかるべき書類(診断書、理由書)を提出した場合を除いて、期末試験の受験を認めません。					
<b>教科書</b>					
現代法学入門(第4版)／伊藤正巳・加藤一郎編:有斐閣双書, 2008 ポケット六法2009／管野和夫、他編:有斐閣, 2008					
<b>参考書</b>					
図解による法律用語辞典:自由国民社, 2006					
<b>メッセージ</b>					
法律は人が生まれてから死ぬまで、生活に密着して存在しています。日常生活の中で意識されない法の存在を、講義を通して再認識するよう、好奇心を持って勉強して下さい。					
<b>連絡先</b>					
e.habu@yamaguchi-u.ac.jp 経済学部 A 棟 4F					
<b>オフィスアワー</b>					
月～水 講義・ゼミが入っていない時間					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140003
<b>開設科目名</b>	法学 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	c			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	石 龍潭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>私達は国家や社会の一員として生活している。一人一人の人間は自由でなければならないが、社会生活への責任も果たさなければならない。法はこのような人間社会の調整役を行ない、一定のルールを定めて円滑な社会生活を可能にしている。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>本講義は、「法とは何か」といったことから始めて、社会政策や個人の生活がどのような法的枠組みの下に営まれているのかについて概観し、現代社会における法のあり方を大まかにつかんでもらうための講義である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
一緒に頑張りましょう。					
<b>連絡先</b>					
質問等のある人は、私の研究室に来てください。(経済学部A棟408室)					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031140004
開設科目名	憲法 I			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	梶原 健佑			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義では憲法学のうち、総論と統治機構論を扱う。</p> <p>憲法総論とは、憲法とはいかなる法であるか、近代立憲主義思想とは何か等を扱い、統治機構論は国会・内閣・裁判所および地方公共団体の活動を枠づけるルールを学ぶ領域である。実態に即して検討する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
立憲主義・権力分立・議院内閣制・司法審査制等の基礎的概念の意味を理解し、「自由」と「民主」が究極的のところでは緊張関係に立つことを知る。政治・社会のニュースを憲法的に捉え直す視座を得る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 憲法の基本的概念の意味を、歴史的な観点や比較法の観点をふまえて理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 得られた知識を、具体的事例に応用し分析することができる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 内なる知識・思索を、他人に分かり易くアウトプットすることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験の成績で評価する。試験の形式や救済策等は初回講義時にアナウンスする。</p> <p>なお、受講態度を減点要素とすることもありうるので注意されたい。</p>					
<b>教科書</b>					
憲法〔第四版〕／芦部信喜(高橋和之補訂)：岩波書店，2007					
<b>参考書</b>					
憲法1 国制クラシック〔第二版〕／阪本昌成：有信堂，2004					
<b>メッセージ</b>					
日常の政治・社会のニュースに関心のある学生の履修を望みます。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140005
<b>開設科目名</b>	民法 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	三間地 光宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
契約法の基礎を講義する。債権各論中の契約総論・各論の学習が中心となるが、法律行為(民法総則)や債務不履行(債権総論)にもふれる。					
<b>授業の一般目標</b>					
契約法の基礎の修得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 契約法に関する基礎的な知識を修得する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。なお私語などにより他の受講生の学習を妨げる者については期末試験の受験を認めないことがある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
連絡用メールアドレスは第一回の授業の際に配付するプリントに記載。					
<b>オフィスアワー</b>					
未定。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140006
<b>開設科目名</b>	民法Ⅱ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	油納 健一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
物権法の基本を講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
学生諸君が物権法の規定と各問題についての判例・通説を理解すること、知識だけでなく法的に考える能力を身につけることの2点である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と期末試験による。					
3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また病気や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。					
なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。					
学期末試験は、事例論述式の問題を中心とし、講義に出席しない者には合格できない内容(友達から借りたノートを見て勉強しても合格できない内容)にする。					
試験の持込は認めない。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yuno@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
在室中は急用がある場合を除きいつでも相談に応じる。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031140007
開設科目名	民法V			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	藪本 知二			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>家族法では、市民社会の基礎法である民法の第4編・第5編相続および家事事件の紛争解決手続に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。講義では、法解釈が中心となるが、できる限り法社会学的観点や比較法的観点をとり入れる。また、法の抽象的・理論的な知識が具体的な問題解決にどのようにつながるかを理解するために、また法的思考に慣れ親しむために、随時、問題を提起し、それに対する解答を求める。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>親族法および相続法ならびに家事事件の紛争解決手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、家事事件の解決への法的過程を理解する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 家族法とは何かを説明することができる。親族法および相続法ならびに家事事件の紛争解決手続に関する概要および基礎概念を説明することができる。</p>					
<p><b>思考・判断の観点:</b> 具体的な説例に対して法解釈により結論を導き出すことができる。また、法律的に説明することができる。</p>					
<p><b>関心・意欲の観点:</b> 現代社会における家族法の課題を見出し、考えることができる。</p>					
<p><b>態度の観点:</b> 学説および判例を読み込み、自分の頭で考えることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験を重視するが、授業中での小テストや質問に対する応答も評価の対象とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>民法IV補訂版／内田貴:東京大学出版会          家族法第2版／二宮周平:新世社</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140008
<b>開設科目名</b>	刑法総論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	安里 全勝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
刑法総論はどのような内容を持つかを理解して貰う。刑法の意義、性質、機能、犯罪の成立要件、構成要件論、違法論、責任論、共犯論、刑罰論の順に考察していく。					
<b>授業の一般目標</b>					
刑法総論の内容を考察することにより、刑法総論の学問的体系を理解して貰う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 刑法総論の内容について理解して貰う。刑法総論がどのような学問的体系を持つかを理解して貰う。					
<b>思考・判断の観点:</b> 法的思考という観点から、刑法総論の具体的事案を考察し、刑法総論が具体的事案の解決にどのように適用されているかを見ていく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験、レポート等、出席を参考。					
<b>教科書</b>					
刑法総論／安里全勝:成文堂, 2009					
<b>参考書</b>					
演習ノート刑法総論[全訂第3版]／斎藤誠二編:法学書院, 2008					
<b>メッセージ</b>					
予習、復習をして欲しい。 毎回出席すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140009
<b>開設科目名</b>	商法 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	吉川 信将			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
最近の商法の改正も踏まえながら、商法総則・商行為につき、できるだけ平易に解説を加えていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
企業活動関連法規における商法総則・商行為法の位置づけを理解し、会社法や商取引法を学ぶ上での基礎知識を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 「営利性・取引の安全」といった観点から、商法が民法とはどう異なっているかを理解するとともに、商法総則・商行為法で用いられている基本的用語の意味を正しく把握する。					
<b>態度の観点:</b> 事前に当日の講義範囲につき、教科書に目を通してから講義に臨む姿勢を身に付ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として定期試験により評価する。ただし、他の受講者に迷惑を及ぼす者、修学意欲の欠如した者は大きく減点するか、受講を中止させる。					
<b>教科書</b>					
リーガルマインド商法総則・商行為法第2版/弥永真生:有斐閣, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
真に商法総則・商行為法を学習する意欲のある学生の参加を期待する。出欠確認はしないが(ゆえに、出席点はなし)、受講態度の悪い者は減点するか、以後の受講・期末試験受験を認めないことがある。また、座席は座席番号の付された席のみ着席可とし、前方の座席が埋まらない限り、後方の座席は使用しないものとする(座席番号の付された席が満席となった場合のみ前方の座席から順に、座席番号の付されていない席への着席を認める。)					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟413研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日12:50～14:20					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140010
<b>開設科目名</b>	商法Ⅲ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中村 美紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義は2部構成になっています。第1部では、有価証券の一種である手形および小切手を規制する手形法および小切手法を取り扱います。その中でも日本で重要な地位を占める約束手形を中心に据えます。手形および小切手は企業取引の決済手段であり企業活動に重要な制度ですが、近年、これらを通る大きな紛争も目立たなくなってきたと言われていいます。その重要性の減少があるのかもしれませんが、しかしながら、依然として手形や小切手は取引界で発行されていますし、その基礎知識の修得は企業実務では避けて通れないことでしょう。第1部では、技術的な性格から複雑な法律関係が発生する手形および小切手について、その法制度の仕組みおよび実際の働きについて概説します。</p> <p>第2部では、同じく有価証券である、株券、新株予約権証券、社債券について、会社法の同分野を取り扱います。それらの法制度の意義および実際の働きについて概説します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>受講生が有価証券法制度の仕組みおよび実際の働きについて理解し、手形・小切手・株券・新株予約権・社債をめぐる経済的状況を把握し、法解釈学のエッセンスにも接することを目標とします。受講生の理解度に合わせた進度を設定し、双方向の授業を目指すつもりです。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 手形・小切手法の条文構造が分かるようになる。 手形・小切手の法制度の仕組みが分かるようになる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 手形・小切手の技術的な性格が分かるようになる。 手形・小切手の取引社会での位置づけが分かるようになる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 例示した模範的解答に近づこうと思うようになる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 遅刻・無断欠席をしなくなる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 答案の作り方が分かるようになる。</p> <p><b>その他の観点:</b> 授業中の私語をしなくなる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験の評価割合は70%(講義回数の70%以上の出席者に期末試験受験を認める)、コメントシート(=まとめ問題の解答および出席)の評価割合は30%(ボーナス加算あり)。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>手形法・小切手法―基礎と展開―[第2版]/末永敏和:中央経済社 テキストブック会社法/末永敏和:中央経済社</p>					
<b>参考書</b>					
<p>手形小切手判例百選[第6版]/落合=神田[編]:有斐閣,2004 会社法判例百選 /江頭憲治郎他[編]:有斐閣,2006</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>2009年度版の六法あるいは少なくとも会社法成立後の六法(2006年度版以降)必携です。小型のもので構いません。 出席回数は自己管理で把握してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>経済学部A棟319研究室。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>火曜日 12:50—14:20</p>					

<b>開設期</b>	前期集中	<b>曜日時限</b>	集中	<b>時間割コード</b>	1031140011
<b>開設科目名</b>	経済法			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	東條 吉純			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>独占禁止法(独禁法)による主要な規律について、法学を専攻しない学生も含めた受講生一般を対象として講義する。そのため、受講生の専攻分野を確認した上で、授業の冒頭の1, 2回を「法学入門」的な講義にあてることもあり得る。また、独占禁止法による規制については、なるべく具体的な事例を紹介する形で講義を行う予定である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>独禁法(「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」)によって、我が国社会において、事業者の経済活動がどのように規制され、公正かつ自由な競争が保護されているのか、我が国社会における同法の意義と役割を理解すること。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>独禁法によって規制される主要な違反行為類型及び規律の概要について理解を得る。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>どのような行為が独禁法の禁止にかかるのか、具体的なイメージを形作る。法解釈の技法の基本的理解を得る。また、独禁法規制が保護すべき利益(保護法益)の意味を理解する。</p> <p><b>態度の観点:</b>クラス規模次第で、できる限り双方向の質疑応答等を取り入れ、これを平常点として成績評価に加点する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>試験 100%。</p> <p>ただし、授業時間中の発言等をボーナス加点して成績評価において考慮する場合がある。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>独禁法講義(第3版)／白石忠志:有斐閣, 2005</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期集中	曜日時限	集中	時間割コード	1031140012
開設科目名	知的財産権法			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	永野 周志			区分	
<b>授業の概要</b>					
知的財産権は、特許権、著作権、営業秘密に係る権利、商標権等の各権利からなる。本授業は、経済学(特に、いわゆる「情報の経済理論」と法律学との双方の観点から、(a)これらの知的財産権が経済活動に必要とされる理由と(b)各知的財産権の具体的内容につき、体系的に説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
学習者は、特許権や著作権等の各知的財産権の仕組み(知的財産権によって保護される情報の範囲、知的財産権が成立するために必要な条件、知的財産権によって規制される行為、知的財産権による規制がもたらす結果)を正確に理解すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 全ての法律制度がそうであるように、知的財産権制度も、例えば、「発明」とか「著作物」(著作権によって保護される情報の範囲についての概念)、「新規性」とか「進歩性」あるいは「思想又は感情の創作的表現」(知的財産権が成立するために必要な条件についての概念)等の様々な概念を構成要素として、各構成要素が相互に関係づけられている社会的システムである。学習者は、本授業を通じて、(a)知的財産権制度を各概念から構成されているシステムであることと当該各概念の内容を正確に説明することと、(b)当該各概念の相互関係を関係づけることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 知的財産権制度は、「資源の効率的配分」を価値判断の基準とした場合における情報の経済活動における役割・機能についての経済学の評価に基づき、情報の生産や経済活動が好ましく行われるための条件(技術開発が促進されたり、内容が豊かな著作物が創作されるための条件)を確保・整備するためのものとして制度設計されており、また、そのように制度設計されなければならない。学習者は、本授業を通じて、以上のとおりの制度設計の前提条件を出発点として、設計されるべき制度の内容(法律学においては、合理的な法解釈の結論)を導き出す論理的な思考を行うことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 知的財産権制度は、法律、経済、経営及び技術という社会科学分野と自然科学分野とが総合された領域の問題である。知的財産権制度を理解することにより、学習者は、トータルな観点から社会全体のありかた(公正な競争、企業の成長、技術開発等のありかた)について関心をもつことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験を1回、実施する。成績の評価は、試験による評価のみとし、試験による評価100%を、(a)知識・理解の観点からの評価に70%、(b)思考・判断の観点からの評価に20%、(c)関心・意欲の観点からの評価に10%に配分して、評価を行う。 なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。					
<b>教科書</b>					
営業秘密と競争禁止義務の法務/永野周志:ぎょうせい, 2008					
<b>参考書</b>					
特許権侵害判断認定基準/永野周志:ぎょうせい, 2006					
よくわかる地域ブランド/永野周志:ぎょうせい, 2006					
職務発明の理論と実務/永野周志:ぎょうせい, 2004					
<b>メッセージ</b>					
授業では、知的財産権についての多数の裁判例を取り扱うので、最高裁HP「知的財産権裁判例集」にアクセスして内容を熟読してもらいたい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031140013
開設科目名	社会法 I			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	柳澤 旭			区分	
<b>授業の概要</b>					
人が働いて生活する上での基本的な法律である労働関係法と社会保障法について、日常の具体的な問題を通して理解する。					
<b>授業の一般目標</b>					
日常の新聞記事にある労働関係や社会保障関係の問題が自分できちんと理解でき、それを他の人にも説明できるようになることが目標である。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 具体的な裁判事例が分かること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 他の問題にも応用できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 新聞記事を読み自分で六法を開けて調べる。					
<b>態度の観点:</b> きちんと講義を聴いて自分で納得するまで考えること。安易に分かったり分からないと言わないこと。					
<b>技能・表現の観点:</b> 理解したことを言葉で表現できること。口頭でも文章でも。					
<b>その他の観点:</b> 法律問題が身近に感じ面白くなるようにすること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義の理解度と理解したことを口頭と文章で表現できることが基本である。					
<b>教科書</b>					
労働法エッセンシャル(第5版)／菊池・清正:有斐閣, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140014
<b>開設科目名</b>	行政法 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	上杉 信敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代社会はさまざまな人々がそれぞれの要望や利害を持って生活している。高度な経済社会において人々の生活に関しては経済、社会レベルにおける固有の事柄だけではなく、国家や公的機関による活動も重要な役割を占めている。本科目においてはそのような公的機関による活動に関しての法的諸状況、諸原理を見ることがもくろまれている。					
<b>授業の一般目標</b>					
現代社会における社会経済と公行政の関係を見ながら、その際、特に法的側面を中心に考察する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末の試験の成績を決定打とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
行政(国や自治体)の活動に注意しさらにその法的諸側面について考えていきましょう。					
<b>連絡先</b>					
内線(5588)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140015
<b>開設科目名</b>	税法Ⅱ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	安住 修一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>所得税、消費税とともに国税の主要な税である法人の所得に対して課税される法人税を学習する。</p> <p>法人税法の理解において基本事項である納税義務者(誰に課税されるか)、課税対象となる所得(課税標準)とは何か、所得計算の基となる益金・損金の考え方及び法人税額の算出方法、法人税の申告・納付等について各規定の趣旨等を理解しつつ学習する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
法人税法の基礎的知識の習得					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席20%+テスト80%					
<b>教科書</b>					
やさしい法人税:大蔵財務協会, 20年度					
<b>参考書</b>					
図説日本の税制:財経詳報社, 平成20					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
(TEL)083-933-5580					
(メール)azumi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 10時30分～12時					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140016
<b>開設科目名</b>	政治学 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	渡邊 幹雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>政治とはなにか。人間の生活において、政治という営みはどのような意味をもつのか、を平明に説明してゆく。政治を学問的に理解することをめざしますので、新聞紙面で学習できるようなことについて講義する予定はありません。政治家になれるとか、次はだれが総理大臣になるとか、次の選挙ではどの政党が勝つか、そのような知識を期待している人には向かない授業です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>人間にとって政治とはなんなのか。政治を学問的に考えるとどういうことなのかを理解できるようにすることが、この授業の一般的な目標です。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績はすべて期末試験によって決定します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>授業終了後の一定時間ならば、いつでも結構です。</p>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031140017
<b>開設科目名</b>	民法 I b			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	b			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	平中 貫一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
契約法の応用・発展部分を講義する。					
<b>授業の一般目標</b>					
契約法の古典的・現代的内容を体系的に学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150001
開設科目名	観光概論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	朝水 宗彦			区分	
<b>授業の概要</b>					
本講義では他の観光関連の専門科目を受講するために必要である基礎的な知識を身につける。そのため、講義の前半部で観光を学ぶために最低限必要な定義や各国における研究動向、歴史的な変遷などを扱った後、後半部では現代における観光産業の発展や観光関連の法整備、観光が社会的・文化的に及ぼす影響の諸事例を中心に学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
前半部で観光に関する基礎知識を学び、後半部で「観光経済分析」および「観光コミュニケーション分析」の両専攻に関する各科目を学ぶための基礎的な知識と思考力を身につけることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 観光に関する基本的な概念や歴史的背景、関連産業との結びつき、社会に及ぼす影響等について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 観光に関する諸現象のうち、特に「観光経済分析」および「観光コミュニケーション分析」に関する分野を包括的に考察できるようにする。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 本講義内での基礎的事項を足がかりに、各自で観光に関する問題設定を行い、初歩的な調査研究が行えるようにする。					
<b>態度の観点:</b> 課題の提出期限を守り、積極的に授業に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 課題に対する確かつ簡潔な記述を試みる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席15点、中間課題15点、期末試験70点で評価する。出席は出席カードを用いるが、配布後に遅刻した学生の出席は無効とする。中間課題はレポート形式で、最低限3タイトルの文献調査を行う。期末試験は記述式なので試験前に十分復習を行う。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
観光と文化／エドワード・M. ブルーナー:学文社, 2007					
観光学大事典／香川眞編:木楽舎, 2007					
観光経済学入門／ジェームズ・マック:日本評論社, 2005					
観光学入門／岡本信之編:有斐閣, 2001					
観光事業論講義／安村克己編:くんぶる, 2005					
<b>メッセージ</b>					
配布物が多いのでA4サイズのファイルを持参することが望ましい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150002
開設科目名	観光のための経済統計学			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	朝日 幸代			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>観光のための経済政策立案には、観光産業活動の実態やそれを取り巻く経済の状況、新たな観光産業への取り組みを定量的に評価することが重要である。ここでは、観光関連データや地域経済データの特性と統計学的分析手法を学ぶことによって、観光のための経済政策に提供できる数値情報の作成する能力を育成することを目的としている。国、都道府県、市町村で公表されている数値情報を扱うだけでなく、アンケート調査の実施方法も取り上げる。この講義は実習形式で行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>代表的な経済、観光のデータの特徴、統計的処理について理解している。          実際にそれらのデータを入手し、分析に活用できる。          アンケート調査を行う方法、取りまとめ方、さらにアンケート調査結果に対し、正しく理解している。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 公表されている経済データ、観光データにどのようなものがあるかを知っている。          経済データ、観光データの特徴、データの取り方を理解している。  <b>思考・判断の観点:</b> 実際の経済や観光に関するテーマにそった統計データを選択することができる。  <b>関心・意欲の観点:</b> 自らが関心のあるテーマについて、本講義の内容から得られた統計的な知識を活用できる。  <b>態度の観点:</b> 実習授業に積極的に、粘り強く参加する。  <b>技能・表現の観点:</b> コンピュータ操作、特にマイクロソフト Excel を利用して、講義で出された課題を即座に作業を進めることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義中に何回か出す課題のレポート(評価比率 40%)と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート(評価比率 60%)によって評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>マイクロソフト EXCEL を頻繁に利用している経験をもっていることが望ましい。この講義は実習講義ですので、積極的に課題に取り組んでいただきたいと思えます。また欠席をすると、次回の講義に参加しても、作業内容が理解できないまたは、当日の作業にすぐ参加できなことも極めて多いことから、出席を必ずお願いします。</p>					
<b>連絡先</b>					
asahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期集中	<b>曜日時限</b>	集中	<b>時間割コード</b>	1031150003
<b>開設科目名</b>	観光サテライト・アカウンティング実務			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	塩谷 英生			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
UNWTO(国連世界観光機関)を中心に普及が促進されている観光経済統計の国際基準TSA(観光サテライトアカウント)について、その概念と編纂についての基礎的知識を紹介する。また、観光統計の体系的な理解を促進するため、各種観光統計を用いたプレゼンテーション資料作成等の実習を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
TSAの概念を理解するとともに、観光統計・経済統計に関わる体系的で広範な知識を習得し、統計データの読解力の向上、及びその取扱い方法について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 統計データについての体系的な知識を得る。2. 統計データの取扱いの留意点を知る					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 統計データや図表を読み、観光経済の読解力を高める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 観光統計とその背景にある観光市場の変化についての関心を高める。					
<b>態度の観点:</b> 1. 観光産業の地域経済における貢献度を踏まえた上で、観光のあり方について考えることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 観光統計を元に図表や指標を作成し自分の考え方を伝える技法を学ぶ。2. 観光統計に接した時に対象の定義の把握や推計値の癖を見抜く姿勢を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
評価割合は定期試験40%、受講者の発表内容40%、授業態度20%(出席は欠格条件)。 定期試験では主に「知識・理解」「思考・判断」の観点から、受講者の発表内容については、「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の観点から評価を行う。					
<b>教科書</b>					
2008 Tourism Satellite Account: Recommended Methodological Framework/UNWTO 他, 2008					
<b>参考書</b>					
我が国の旅行観光産業の経済効果に関する調査研究Ⅷ/国土交通省, 2008					
<b>メッセージ</b>					
経済学や観光について若干の予備知識のある方が望ましいと思います。なお、授業の計画については多少の変更があり得ます。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150004
開設科目名	観光管理会計			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	篠原 淳			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150005
<b>開設科目名</b>	エコ・ツーリズム論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	陳 禮俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>エコツーリズムとは、自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかたである。自然の成り立ちや歴史・文化が持つ深い意味をわかりやすく解説し、来訪者に大きな感動をもたらす。それが経済行為として成り立つ。そのことが、地域の自然環境や歴史文化を尊重し、守っていく行動にもつながり、成功すれば、環境と経済の好循環の一例となる。もともと途上国の自然保護のための資金調達手法として取り入れられたエコツーリズムの考え方は、持続可能な観光の一つの領域として先進国でも展開されており、2002年を国連がエコツーリズム年とするなど、国際的にも定着した用語(ecotourism)となっている。エコツーリズムの実現のためには、旅行者や観光事業者だけでなく、地元住民や地域の様々な産業を含む、地域における包括的、横断的な取り組みが必要である。エコツーリズムの推進は、「環境」「観光」「地域」が深い関わりをもちながら取り組む社会のしくみづくりである。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>エコツーリズムにおける実務と最新情報の把握を意図する。多岐にわたるテーマに関して事例を通じた理解を試みる。基本的問題から現代的な課題にも考察をしていきたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価は基本的に、出席(40%)、課題レポート(30%)と期末試験(30%)で行う。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>研究室:経済学部A棟  電 話:083-933-5526  E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150006
開設科目名	観光コミュニケーション			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	宮崎 充保			区分	
<b>授業の概要</b>					
この科目の基本は「コミュニケーション」です。それに「観光」が冠されています。この授業では、コミュニケーションの基本と実践を学習して、それが、観光に関するコミュニケーションであることを学びます。「観光」は物見遊山で見聞を広めたり日常から脱却して非日常を経験するなかで自己回復を図ることを考えがらですが、これは「観光する＝訪れる」側の論理です。楽しく思い出深く、土地の人情まで触れることができれば満点でしょう。しかし、「観光させる＝受け入れる」側の論理を考えなければなりません。そこには学科の理念にあるとおり、“自国文化(＝地元文化)と異文化理解、まちづくり、景観や環境、観光産業(ホスピタリティ)”など、考えたら際限なく、言語コミュニケーションを支えとして人と文化が出会うことが基本になります。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチボールにたとえられる“コミュニケーション”することは何か、その基本と基礎を学び、それを実践へ向ける。</li> <li>・この“コミュニケーション”に観光を加えたとき、コミュニケーションの形態はどうなるか、それを学び実践へ向ける。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 言語に関する諸相を理解し、実践態勢へ向ける					
地域文化に関する知識の収集をして理解する					
<b>思考・判断の観点:</b> 異文化(外国文化とは限らない)の人間と、ある設定された状況のもとで、どのようなコミュニケーション運営をしたらよいかの判断力をつける					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分がないもの、自分が知らないものへの高い関心を持つ					
自分にあるもの、自分が知っているものへの愛着と尊敬を持つ					
<b>態度の観点:</b> 関心、愛着、尊敬の次元をさらに高める					
そのために、調査や探求を日常から心がける					
<b>技能・表現の観点:</b> 要領を得た、まとまりのある言語表現ができるようになる					
<b>その他の観点:</b> 人間、土地にまつわる諸相を好きになる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席を重視する。欠席を4回以上すると不合格になる。</li> <li>以下の5点を最も重視して評価する。</li> <li>・毎回の課題レポート</li> <li>・プレゼンテーションのためのフィールドワーク報告</li> <li>・プレゼンテーションのための必要な形式のハンドアウト</li> <li>・プレゼンテーション(パワーポイント使用)</li> <li>・プレゼンテーションに対するアセスメント</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
読書力/齋藤孝:岩波書店(岩波新書)					
<b>メッセージ</b>					
【重要】第1回目の授業で、参考書に挙げた『読書力』を読んで、「私の読書論」を1600-2000字で書いたレポートを提出する。A4用紙にワープロ書き。このレポートを以って受講票提出とする。第1回目の授業の出欠チェックはこれで行う。(レポートは感想文を求めているのではなく、読んだ本をもとにして、自分の読書「論」について筋道を立てて論述することを求める。評価語を付ける。)					
【重要】この授業のために、“A4”サイズの400字詰めの原稿用紙1冊を用意すること。以後の課題レポートはすべてこの原稿用紙を利用する。最終レポートはワープロ書きとする。このことについては、授業の中で説明する。					
<b>連絡先</b>					
mmiy@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
空いた時間であればオフィスアワーにします。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150007
開設科目名	異文化コミュニケーション論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	鴨川 啓信, TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業は、二名の教員により、主としてコミュニケーション理論と異文化表象・理解について講義・演習を行う。</p> <p>鴨川担当分は、旅行記やエッセイ等、異文化との接触を描いた文章や映像を受容し、そこから異文化理解に関する問題を考察する。</p> <p>武本担当の授業の狙いは、他文化との言語的や非言語的コミュニケーション方式の違いや、その結果生じてくるコミュニケーションの問題について考えることである。30分以内の講義の後、他の学生と組んで日本語や英語で話しあうことによって、示されている文化差の実感を図る。ロールプレーゲームのような実験によって、異文化体験をさせる。インターネットを通して、オンライン実験や異文化人と交流する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>鴨川担当授業の目標:</p> <p>異文化理解やその障害の例を知ること。また、妨げの要因を自分なりに特定し、障害を抑える術を考案することを通して、この主題についての理解を深めること。</p> <p>武本担当授業の目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対人コミュニケーションにおける文化の差をより意識する。</li> <li>2) 日本文化や他文化の世界観の違いを意識する。</li> <li>3) 日本人のアイデンティティーやコミュニケーションの特徴を意識する。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 異文化コミュニケーションの諸理論についての知識(武本担当分)</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 文化の違いや異文化コミュニケーション問題について英語で話せる能力(武本担当分)</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>鴨川担当授業では、発表等での授業参加状況・課題の提出状況、レポートで評価する。</p> <p>武本担当授業では、学期末試験50%、カード得点評価法による平常点50%</p> <p>授業全体では、上記の評価を総合して成績を出す。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「異文化コミュニケーション論」は実習的な科目でもあるので、出席は重要。(武本)					
<b>連絡先</b>					
<p>武本: コースHPは yufoe.com から。いつでもチャットルーム chatoru-mu.com や timothy@nihonbunka.com まで</p> <p>鴨川: e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150008
<b>開設科目名</b>	情報メディア論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	MARC LOHR			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業の目的は、国際的にメディアの市場とメディア自体の特徴を分析することである。					
<b>授業の一般目標</b>					
受講者のメディア・リテラシー・レベルを高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> マス・メディアの仕組みを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> それぞれのマスメディアの特徴と可能性について判断が出来る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> もっと積極的にマス・メディアの「素顔」を調べる。					
<b>態度の観点:</b> 日ごろ、マス・メディアの情報行動を疑問視する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テストを講義期間中に5回実施(計50%)。期末試験(50%)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150009
開設科目名	観光プロトコール			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀 武陽			区分	
<b>授業の概要</b>					
観光産業はホスピタリティー産業であり、その根本にあるのは”おもてなし”のこころ。そしてそれを”かたち”にするのが、プロトコール(国際儀礼の基本)です。この授業では、プロトコールの理論と実際を学び、観光産業でそれがどのように活かされているのかを学びます。同時にそれは将来、国際社会に出て活躍する学生のマナーやエチケットにもつながります。					
<b>授業の一般目標</b>					
観光産業におけるプロトコールの必要性を理解し、国旗の取り扱い、席次、右方上位、序列(Rank conscious)などの基本原則を様々な状況において実践できるようにすることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 観光産業の基本である「接客」の基本にはホスピタリティーの基本原則があることを理解する。					
<b>態度の観点:</b> ルールを理解し、洗練されたマナーを身につける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
知識としての評価(期末テスト)はもちろんのこと、身につけているかどうかの実践面(授業の中)でも評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
国際儀礼に関する12章／外務省情報文化局:世界の動き社, 1984					
国際ビジネスのためのプロトコール／寺西千代子:有斐閣, 1985					
ビジネス・エチケット入門／日本能率協会編:日本能率協会, 1993					
<b>メッセージ</b>					
今やすべての局面で”国際化”は不可欠な要素となっています。個人の場合でもプロトコールの原則を活用しよう!					
<b>連絡先</b>					
kogatake@jupiter.ocn.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150010
開設科目名	リーディング(英語基礎強化)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	宮崎 充保			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>英語の文章を和訳を通さずに読めるようになるための「リーディングスキル」の学習を目的とします。もともと和訳が不要なのではありません。母語をわずかにインプットするだけで英語の文章の理解がうんと高まることもあります。しかし、500 年も 5 万年も生きるつもりなら、頻繁な和訳も“可なり”でしょう。</p> <p>単位が欲しい(これは教育ではありません)は別として、この授業の目標を2つに絞ります。A. 初読である程度の英語の文章理解のくせを付ける B. 在学中に1冊なりとも英語の原典を読む。どちらも人生の中ではたいへん貴重な経験です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語読解のスキル向上。</li> <li>・読解の speed と comprehension を高めるスキルを身につける。</li> <li>・和訳を通さずに初読で大筋をつかむようになる。</li> <li>・大筋をつかむ練習をしなから、詳細に関しても理解する(comprehend)するためのスキル向上。</li> <li>・原書を1冊読み通す。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 英語で書かれたものの読みを通して、英語の世界・英語で世界を知る。 speed reading と comprehension についてその関係と重要性を知る。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 大筋をつかむ。 必要な詳細を求める。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 「何のために英語」を学んでいるかの目的意識を明確にする。 原書に触れて、その冊数を重ね、新しく拓ける世界に目を向ける。</p> <p><b>態度の観点:</b> 外国語の学習は積み重ね以外に王道はないことを実践を通して知る。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 語彙力を増大する。 読んだものを人に伝えることによって、自分の理解の自己確認ができる。 断片的に用いられている英語を用いて内容の提示をする。</p> <p><b>その他の観点:</b> 和訳を通さない reading がどれほど面白いものかを知る。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席4回目で不合格(あるいは未履修)にする。</li> <li>・授業のアクティビティによるパフォーマンスを重視する(グループ編成をする場合がある)。</li> <li>・課題の成果を重視する。</li> <li>・日頃の積み重ねを重視するので定期試験は行わない。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
Reader's Ark: 20 Treasures of Effective Reading Techniques / Yuji Ushiro, et.al.: KINSEIDO, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
「何のために」英語をやるのか、これを真剣に自分に問いかけてください。ただ、会話ができるようになりたい、英語が読める・書けるようになりたい、TOEICでハイスコアを得たい、では目的が少しもはっきりしません。“何をしたいから”そんなことができるようになりたいのかを考えてください。					
<b>連絡先</b>					
mmiy@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
空いた時間であればオフィスアワーにします。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150011
<b>開設科目名</b>	リスニング(英語基礎強化)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>映画を教材としてリスニングの訓練をする。</p> <p>映画“Music of the Heart”のビデオを用いて、実際の会話(に極めて近いもの)の聞き取り訓練を行う。また、その脚本を利用して語彙の増強も図る。</p> <p>授業内でのリスニング訓練の実践だけでなく、映画のような身近な素材を用いた訓練法を学び、この授業を終えた後もリスニング訓練を継続的に続ける習慣を身に付けることも目標とする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
英語リスニング能力の向上。リスニング訓練法の習得。リスニング習慣の形成。語彙の増強。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業への参加度+小テスト+定期試験の合計で評価する。					
<b>教科書</b>					
ミュージック・オブ・ハート ー映画・音楽・リスニングー/沖野泰子 他:英宝社, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150012
<b>開設科目名</b>	文法(英語基礎強化)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
英語と毎日、接しながらも、大学入学以降、いわゆる文法的知識がだんだん曖昧な状態になっている方も多いと思います。中高生の方がはるかに正確に知っているというような状況です。この授業では曖昧な知識をいくらかでも確固とした状態に正すことを講義・演習を通じて行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
英語における文法項目のうち、苦手な項目をできるだけ少なくすること。この授業では3つの項目に絞って行います。その項目は、受講生のみなさんとの相談の上、決めます。					
いくらかの文法的な知識を確固とした状態にもっていくこと。					
知識を、脳に刻み込むことを目指す練習を行います。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 英文法が正確に理解できているか。					
<b>思考・判断の観点:</b> 基礎的な知識を複雑な文構造の理解等に活用できるか。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語を自ら発信する際に、英文法の知識をきちんと踏まえているかどうか。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業中の参加度、ならびに定期試験					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業後半でかなりマイナーな曲を取り上げますので、市販のミュージッククリップがありません。You Tube などでは、それでも観られますので、下宿等に、You Tube の視聴環境があるといいです。					
また、授業を休まないでください。理由があつての欠席は必ず、こちらに(事後的にでも)伝えてください。無届の欠席は、単位取得資格を失いますので、十分、気をつけてください。なお、正宗の授業(共通教育のも含めて)、過去に受講したことのある方は、授業内容の重複もあるためあまりお勧めしません。それでも受講の希望がある場合は、必ず事前に相談に来ること。					
<b>連絡先</b>					
経済学部内、研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
未定です。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150013
<b>開設科目名</b>	ビジネス英語会話			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	ALAN ROBERT CHRIST			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>English has many different contexts in which the skills needed in someways overlap and are in some ways unique. This class presents the study of English in a workplace setting for those students who see themselves in the future, using English on a daily basis at work.</p> <p>The language of instruction will be only English.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>Students will be able to converse in business situations, recognizing and using vocabulary which is consitant with the business environment. Students will be able to converse with others in manners that are appropriate to different work settings,including speaking to co-workers, with customers as well as to superiors within a company.</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Business-specific vocabulary must be internalized.					
<b>思考・判断の観点:</b> Conversational appropriateness must be utilized.					
<b>態度の観点:</b> Students are expected to be active participants in class.					
<b>技能・表現の観点:</b> Students will have to express themselves in exclusively English.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>Quizzes will be often given to assess the acquisition of vocabulary. Class participation will also be figured into the final grade as well as a final examination at the end of the term.</p> <p>Students absent for 3 class periods will automatically fail.</p>					
<b>教科書</b>					
Venture English At Work/Jim and Loan Arkenberg					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150014
開設科目名	TOEIC400			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	山根 和明			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>TOEICは難しい、面倒臭いと言われるが、本当は楽しく学べるもの。英語の歌で発音訓練をし、ペアで会話訓練をして、カセットプレーヤーをうまく活用し、リスニング問題の指導を行う。400レベルはTOEICでは入門レベルである。そのため、基本的な内容を重視して指導する。リスニングではパート1, 2にある程度時間をかける。リーディングでは特に基本的ボキャブラリーの習得に力点を置く。とくに私の授業では独特の家庭用カセットテープを配布することになる(1本200円かかる)。自宅にカセットテープをかけるプレーヤーがない場合はご両親やご祖父母にあらかじめおたずねしてお借りするとよい。それでもない場合は量販店で300円から4000円である。また、ヤフーのネットショッピングのオークションコーナーや、街の中古ショップに500円からあるので、再生機能だけあるものでよいので購入を進める。長い間のTOEIC指導でCDよりもカセットテープの効用を確信しているのでぜひ用意すること。これまでの受講生で良い成績を上げている人は全員この指示に従い、しかもカセットの効用を絶賛している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>各期に2回あるTOEIC学内団体テスト(IP)またはSP(公開テスト)を受験して400点以上を得点しなければ単位は出せないことになっている。授業では400点を取れる攻略法を指導するのはもちろんだが、英会話ができるように、また、英文メール、手紙、資料などが素早く読めるように指導する。楽しく学んで英語力をつける!これがこのクラスの目標であり特色である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> TOEICテスト400点を取るためのボキャブラリー力とリスニング力の養成  <b>関心・意欲の観点:</b> 英語を使って話したくなるように指導したい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>とにかく400点を期間中に獲得することが大前提。既に400点ある人は出席率(80%)のみ達成すれば良い。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>自作のプリント主体なのでテキストは不要</p>					
<b>参考書</b>					
<p>なし</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>成せば成る、成さねばならぬ何事も!指示通りやればだれでも目標は達成できる。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>yamane@poole.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>別に設けていないが、金曜日の昼休みはD-104にいるので相談のある人はどうぞ。</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150015
<b>開設科目名</b>	TOEFL STUDY			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	ALAN ROBERT CHRIST			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>The purpose of this class is to boost the test scores of students through the study of TOEFL which will be the focus of the class. Material specific to TOEFL, but also relevant to TOEIC will be studied, especially vocabulary and listening content.</p> <p>The class will be taught only in English.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
Students will be able to build their vocabulary and listening skills which are relevant to TOEFL and TOEIC tests.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> Students will be able to explain terms in easy to understand English					
<b>関心・意欲の観点:</b> Students will be able to communicate with others in English.					
<b>態度の観点:</b> Students will learn how to work in groups of students and not be shy about expressing themselves. ,					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Class participation 40%					
Homework 20%,					
Periodic Quizzes 20%					
Final Exam 20%					
Students who are absent for 5 class periods will automatically fail.					
<b>教科書</b>					
The TOEFL Test Assistant, M. Broukal, Heinle and Heinle, 1995					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150016
<b>開設科目名</b>	TOEIC600			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山根 和明			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>TOEICは難しい、面倒臭いとよく言われるが、本当は楽しく学べるもの。英語の歌で発音訓練をし、ペアで会話訓練をして、カセットプレーヤーをうまく活用し、リスニング問題の指導を行う。ただ、600点レベルとなると、適当に勉強していたのでは到達できない。自宅での独習が必須となる。そのために私の授業では独特の家庭用カセットテープを配布することになる(1本200円かかる)。自宅にカセットテープをかけるプレーヤーがない場合はご両親やご祖父母にあらかじめおたずねしてお借りするとよい。それでもない場合は量販店で300円から4000円である。また、ヤフーのネットショッピングのオークションコーナーや、街の中古ショップに500円からあるので、再生機能だけあるものでよいので購入を進める。長い間のTOEIC指導でCDよりもカセットテープの効用を確信しているのでぜひ用意すること。これまでの受講生で良い成績を上げている人は全員この指示に従い、しかもカセットの効用を絶賛している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>各期に2回あるTOEIC学内団体テスト(IP)またはSP(公開テスト)を受験して600点以上を得点しなければ単位は出せないことになっている。授業では600点を取れる攻略法を指導するのはもちろんだが、英会話ができるように、また、英文メール、手紙、資料などが素早く読めるように指導する。楽しく学んで英語力をつける!これがこのクラスの目標であり特色である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> TOEICテスト600点を取るためのボキャブラリー力とリスニング力の養成					
<b>関心・意欲の観点:</b> 英語を使って話したくなるように指導したい。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
とにかく600点を期間中に獲得することが大前提。既に600点ある人は出席率(80%)のみ達成すれば良い。					
<b>教科書</b>					
自作のプリント主体なのでテキストは不要					
<b>参考書</b>					
なし					
<b>メッセージ</b>					
成せば成る、成さねばならぬ何事も!指示通りやればだれでも目標は達成できる。					
<b>連絡先</b>					
yamane@poole.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
別に設けていないが、金曜日の昼休みはD-104にいるので相談のある人はどうぞ。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150017
<b>開設科目名</b>	韓国語 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	李 文相			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>まず、ハングルの仕組みを理解し、読み書きの練習をしながら基本文型を身につける。  視聴覚機材を活用し、韓国語の読み・書き・ヒアリングの早期達成を目指す。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>韓国語の固有文字であるハングルを正確に発音し、読み書きの力を養う。  また、韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ韓国人の考え方や文化について理解を深める。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 表音文字ハングルの成立要件と音韻規則を理解すること					
<b>思考・判断の観点:</b> 韓国語と日本語の類似点及び相違点を知ること					
<b>関心・意欲の観点:</b> 韓国文化に関心をもてること					
<b>態度の観点:</b> 出席および積極的な授業参加が必要					
<b>技能・表現の観点:</b> ハングルが書け、読みができること					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業時に行う小テストおよびレポート 60%、期末試験 40%					
<b>教科書</b>					
サランヘヨ！ハングルー初級から中級へー,李文相 共著,白帝社,2007 年/李文相 (共著):白帝社, 2009					
サランヘヨ！ハングルー 別冊 練習帳/李文相 (共著):白帝社, 2009					
<b>参考書</b>					
『ハングル読本—基礎から読解まで—』/李文相 (共著):李文相 (共著)					
<b>メッセージ</b>					
連携した授業を行うので関連科目「韓国語会話Ⅰ」を合わせて受講することが望ましい。韓国語と韓国文化に触れるチャンスをつかみましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150018
開設科目名	韓国語会話 I			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	李 文相			区分	
<b>授業の概要</b>					
まず、自己紹介からはじめ、日常生活に役立つやさしい韓国語が使えるようにする。授業では現在ノウルで使われている標準語会話を学び、ビデオ等の映像を活用して韓国の日常生活や風習なども理解できるようにする。					
<b>授業の一般目標</b>					
韓国語で自己紹介ができ、日常生活に役立つやさしい韓国語会話ができるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> よく使われる語彙を覚えてすぐに使えること					
<b>思考・判断の観点:</b> 日韓両国の風習や文化の違いを言葉で感ずること					
<b>関心・意欲の観点:</b> 韓国語や韓国人の考え方について興味をもつこと					
<b>態度の観点:</b> 出席・復習を怠らないこと					
<b>技能・表現の観点:</b> 自己紹介ができ、よく使われる単語で韓国語会話ができること					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末テスト 40%、宿題 20%、授業参加の積極性および発音・ヒアリング力 40%					
<b>教科書</b>					
『サランヘヨ ! ハングル 一初級から中級へー』/李文相(共著):白帝社, 2009					
『サランヘヨ ! ハングル 別冊 練習帳』/李文相(共著):白帝社, 2009					
<b>参考書</b>					
『ハングル読本-基礎から読解まで-』/李文相(共著):明石書店, 2004					
<b>メッセージ</b>					
連携して授業を行うので関連科目である「韓国語1」を合わせて受講することが望ましい。韓国語を話せるようになりましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031150019
開設科目名	ビジネス韓国語 I			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	桂 文姫			区分	
<b>授業の概要</b>					
本講義では、韓国語による「ビジネス会話」(いわゆる日常会話とは一味違う内容で構成されている)を中心に進めていきます。また韓国の経済・企業経営に関する時事問題の関連記事も読みながら、韓国語ビジネスレターや文化にも触れていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
韓国語でビジネス・コミュニケーション能力を身につけること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ビジネス会話(韓国語)が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語と異なる表現に触れ、物事に複眼的な考察ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ハングルを通じ韓国への関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 隣国への興味が実践行動に寄与できる(旅行・語学研修など)。					
<b>技能・表現の観点:</b> 韓国語によるビジネス会話の表現やビジネスレターの短文が作られる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験・小テスト・出席による総合評価。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
一段高いレベルの韓国語に挑戦できる絶好のチャンスです！					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150021
<b>開設科目名</b>	中国語(閲読Ⅰ)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	袁麗暉			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>共通教育で習得した中国語能力を基礎に、読解能力を養成する。</p> <p>中国語の構文、語法を再確認しながら、より複雑な表現、より長い文章を読みこなし、内容を理解する能力を向上させることを目的とする。同時に現代中国社会、文化についての理解も深めていく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的語法、文型、語彙を習得し、一般的な文章を読みこなす力をつける					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的な語法を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国語の語彙、表現に慣れる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 与えられた課題に積極的に取り組む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、理解の進捗度、定期試験の成績(70%)により総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
読解中国語一やさしい中国語でよむ現代中国／横川伸 王亜新: 白帝社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150022
<b>開設科目名</b>	中国語(聴力 I)			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	李 海英 [ri kaiei]			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は共通教育で習得した中国語を基礎に聞き取り能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。 人とコミュニケーションをするとき、相手の話したことを聞き取れないと何を返事すればいいかわかなく見当もつけない。この聴力 I はその大事な聞き取り能力を高めるトレーニングを中心に授業を進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
共通教育で習得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。 初回授業で詳しく説明するので受講希望者は必ず出席すること。プリントやビデオなどを適当に使う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音や言葉の使い方、コミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国社会、文化に関心を寄せる。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、テストや授業中の練習などに積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 中国語の発音とアクセントの聞き取り能力を高める。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験と小テスト、出席、授業中の発表などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語リスニング道場/遠藤雅裕 陳淑梅 柴森:朝日, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
毎回勉強した単語と言葉を繰り返し聴き、暗唱すること。予習復習が必要です。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150024
<b>開設科目名</b>	ビジネス中国語 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	永富 健史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ビジネス中国語では、「日常交際編」(前期)、「ビジネス編」(後期)に分けて授業を行う。  従って、「ビジネス中国語 I」では、「日常交際編」の講義と会話練習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国人の日常生活やビジネス現場の場面を中心に、発話意図別に中国語会話のトレーニングを行う。</li> <li>2. 日中異文化コミュニケーションの観点から、中国語母語者の思考法や中国語表現について日本語母語者と比較しながら考えていく。</li> <li>3. 中国ビジネスマナーにも触れる。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は共通教育中国語を履修した者を対象とする。</li> <li>・本科目は授業内容が前期、後期で関連性を持つので、通年で受講することが望ましい。</li> <li>・毎回、必ず予習をしてこよう。テキストの発音記号(ピンイン)は必ず予習段階で全部しらべてこよう。予習してこないと、授業中に「分かりません」、「できません」は言わないこと。予習した結果、分からなかった時は、どこが分からなかったか、授業中に質問すること。</li> </ul>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語の発音を習得する。</li> <li>2. 中国語による日常会話のコミュニケーション能力を身につける。</li> <li>3. 中国社会、中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の構文と中国人の思考法、表現法を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国語に特有の表現に慣れる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語コミュニケーションに関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 中国語トレーニングに積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 場面に適切な中国語で話せるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験、授業態度・授業への参加度、出席による総合評価を行う。評価割合は以下のとおりである。定期試験90%、授業態度・授業への参加度10%。出席については、以下のとおりである。</p> <p>毎回出席をとる。三分の一以上欠席すると欠格となり、前期末定期試験を受けることができない。すなわち、5回欠席すると欠格となる。公欠は「忌引き」のみとする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>メールでの連絡を受け付ける。メールアドレスは以下のとおり。  a0a11229@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031150025
<b>開設科目名</b>	中国語基礎強化			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	齊藤 匡史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国語の基礎学習を終えた学生を対象に、文法重要事項を復習し読解力を向上させ、あわせて聞き取る能力を養成する。さらに中国語検定試験(主にTECC)に向けた学習を進める。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の文法をマスターし、読解能力を向上させる</li> <li>・聞き取り能力を強化する</li> <li>・中国語検定試験3級、中国語コミュニケーション能力検定(350)にチャレンジできる語学運用能力を養成する</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ・中国語文法を完全に理解する					
・聞き取り能力を向上させる					
<b>態度の観点:</b> 授業中の練習に積極的に参加する					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学習到達度、出席状況など総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
1年次に中国語初級 A、B を履修した学生を対象にした授業である					
<b>連絡先</b>					
saito@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期集中	<b>曜日時限</b>	集中	<b>時間割コード</b>	1031160001
<b>開設科目名</b>	特殊講義			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	C			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	上羽 博人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>私たちの生活は物があふれ、便利になっています。モノ作り、流通の分野では物流が顧客の困り込み、コスト抑制などを行うために非常に重要な役割をしています。そして、モノ作りが減少している日本では製品輸入という形で海外の生産国との関係が増し、同時に輸入する企業の競争優位を維持するため、物流が経営戦略の中で非常に重要になっています。</p> <p>そこで、この授業では私たちの生活と物流がどのように関係しているかを、グローバル・ロジスティクスを通して学びます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>物流は分業の拡大、物流・情報の技術革新、規制緩和とともに重要性を増し、同時に製造業、流通業などの経営の根幹となっています。この講義では物流の役割、変遷、調達・生産・販売部門などとの関係について説明し、物流の重要性、高度化について認識を深めることを目的としています。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績評価の主たる部分は期末試験です。これは、物流の重要性を理解していただきたいからです。なお、夏休み中に集中講義として開講するため出席も重要視します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
交通と物流システム／澤喜司郎 松尾俊彦 上羽博人:成山堂書店, 2008					
<b>メッセージ</b>					
物流は非常に分野が広いので、授業を欠席されるとすぐに内容がわからなくなります。					
<b>連絡先</b>					
gakusei911@gmail.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期集中	<b>曜日時限</b>	集中	<b>時間割コード</b>	1031160002
<b>開設科目名</b>	特殊講義			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	D			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	上羽 博人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
貿易実務の基本的な知識を習得します。(売買契約、決済、リスクマネジメント、通関、物流などの知識と相互関係の習得。)					
<b>授業の一般目標</b>					
私たちは中国、東南アジアからの製品を日常的に消費、使用していますが、それら製品がどのように日本に持ち込まれるのか、その手続きについて学習します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は期末試験を主に決定しますが、夏休み中の集中講義のため出席も重要項目とします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
貿易実務ハンドブック ベーシック版 第2版/日本貿易実務検定協会:中央書院, 2009					
<b>メッセージ</b>					
貿易実務は異業種間(荷主、銀行、保険会社、省庁、物流業など)、国際間の手続きであり、また、非常に分野が広いので、授業を欠席されるとすぐに内容が分からなくなります。					
<b>連絡先</b>					
gakusei911@gmail.com					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031160003
<b>開設科目名</b>	特殊講義			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	E			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	立山 紘毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
情報法学の講義を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>ひとりに比べて「情報化社会」「情報化時代」という言葉が人々の耳目を引くことは少なくなったが、これは逆に日々の生活が全面的に情報化されたことを意味する。その中において、立法・司法・行政、さらには法律学の常として、これら社会の変化に対する対応は緩慢に過ぎるばかりか失当とさえ評価するほかはないものも多々存在する。</p> <p>この講義は、世間での種々の議論から一歩離れて厳正な立場から、情報化による法の全般的な変容について考察する糸口を提供する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ・情報化の現状に対する基礎的知識(理工学的基礎知識を含む)					
・法律学の「再入門」					
<b>思考・判断の観点:</b> ・日々の生活の中で展開する情報化の諸側面を適確に認識すること					
・情報化社会の諸側面にあらわれた法現象を理解し、分析すること					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の興味・関心・将来の専門に即した問題意識と同時に、必ずしも得意ではない・これまで関心をもってこなかった分野や角度からの問題発見					
<b>態度の観点:</b> 旺盛な知的好奇心					
<b>技能・表現の観点:</b> 口頭・文書による正確・簡潔な日本語表現					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>基本的に「試験一発勝負」を原則とする。試験での成績が人格のすべてを反映するなどということは全然信じていないが、実社会における評価というものは「結果全ての一発勝負」がほとんどであり、さまざまな観点や意欲からの評価など「学校時代のおまご」とにすぎないことを十分留意すべきである。</p> <p>ただし、講義の展開によって、パネル形式の討論などが適当と思われる場合には、それに応じた評価を採用することがある。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tateyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に定めていないので、上記のメールにて連絡の上、適宜相談されたい。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031160004
開設科目名	外国書講読			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	古川 澄明			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>世界大手自動車メーカーの経営戦略を学ぶことを重視する。ヨーロッパ自動車産業を事例として、英文テキスト(下記教材)を利用するにすぎない。重視するのは、グローバル自動車メーカーの経営戦略を理解することである。同書は、ヨーロッパ自動車産業の構造変化についての最新動向を取り上げ、日本を含むアジア自動車産業との比較で、その実態をパラダイム転換として分析した研究書である。本書では、日独の自動車産業研究の第一人者がヨーロッパでの自動車産業の動向、とくに企業レベルではGMグループ(GM社、オーペル社)、VWグループ(VW社、Audi社、Skoda社、Seat社)、Toyotaグループ、Nissan-Renaultグループ、Ford-Mazdaグループの動向を取り上げており、世界自動車産業研究の最先端で同産業の現問題について議論をしている。受講する学生諸君にも、現代のグローバル企業(プレーヤー)がどのような戦略的行動を取っているか、インターネット公開の企業サイトを利用して、一緒に日本語・英語情報を集めて、楽しい企業理解の場としたい。単に英文を読むだけの授業とはしない。むしろ、英語はビジネスマンの道具と位置づけて、グローバル企業の経営戦略を理解することを重視したい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>世界自動車産業の分野を事例として、現代グローバル企業の戦略的行動を楽しく理解することを目標とする。単に英文理解力を高めるだけでなく、企業の戦略的行動を楽しく理解すること、さらに他の企業情報を利用して、関係情報(日本語情報を含む)を収集し、議論(日本語)を行うことを重視する。受講者には、英文理解力だけでなく、日本語で内容を理解し、それをめぐって討論(日本語)ができる能力を獲得する。授業全体としては、グローバル事業を展開する世界大手自動車企業の経営戦略を理解することを重視する。自動車産業、グローバル企業、グローバル経営戦略に関心のある受講者を歓迎する。とくに将来、海外進出している日本企業や、外国企業で働きたい受講生を歓迎する。受講者と相談して、日本企業各社(希望があれば、外国企業も含めて)の英文・日本語文インターネットサイトを利用し、企業の活動を理解することを一般目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>自動車産業とグローバル自動車メーカーの戦略的行動の理解を通じて、経営学専門知識を習得すること。英文専門書は、単なる教材に過ぎない。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>経営学専門知識を学ぶ。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>自動車産業を事例に、グローバル企業の戦略的行動を理解し、経営学専門知識を習得する。自動車メーカーに関心があること。</p> <p><b>態度の観点:</b>討論を中心に授業を進めるので、グローバル企業の経営戦略をめぐる討論に強い関心をもっていること。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>パワーポイント利用してスライドを作成し、問題提起を行い、討論を行う。それらを通じて、企業に入って実践的に役立つことができるようなプレゼンテーション能力を身に着ける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>成績は授業への参加の積極性の結果であるので、次の点をもって、最優秀評価とする。</p> <p>(1)テキストを十分に理解して出席するだけでなく、日本語経営知識をしっかりと学ぶこと。</p> <p>(2)報告者は、パワーポイント・スライドを作成し、討論準備を用意する(参加人数が少ない場合、受講者と相談の上で、方針を決める)。</p> <p>(3)英文理解力を踏まえて、経営学知識のレベルを評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>現代グローバル自動車メーカーの戦略的行動を楽しく調べよう:日本の大手自動車メーカーは、今後、生き残れるのか?ヨーロッパの大手自動車メーカーと日本メーカーとの間には、経営戦略で、違いがあるのか。</p>					
<b>連絡先</b>					
学務係					
<b>オフィスアワー</b>					
事前アポの上、随時。					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031160005
<b>開設科目名</b>	外国書講読			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	立山 紘毅			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
法律学に関する外国文献を講読して、比較法的な素養を身につける。					
<b>授業の一般目標</b>					
同上					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講者の受講姿勢を総体として評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
tateyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特に定めていないので、上記のメールアドレスに連絡して、適宜面談可。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1031160006
開設科目名	商業科教育法			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	小川 勤			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>「商業科教育法」では、「商業」はどのような分野を対象とし、またそれほどのような内容を含むのかを学ぶ。さらに教科「商業」の各分野について、我が国の社会性や歴史性をも考慮するとともに、高等学校における教科「商業」教育の専門性の意味するところを踏まえながら、その内容とあわせて教師に求められる指導のあり方を学習する。</p> <p>また、後半には指導案や年間指導計画の作成演習を実施する。また、マイクロ・ティーチング(以下MT)を実施し、実践的指導力の育成を図る。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1. 平成11年3月告示の「高等学校学習指導要領」は、教科「商業」の目標について、前年7月の教育課程審議会によって示された「経済の国際化やサービス化の進展に対応する観点から、ビジネス教育の視点を明確にする」とした「商業の改善の基本方針」を踏まえ、「商業教育のねらいを、継続教育を視野に置いた専門性の基礎・基本の教育に重点を移す」とした大幅な改定を見た。そこで、生涯学習の視点を踏まえた「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」の理解とあわせて教職の使命と特殊性について考えてみる。</p> <p>2. 商業教育の各科目を指導する実践教授能力の育成を図る。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>適切な判断を導く上で必要な基礎・基本の知識を身に付けている。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>1.異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。</p> <p>2.商業教育のイノベーションのために新たな教育方法を創造できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>1.新たな未経験・未知の分野の学習に対し積極的な取り組みの姿勢がある。</p> <p>2.新学習指導要領の内容について興味・関心を持って理解しようとしている。</p> <p>3.MT実施後の評価を踏まえて、自分の授業技術を向上させようとする意欲を持っている。</p> <p>MTに積極的に取り組もうとしている。</p> <p><b>態度の観点:</b>不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>課題のまとめに際して、適切・有効な図表などの作成・挿入ができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>1.欠格事項としては、全体の授業の4/5以上の出席を求める。したがって4回以上欠席した場合には単位の認定は認めない。欠席は3回までである。</p> <p>2.定期試験(学期末試験)＋演習(50%),提出物(ポートフォリオ、宿題・授業外レポート)(20%+20%)、授業への出席意欲(10%)で成績評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。</p> <p>MTでは、学生が主体的に学習に取り組む必要があります。指導案の作成からMTの実施、授業評価の実施、指導案の改訂、MTの再度の実施といったように受講生が自ら積極的に活動する授業です。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>メールアドレス:ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>研究室ホームページアドレス <a href="http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ogawa-t/">http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ogawa-t/</a></p>					
<b>オフィスアワー</b>					
小川研究室(共通教育事務棟 3階)金曜日 午後2時～午後4時					

<b>開設期</b>	前期集中	<b>曜日時限</b>	集中	<b>時間割コード</b>	1031160007
<b>開設科目名</b>	職業指導			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	永田 萬享			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>「労働」あるいは「職業」について、意識化させていく活動を伴う職業指導の発展と、技術・職業教育の充実、整備の問題は密接不可分に結びついている重要な課題である。これまでの職業指導は、職業適性検査や個性の発見とかもっぱら心理学的な側面からのみ行われてきたきらいがあるが、それだけでは不十分と思われる。授業では、経済社会の発展・成長について職業生活はどうなるのか、技術革新の進展に伴って労働はどのように変貌するのか、さらに職業や雇用はどのようになるのか等々、社会経済的側面も合わせて講義を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会的分業である職業に関する社会科学的認識を持つことと、職業能力を開発する手だてとしての職業教育のあり方を通して、社会のなかでの個人の位置をつかみ、自立した職業生活を営むことができるようになることを最終的な目標としている。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 職業理解をする上で必要な知識を身につけて、適切な判断が出来るようになること。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 社会科学的認識をする上で必要とされる思考力や判断力を身につけること。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 社会の動きや変化に関心を持つようになること。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>知識、理解度を見る定期試験を中心として、小レポート、課題によって思考・判断力を勘案し、そして出席状況などから総合的に判断する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>転換期の人材育成システム／木村保茂、永田萬享：学文社、2005</p>					
<b>参考書</b>					
<p>キャリア形成・就職メカニズムの国際比較／寺田盛紀編著：晃洋書房、2004</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>講義では、ビデオなど視聴覚教材を多用したいと考えているが、受講生は各種ルポルタージュを読んでおくことが望ましい。教員側の一方的な授業にならないように、受講生の主体的な参加を希望している。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>集中講義なので、授業以外は基本的に受け付けます。</p>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1031160008
<b>開設科目名</b>	外国書講読			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山下 訓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
会計学および会計の基本単語を覚え、英文会計の基礎を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
会計学および会計の基本単語を覚えること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎的な知識と英語の力をつけること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 会計学と英語に興味を持つこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と試験					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
5518 yamasita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日の昼休み					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110001
<b>開設科目名</b>	ミクロ経済学Ⅱ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	寺地 伸二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
ゲーム理論を用いた、ミクロ経済学の戦略的アプローチを学びます。かつてミクロ経済学は市場の分析が主でしたが、最近では組織や制度の分析に関心が移ってきています。組織や制度を分析するには、ゲーム理論が不可欠です。この授業では、簡単な二人ゲームを使って、ゲーム理論の初歩を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
ゲーム理論の基礎を身につける。ゲーム理論を使って、現実の問題を分析できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験を実施して、授業の理解度をみる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
授業で分からないことがあれば、質問しましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110002
<b>開設科目名</b>	マクロ経済学 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	a			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山田 正雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的(マクロ的)視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験および出席で判定する。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。					
<b>教科書</b>					
マクロ経済学 I / 馬田哲次: 自費出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問です。積み上げタイプの学問ですから、途中で分からなくなると先に進んでも理解できません。きちんと復習することを心がけてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110003
<b>開設科目名</b>	マクロ経済学 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>	b			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山田 正雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的(マクロ的)視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験および出席で判定する。出席は加点要素とし最大 10 点加点する。					
<b>教科書</b>					
マクロ経済学 I / 馬田哲次: 自費出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問です。積み上げタイプの学問ですから、途中で分からなくなると先に進んでも理解できません。きちんと復習することを心がけてください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032110004
開設科目名	政治経済学Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	福留 久大			区分	
<b>授業の概要</b>					
政治経済学(マルクス経済学)の原理の骨格を理解すること。その理解に基づいて、資本制経済の鈍化と変容の歴史的動向を把握すること。その把握に支えられて、現代的な種々の問題について検討する思考枠組を形成することを課題とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
政治経済学の概念・用語について、その概略を説明するとともに、現実の諸問題との対応関係を察知することができる。 現代経済の主要特徴を把握して、政治経済学の概要・用語を用いてその動向のあらましを説明できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 政治経済学の主要な概念・用語を理解し、適切に使用できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 政治経済学の主要な概念・用語を、現代の経済的諸現象に関連づけようと努める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 様々の経済現象に興味をもって観察し、先人の創出した概念・用語の適用を試みる。					
<b>態度の観点:</b> 豊かな現代経済における Working Pools の存在を見詰めて、経済現象の陽と陰を考え続ける。					
<b>技能・表現の観点:</b> 政治経済学の概念・用語を用いて、現代の経済現象に関する平易な文章を作成できる。					
<b>その他の観点:</b> ベティ、スミス、リカード、マルクスという古典学派の面々は、なかなかの人物です。一寸だけでも接してください。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験を中心として評価する(70%)。これに小テスト・授業内レポート2～3回、宿題・授業外レポート1～2回を加える。(30点)。</li> <li>・予習を望ましいと考え、それに基づく質問の提出を歓迎する(総合判断)。質問票を提出して貰い、これを対話の手掛かりとする。</li> <li>・定期試験は、短文の記述と加減乗除の計算問題とで構成される。</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
『ポリチカルエコノミー』/福留久大:九州大学出版会, 2004					
<b>参考書</b>					
『経済学』/日高 普:岩波書店刊					
『経済原論講義』/山口重克:東京大学出版会刊					
<b>メッセージ</b>					
気楽に、真面目に。のんびりと、根気よく。					
<b>連絡先</b>					
受講生と相談のうえ、決めます。					
<b>オフィスアワー</b>					
受講生と相談のうえ、決めます。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032110005
開設科目名	計量経済学			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村 淳一			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>計量経済学では 2 変数以上の関係を重回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。本講義のねらいは計量経済学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実計量経済学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。後半では、重回帰分析の応用である連立方程式モデルについて学習する。現実の経済を理解するためには、様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する必要があり、その記述方法のひとつが連立方程式モデルである。実際にモデル分析をするためには、パソコンを用いる必要があるが、本講義では時間的・空間的な制約のため、パソコン演習は行わない。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>多変数の関係を扱うための計量経済学の理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。</p> <p>経済理論を統計学的手法で検証する方法を習得する。</p> <p>様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する方法を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 基本的な計量経済学の理論を理解している。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 計量経済学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 分からないところを積極的に質問する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。</p> <p>評価割合は期末試験 80%、質問書・レポート 20%。</p>					
<b>教科書</b>					
計量経済学／山本拓:新世社, 1995					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ルートの計算ができる電卓を用意すること。					
<b>連絡先</b>					
nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
講義中に指示。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032110006
開設科目名	経済情報処理概論			単位	2単位
対象学生	a			学年	～
担当教員	吉田 信夫			区分	
<b>授業の概要</b>					
情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として活用できることを目的として表計算システム(Excel)の授業を行なう。					
<b>授業の一般目標</b>					
各種データの表作成とその集計、計算、グラフ化およびデータ検索等の機能を備えた表計算システム(Excel)の使い方方をマスターすることによって、データの処理・分析方法を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 表計算システムに用意されている機能、例えば各種関数の役割を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題に対してその問題をコンピュータに写像する適切な表システムを設計することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。					
<b>態度の観点:</b> すぐにはできなくても何度か試行錯誤することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 表の集計、グラフ化、およびデータ検索が自由にできる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
1クラス50名以内で行いますので、受講希望者は必ず1回目は出席してください。 実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補って おいてください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェック を行ないます。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110007
<b>開設科目名</b>	経済情報処理概論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	b			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	吉田 信夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として活用できることを目的として表計算システム(Excel)の授業を行なう。					
<b>授業の一般目標</b>					
各種データの表作成とその集計、計算、グラフ化およびデータ検索等の機能を備えた表計算システム(Excel)の使い方方をマスターすることによって、データの処理・分析方法を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 表計算システムに用意されている機能、例えば各種関数の役割を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 問題に対してその問題をコンピュータに写像する適切な表システムを設計することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 与えられた問題に対して問題解決を行うための手法が説明できる。					
<b>態度の観点:</b> すぐにはできなくても何度か試行錯誤することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 表の集計、グラフ化、およびデータ検索が自由にできる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
1クラス50名以内で行いますので、受講希望者は必ず1回目は出席してください。 実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補って おいてください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェック を行ないます。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110008
<b>開設科目名</b>	景気循環論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	馬田 哲次			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
景気循環理論のタイプを説明し、マクロ経済学Iで学んだ45度線分析とIS-LM分析を動学化して、景気循環を説明するモデルについて説明します。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 差分方程式を用いた景気循環モデルについて理解する。 2. エクセルを使った景気循環モデル分析の方法を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 景気循環モデルのタイプを理解する。 2. 差分方程式を用いた景気循環モデルを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> エクセルを用いた景気循環モデル分析ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業中の発表、期末テストで総合的に判断します					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
エクセルを使った講義では、ノートパソコンをもっている方が望ましい。					
<b>連絡先</b>					
umada@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032110009
開設科目名	経済政策総論			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	塚田 広人			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>今、日本と世界の経済と社会は大きく変わりつつあります。(たとえば、1980年代以降の世界経済の急速なボーダーレス化、1990年前後の冷戦体制の終了、または日本の1990年のバブル経済の崩壊、そして2008年のサブプライムショック！などを想起してください。)</p> <p>この変化の過程では政府の政策が、あるときはその原因となり、あるときは解決策ともなります。その使い方次第で、私たちの社会は大きく変わっていくのです。</p> <p>そのなかで今、日本を含む先進工業化諸国では、政府の政策に強い関心が寄せられています。(財政赤字をどうすべきか、政府の大きさはどの程度が良いのか、公共事業は、金利はどうあるべきか、また身近なところでは国立大学は行政法人とするのがよいのか、等々。)</p> <p>これらは国の進路に大きくかかわる重要な問題です。これらの問題を考えるための基礎として、この講義では政府の活動、特に経済政策とはそもそも何か。市場経済の社会でなぜ経済政策が必要なのか。政府は何をなすべきで、その手段は何があるのか、などについて考えます。</p> <p>(経済、経営、国経、観光、経法の全学科の学生に大いに参考になります。)</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
概要に示した基本的論点について考えることで、日本を含む先進工業化諸国が今後どのような社会と経済を目指すべきなのかを考える手がかりを得ることを目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、予習ノート、期末試験を総合する。					
<b>教科書</b>					
社会システムとしての市場経済/塚田広人:成文堂, 1998					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>(2008年度の受講生の感想です)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段何も気にしなければ当たり前のこともよく考えればちがうんじゃないかと思う制度等がたくさんあることに気づかされた。</li> <li>・政策の基本が良くわかった。今までは政策が与える影響しか見ていなかったが根本的なところが見れるようになった。</li> <li>・授業内容は倫理に近い気がして毎回考えさせられた。</li> <li>・授業は楽しかった。もっと早く受講していたら良かった。(4年生)</li> <li>・考えさせられることばかりで大変だったが、終わったあとは達成感をすごく感じた。</li> <li>・派遣問題、教育問題などを考え、思考力が上がり、いろいろな角度から物事を捉えられるようになった。</li> <li>・予習ノート作りはだんだん効率が上がっていくのが楽しかった。</li> <li>・予習は大変だったがやりがいがあった。</li> <li>・予習があるやり方はとてもよかった。</li> </ul> <p>・1番の収穫は予習の習慣が身についたこと。最初は戸惑ったが最近では当たり前になってきて、大事だと思う箇所を抜き出す力もついた。他の授業でもこの力を発揮していけたらよい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>○Tel: 933-5558 E-mail: ht@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>●研究室: A棟424号室</p> <p>●研究室HP: <a href="http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ht/mypage2.htm">http://ds0.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ht/mypage2.htm</a> (講義の進め方が詳しく書いてあります。)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
○オフィス・アワー: 原則として水曜日1時半-3時(これ以外でも在室時はいつでも質問可)					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032110010
開設科目名	金融システム論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	貞木 展生			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>わが国では、「金融革新」が主張され、「金融制度」が大幅に変革してきている。たとえば、銀行業と証券業の間に存在していた「垣根」が徐々に除去されてきている。また、郵便局は民営化され、更には、保険業の他の分野との境界線が薄れて、金融関連業界は「相互乗り入れ」をして、「金融の自由化」が形式的に完成の域へ到達しようとしている。それではわが国の金融システムはどこへ行くのであろうか。</p> <p>「間接金融方式」の金融システムを特徴とするわが国の金融システムはどのようなものになるのであろうか。「直接金融方式」への転換はどのようなものになるのであろうか。</p> <p>「金融政策」による効果をどのようにして評価すればよいのであろうか。</p> <p>戦後のわが国の金融システムの推移を「資金循環勘定」を通じて実証的に検討するとともに、金融システムの変革が金融政策の効果へどのような影響をもたらすのであろうかという理論的な検討をする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>マクロ経済学の一般的な理解の下に、LM 曲線の意義を再検討する。「直接金融方式」の下での LM 曲線と「間接金融方式」の下での LM 曲線は異なるのであろうか、それとも同種と考えてよいのであろうか。この検討をするために、「資金循環勘定」の説明を通じて、金融システムの実証的分析を展開する。それは戦後の日本経済の展開過程の説明になるであろう。すなわち、高度経済成長期、ニクソンショックとオイルショックによる低迷期、バブル経済の展開と崩壊、それに伴うデフレ経済の進行、これらの典型的な事態を金融の側面から検討する。特に 80 年代以降の「金融革新の進行」には特別な注目が必要であろう。</p> <p>「所得倍増計画」、「人為的低金利政策」、「総需要管理政策」、「所得政策」、「インフレーション論」等々、さまざまな経済政策が提示され、そして実施されてきた。すべてについて講義までできないが、必要に応じて理論的・実証的に説明したい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主として、期末テストにより評価する。					
<b>教科書</b>					
所得循環と資金循環／貞木展生：日本経済評論社，1999					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
マクロ経済学についての知識があることを前提に講義をします。「資金循環勘定」のデータは、日本銀行の HP から入手できます。インターネットで確認してください。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110011
<b>開設科目名</b>	公共政策論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	仲間 瑞樹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
なぜ政府が様々な経済介入をするのか？その理由や功罪を、ミクロ経済学やマクロ経済学の基本的な知識を利用しながら講義します。					
<b>授業の一般目標</b>					
政府の経済介入の根拠を理解し、その功罪を自分自身で説明できるようにすること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方を使い、政府の経済介入の影響などを分析できること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 経済学の知識に基づいた政府の経済介入に関する是非を論じられること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
持込不可の後期末試験に基づく。 また複数回の宿題を課す。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
本講義の単位を修得するためには、財政学4単位の単位取得が必要です。またミクロ経済学やマクロ経済学の知識を活用します。従って政府の政策に興味がある方、公務員受験・大学院受験を考えている方には最適な科目と思います。					
<b>連絡先</b>					
講義内でお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					
講義内でお知らせします。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110012
<b>開設科目名</b>	地域経済論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	齋藤 英智			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>地域における経済現象とその主要な理論・モデルについて学ぶ。経済学を基礎とし、空間という要素を取り入れてヒト、モノ、カネ、情報の動きを見ていく。経済のグローバル化とともに、地方分権が叫ばれるなかで、平成の大合併などにより地域の役割はますます重要な局面を迎えている。地域内、地域間での財・サービスやヒトの往来、さらには大都市がある一方で農村もあり、単に地域といってもさまざまな形態がみられ、地理的特性や人口構成、産業構造などによっても異なる。これら地域経済に関わる諸活動や地域の構造を理論的な観点から学んでいくとともに、地域に関連するデータを用いてグラフの見方やその背景を検討しながら地域間の比較や分析を行う。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>地域の諸問題に関する理論・背景を理解するとともに、地域データに基づいて地域を分析し、地域の課題に対する考え方を修得する。 また、関心の深い地域・テーマを自ら設定し、レポートの作成を通じて、問題の所在と解決へ向けた多面的なものを見方ができるようにする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 経済学の基礎理論・モデルに基づいた地域経済の実態と地域政策について理解する。 <b>思考・判断の観点:</b> 問題に対する多面的な見方を培い、それに対処するための道筋をつけることができる。 <b>関心・意欲の観点:</b> 日ごろから抱いている地域経済に関する疑問を学問的観点から捉える。 <b>態度の観点:</b> 疑問に思ったことは自ら積極的に調べる。 <b>技能・表現の観点:</b> 理論・モデルに基づいてデータを正しく処理・分析し、レポートが作成できる。 <b>その他の観点:</b> パソコン・ソフト(ワード、エクセル)を利用して地域データを加工・分析し、レポートを作成することが可能となる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席:20%、授業外レポート(3回程度):40%、最終レポート(定期試験に代える):40%を総合して評価する。 出席が一定回数に達しないもの、および、授業外レポートを一度も提出しないものについては単位を認定しないので注意すること。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>地域経済学／宮本憲一・横田茂・中村剛治郎:有斐閣, 1990 現代都市経済学(第2版)／宮尾尊弘:日本経済評論社, 1995 都市と地域の経済学／中村良平・田淵隆俊:有斐閣, 1996 地域分析入門(改訂版)／大友篤:東洋経済新報社, 1997 交通とビジネス／澤喜司郎・安原敬裕・上羽博人編著:成山堂書店, 2007</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>地域経済論は、ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎とする応用の分野となります。履修の条件ではありませんが、これらの理論を良く理解していることが望まれます。理論や方法論といった抽象的な部分もありますが、出来る限り地域独自の問題や実際のデータを取り上げ、今日の地域問題を考えられるようにします。また、理論と現実を融合させた考え方を身につけるために、データによる分析も行ってもらいますので、パソコン(ワード、エクセル)等が使えることもレポート作成の助けになります。一連の作業を通じて地域の問題に関心を持ち、自分の考えをまとめられるようになることを目標とします。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp メールで質問や問い合わせを行う際は、メールの件名に“【地域経済論】〇〇”と名前を必ず明記してください(件名がない場合はメールを破棄します)。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>研究室(経済学部A棟4階425)在室中いつでも研究室に来ていただいても結構です。</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110013
<b>開設科目名</b>	ジェンダー論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鍋山 祥子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>ジェンダー(gender)とは、生物学的な性差を意味するセックス(sex)とは異なり、社会・文化的な性差を意味するもの。私たちは何故、身体的な性差によって当たり前のように、男なら「男らしく」、女なら「女らしく」振る舞っているのだろうか。そこに必然性はあるのか。</p> <p>また、広く社会における男女関係を規定している「性別役割分業」という考え方に、私たちの生き方はどこまでしぼられているのだろうか。</p> <p>本講義では、生活の様々な場面に織り込まれているジェンダー構造を可視的にすることを試み、ジェンダーが私たちの生活や選択に与える影響とその帰結を考察する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>ジェンダー論(授業)の目的</p> <p>(1)ジェンダー構造とは何か?を知る</p> <p>(2)自分のなかにあるジェンダー構造を意識化する。</p> <p>(3)日常生活(社会)に潜むジェンダー構造を意識化する。</p> <p>(4)ジェンダー構造が引き起こす社会問題について理解を深める。</p> <p>(5)(応用として)「当たり前(本質的なもの)」とされている様々なものが、実は社会的に作られた物(社会制度)である、ということを理解する。</p> <p>以上を目標として授業をおこないます。</p> <p>価値観はひとそれぞれですが、その価値観がどのように社会によって創られ、その価値観が再生産されることによって、社会的にどのような問題が発生するのか、について考察・理解してもらうのが、授業目標達成の最低ラインです。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席と課題提出、学期末試験(授業内容を網羅した内容・論述あり・持ち込み不可)による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。</p> <p>配点は、授業内外レポート30%・定期試験70%とする。ただし、定期試験の点数が、70点満点中35点に満たない者は不可とする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>本講義は女性学と男性学両方の視点を含むものです。</p> <p>「当たり前」とされていることを「疑う」ことができる社会学的思考を基礎としています。</p>					
<b>連絡先</b>					
Eメール:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 3/4 限					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110014
<b>開設科目名</b>	西洋経済史総論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	古賀 大介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>わたしたちは、今、資本主義経済と仕組みの中で生きています。皆さんは、いつ、どこで、どのようにして、この仕組みが生まれてきたか知っていますか？          実は、この仕組みは、今から約200年前にヨーロッパ・イギリスで生まれたものです。          では、なぜ世界中のどこでもなく約200年前のヨーロッパ・イギリスで生まれたのでしょうか？そして、どのように世界中に広がっていったのでしょうか？人々の生活をどのように変えてきたのでしょうか。本講義では、こうした疑問に答えていくと同時に、現在わたしたちが「常識」だと思っていることが、どのように作られてきたかを紹介し、発想の柔軟性を養っていききたいと思います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の資本主義社会が、どのような歴史の変遷を経て成立してきたのかを、グローバルな視点から理解する。</li> <li>2. 歴史(経済史)をツールとして、柔軟な思考を養う。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期テスト100% 本講義では出席を欠格要件にはしていません。ただし、出席者には、出席点を差上げます。具体的には、毎回、授業の終わりに出席票を配布し、皆さんには質問・コメント等を書いてもらいますが、これを加点の対象とします。まじめに出席し、いいコメント、質問を書けば、単位取得はさほど難しくないでしょう。</p> <p>*注意！！ この講義では私語・遅刻・途中抜けを厳禁とします。          これらの問題行動を取る学生には極めて厳しく対処します！</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
この講義では、就職活動期にまでに身につけてもらいたい、ものの考え方や発想、それから経済や歴史に関する幅広い教養をお教えます。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032110015
<b>開設科目名</b>	日本経済史各論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	木部 和昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義では、第一次大戦とそれに続く恐慌の時代の日本経済の歴史について取り扱う。第一次世界大戦により日本経済は急成長を遂げたが、その後の戦後反動恐慌によって不況に突入し、1920年代の10年間は長期不況に苦しむことになった。しかしこの時代は、現代につながる重要な変化が日本経済の中に芽生えた転機でもあり、本授業では、その具体的な経済状況の変遷を見ていくと共に、時代を象徴する企業家や政治家、あるいは当時の山口県の経済状況などについても、多面的に取り上げていきたい。また、1920年代の長期不況の時代について、1990年のバブル崩壊とそれに続く平成不況および昨今の米国発金融危機なども比較する予定である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第一次世界大戦から、戦後恐慌、1920年代の相次ぐ恐慌の時代、高橋財政による昭和恐慌脱出までの歴史の流れを理解する。</li> <li>2. この時代に形成された、現代の日本経済の源流となる要素は何であったかを把握する。</li> <li>3. 経済の歴史の中で、企業家や財政担当者などの「人」の果たした役割について考える。</li> <li>4. 日本経済の歴史を学ぶことを通じて、現代の経済社会を分析するのに必要な幅広い視野を養う。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験(論述)65%、小レポート(2回程度)20%、出席15%により成績を評価する。ただし出席状況によっては、この基準に関係なく不合格とする場合がある。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<p>概説日本経済史：近現代[第2版]／三和良一:東京大学出版会, 2002  昭和の恐慌(昭和の歴史2)／中村政則:小学館ライブラリー, 1994  日本資本主義百年の歩み／大石嘉一郎:東京大学出版会, 2005</p>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>経済学部 C207 研究室  内線 5566、E-mail:kibe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120001
<b>開設科目名</b>	経営管理論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	長谷川 光圀			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
専門的な問題を分析する。					
<b>授業の一般目標</b>					
個々の課題について、意見を述べることができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 個々の問題について、批評できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 幅広い知識を求める。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 出席と質問					
<b>態度の観点:</b> 質問を歓迎する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
筆記試験、出席					
<b>教科書</b>					
組織進化論／長谷川:2009(予定)					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
時事問題について、考える。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032120002
開設科目名	労務管理論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	内田 恭彦			区分	
<b>授業の概要</b>					
人々がいきいきと働くことが出来、なおかつ企業間競争においても人材の力を最大限に発揮でき、持続的な優位性を築くことができるような人材のマネジメントのあり方についての基本的考えと歴史の変遷、個別システムおよび今日的課題と方向性について理論と現実の双方から理解を深めていくものです。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 労務管理および背景理論の習得 2. 労務管理の個別制度の考え方の理解 3. 人材ポートフォリオ・マネジメントに関する理解					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 労務管理論の基本的概念を説明できる。環境変化(技術革新や市場状況など)との関係で歴史的に労務管理の基本的考えがどのように変化してきたのか説明できる。今日の日本企業の経営と人事の関係及びその問題点などを関係づけることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本企業の労務管理上の問題の原因を自分なりに考えることができるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 遅刻や授業中の私語などを慎み、周囲への配慮ができるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験 70%、小テスト(出席を兼ねる) 30%					
<b>教科書</b>					
入門 人的資源管理／奥林康司ほか: 中央経済社, 2003					
<b>参考書</b>					
企業変革の人材マネジメント／若林直樹ほか: ナカニシヤ出版, 2008					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
特段オフィスアワーは設けませんが、質問のある人は連絡先のメールアドレスに連絡をしてください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032120003
開設科目名	生産管理論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	森 正紀			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>この科目は、文科系学生に、メーカーの基本を学んでもらうための科目です。生産の話だけでなく、会社全体のことを話します。たとえば、よい会社経営の仕方、ヒット商品のつくり方、よいモノづくり計画の立て方、よい部品の仕入れ方、生き生きと働く方法などを学びます。試験に出るポイントはすべて講義で指摘しますので、学習しやすい科目です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>メーカーの営業部に就職する人はもちろん、あらゆる会社に就職する人に役立ちます。むつかしい理論や数式は出てきません。実際の会社の事例を挙げて、わかりやすく説明します。</p> <p>この科目を学べば、会社が動くしくみをよく理解できます。将来リーダーになる人は新人の時からリーダー的発想をしているといわれています。この科目を学んで、そのようないい人材になりましょう。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 会社のことがよくわかる。					
<b>思考・判断の観点:</b> リーダー的発想ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 仕事の意義を理解できる。					
<b>態度の観点:</b> 熱意を引き出せる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 行動のテクニックを学ぶ。					
<b>その他の観点:</b> 学習の目的が明確になる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験の成績と出席点で評価します。80%対20%の比率です。					
<b>教科書</b>					
工業の経営学／森 正紀:中央経済社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032120004
開設科目名	経営戦略論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120005
<b>開設科目名</b>	投資論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	城下 賢吾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
株式と行動ファイナンスに関する基礎知識の習得					
<b>授業の一般目標</b>					
株式の基礎理論と行動ファイナンスに関する基礎理論とその応用					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験、小テスト、レポートで評価					
<b>教科書</b>					
株式市場と投資行動(仮題) / 城下賢吾・森保洋: 中央経済社, 2009					
<b>参考書</b>					
入門証券論 / 榊原茂樹・城下賢吾ほか: 有斐閣, 2005					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
sirosita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032120006
開設科目名	日本経営史			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	古川 澄明			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>授業の概要： 明治期から平成の現代までの日本企業の経営史を取り上げます。19世紀末には、欧米先進諸国とくにイギリス、アメリカ、それに続いてフランス、ドイツでは産業革命を経て、逸早く産業発展させていました。すでに蒸気機関をベースにした鉄道が発展し、電信や電話が発展し始めていました。日本は、徳川幕藩体制の封建社会であった「江戸時代」（徳川家康が江戸に幕府を開いた1603年から、徳川慶喜が大政奉還を行なった1867年までの265年間の時代：徳川時代）の末の時代です。1854年、蒸気船で浦賀にやってきたペリーは日本に電信を持ち込み、電線を1kmほど引いて、公開実験をおこなったと言われます。電話は1854年にフランスのブルサールが理論的な提案をしました。その後1876年にグラハム・ベルが米国特許を取得し、普及していきました。フランスのエッフェル塔はパリの象徴ですが、フランス革命100周年を記念して、1889年のパリ第4回万国博覧会のために建造された。日本は明治期に入ると、世界の産業発展に追いつくために、欧米の産業技術を導入し、近代化を推進しました。財閥が生れたのも明治でした。20世紀に入って、日本は2つの世界大戦を経験した後、明治初期から70年近くを経て1970年代には高度経済成長を実現し、1980年代には国際舞台で競争力を争うビジネス活動を展開するようになり、1980年代後半から1990年代初頭にかけて「バブル景気」（好景気）を、その後「バブル崩壊」を経験して、今日に至っています。島国の日本は近代社会に入って100年という短期間に世界経済の舞台で影響力を与える産業力を実現しています。学生の皆さんの祖父母の親（曾祖父母）は明治生まれでしょう。僅か3世代前は明治です。なぜ、日本はアジア諸国の中で、このような短期間に産業を高度に発展させたのでしょうか。日本は、アジアの中でも、産業を逸早く高度に発展させた珍奇な国と言えるのでしょうか？ 今日、アメリカではサブプライム問題に起因して経済的失速が危惧される中で、中国やインドが世界経済に大きな影響力を与える国に成長してきています。日本企業も、グローバルに事業展開する企業と、国内市場に限定した事業を展開する企業とでは、その将来に明暗を分けるであろうとの予想が出ています。</p> <p>以上のような問題意識から、日本企業の誕生と発展、経営システムとその変化などを中心に、講義を行います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1) 現代国際ビジネスを展開する日本企業とは、どこから来て、どこへ行こうとしているのか、考える。</p> <p>(2) 現代日本企業は、歴史的に、どのようなプロセスをへて進化・発展してきたのかについて、理解する。</p> <p>(3) 現代日本企業の経営戦略と組織は、歴史的に、どのようにして進化・発展してきたのかについて、理解する。</p> <p>(4) 明治期、大正期、昭和期、平成期の企業の特徴と相違を理解し、現代日本企業について、その特質を学ぶ。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点：</b>企業経営史の基礎知識を身に付ける。とくに明治から今日までの日本企業とそのマネジメントの進化について、理解を深めること。</p> <p><b>思考・判断の観点：</b>日本企業とそのマネジメントとは、どのようなものなのか。それらは、どのような進化を辿って今日に至ったのかを理解し、企業経営の諸問題を把握する思考力を養うこと。</p> <p><b>関心・意欲の観点：</b>企業とマネジメントの歴史的進化について、関心を持ち、積極的にビジネス社会について、そのシステムを知ろうとする意欲が必要である。</p> <p><b>態度の観点：</b>授業では、完全出席し、積極的に学ぶ姿勢が重要である。積極的な質問や問題提起は大歓迎である。</p> <p><b>技能・表現の観点：</b>積極的に質問し、あるいは問題提起を行い、自分の見解お理路整然と表明できることが望ましい。</p> <p><b>その他の観点：</b>講義では、パワーポイントを使う。受講ノートを自分の理解力と要点要約力を身に付けてもらいたいとの観点から、敢えて印刷物は配布しない。受講者は、単に書き取り作業をするのではなく、意識的に講義内容の要点を理解し、それをノートに書き留める訓練をしていただきたい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験実施(自筆ノートのみ持ち込み可)。成績には、出席度合いを反映させます。またその都度の小テストやレポートを課すことがある場合、それらも同様に成績評価に反映させます。質問・討論時間を設けますので、積極的に質問・討論をして、勉学意欲を示した方を高く評価し、成績に大きく反映します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>グローバル・ビジネスの現状とヒストリーに関心を持ち、自分が力けるビジネス社会にどのように関わっていくのかを考えてほしい。</p>					
<b>連絡先</b>					
学務係					
<b>オフィスアワー</b>					
事前アボの上、随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032120007
開設科目名	新事業創造論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	中村 伸一			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業では、ビジネスにおいて、なぜ新事業を創造する事やプロジェクトを興す事が重要なのかを実例や講義を通して学び、実際にビジネスプランを作成していきます。</p> <p>具体的には、基本的な組織、マーケティング、ブランド、経営戦略・戦術を講義にて学習し、社会情勢やビジネス情報から新事業のアイデアを考え、ビジネスプランを作成し、プレゼンテーションができるまでを行います。ビジネスプラン作成においては、ワークショップを用いますので、実践形式の授業になります。また題材として地域資源の活用(ブランド化)も取り上げます。</p> <p>ビジネスプラン作成では、パワーポイントを使います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネス情報の収集方法を習得する。</li> <li>2. ビジネスプランの作成を理解する。</li> <li>3. 自ら考えたアイデアやワークショップにて生まれたアイデアをもとにビジネスプランを作成するとともに、その内容を第三者に発表して理解させることができること</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>組織形態の概要を知ること。経営(収支や経費等)に関する概要を知ること。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>アイデアをデザインしていく思考力と、プランに落していく判断力をつける。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>常に情報収集や社会情勢を把握しようとする意欲</p> <p>地域資源に関して関心を持つこと。</p> <p>その中から、ビジネスチャンスを見つけ、ビジネスアイデアとしてプラン化できること。</p> <p><b>態度の観点:</b>インディペンデント(自立)した観点で、判断していく事。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>さまざまなツールを利用して、自らの考えを他人に理解してもらえるようにすること。</p> <p>パワーポイントを利用したプレゼンテーション用資料の作成。</p> <p><b>その他の観点:</b>ワークショップでは積極的にコミュニケーションをとり、人とのつながりを作る</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席</li> <li>2. 授業での発表・質問</li> <li>3. ビジネスアイデアの内容</li> <li>4. ワークショップでの取り組み姿勢</li> <li>5. ビジネスプランの内容</li> <li>6. プレゼンテーション</li> </ol>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>この事業では、教科書に無い、実際に会社を運営する上で起こることも講義の中に織り交ぜながら進めていきます。</p> <p>アイデアは、自分で考えるだけでは生まれません。学生同士でディスカッション議論する場も作っていきますので、議論に参加しない学生には単位を出しません。</p> <p>モチベーションが高く、好奇心のある学生でない授業についてこれません。この点を十分に踏まえた上で、履修するか否かを判断してください。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120008
<b>開設科目名</b>	情報処理論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	成富 敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経営科学におけるいろいろな問題をとりあげ、数理的あるいはコンピュータを用いたアプローチ方法について学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
経営科学におけるいろいろな問題に対する数理的あるいはコンピュータを用いた解決方法を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験と出席および提出物で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
情報科学の単位を修得していることが望ましい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032120009
開設科目名	経営統計			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	渋谷 綾子			区分	
<b>授業の概要</b>					
「平均」や「分散」といった統計学の諸概念が、不確実性下での意思決定でどのように扱われているかを、ファイナンス分野のモデルを通して学ぶ。毎回、実習室でパーソナル・コンピュータを使用する。					
<b>授業の一般目標</b>					
経営分野で統計学が重要な役割を演じている例として、株価データの分析による資産配分問題を実習する。数理モデル(線形計画法)を用いた分析も行なう。まず、株式銘柄の収益率の特性に配慮した分散投資によって、投資リスクを小さくできることを学び、リスクと期待収益率の関係から効率的フロンティア(有効フロンティア)を理解する。その後、マーコヴィッツによって提案された平均分散モデルや、80年代に流行したCAPM等について学ぶ。このようなモデルと統計学の諸概念の関係を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 統計に関わる様々な概念と、それがファイナンスモデルでどのように利用されているかについての知識と理解を身につける					
<b>思考・判断の観点:</b> 各モデルの長所と短所について、そのモデルが前提している条件との関わりを通して考察することで思考力を鍛える。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験45%、提出フォルダの充実度45%、態度10%の割合で評価する					
<b>教科書</b>					
理財工学 I / 今野浩: 日科技連, 1995					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
shibuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日12時～13時。他に在室中はいつでも可。					



<b>開設期</b>	後期集中	<b>曜日時限</b>	集中	<b>時間割コード</b>	1032120010
<b>開設科目名</b>	会計監査1			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	栗林 栄太			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現在の監査の中心である財務諸表監査が生成されることになった歴史的背景を学習するとともに、財務諸表監査の監査計画段階から監査報告書発行までの一連の監査手続について理解をする。					
<b>授業の一般目標</b>					
会計監査の用語の習熟、監査契約の締結、監査計画の策定から報告書作成・発行までの流れを理解するとともに外部監査人としての公認会計士の社会的役割についても理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 財務諸表監査で用いられている専門用語についての説明ができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
新版監査論を学ぶ／八田進二編著:同文館出版					
<b>参考書</b>					
監査小六法／日本公認会計士協会編:中央経済社, 2005					
<b>メッセージ</b>					
監査の対象は財務諸表であるため、貸借対照表、損益計算書及びキャッシュフロー計算書等の基本財務諸表の知識があることが前提となります。したがって、最低、簿記1又は会計学を履修している必要があります。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
在室中はいつでも質問にお答えします。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120011
<b>開設科目名</b>	簿記1			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>	d			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	松尾 篤			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が必ず行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。また日商簿記3級の検定試験の受験にもつながり、公認会計士、税理士の学習の基礎となります。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定3級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。</p> <p>なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約3000社に関する有価証券報告書を読む基礎をすることであり、単位を少なくとも百万円か億円と読み替えること。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ALFA 3級/大原簿記学校 教材開発部, 大原簿記学校, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120012
<b>開設科目名</b>	商業簿記特論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	河田 一志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>公認会計士や税理士といった国家資格取得の土台となる日商簿記1級の内容のうち、商業簿記・会計学を中心に学習します。簿経理事務に必要な会計知識だけでなく、財務諸表を読む力、基礎的な経営管理や分析力を身につけることを目標とします。この商業簿記特論は財務会計特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。また、商業簿記特論は職業会計人コースの必修科目です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日商簿記1級の内容のうち商業簿記・会計学を中心に学習し、11月検定での合格を目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ALFA 商業簿記・会計学／大原簿記学校 教材開発部:大原簿記学校, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>なお、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業は9月始めから12月までです。</li> <li>2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。</li> <li>3) この商業簿記特論は財務会計特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。</li> </ol>					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120013
<b>開設科目名</b>	財務会計特論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	河田 一志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日商簿記1級の内容のうち、商業簿記・会計学を中心に学習します。この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は、商業簿記特論を参照して下さい。なお、財務会計特論は職業会計人コースの必修科目です。					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ALFA 商業簿記・会計学／大原簿記学校 教材開発部:大原簿記学校, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なお、					
1) 授業は9月始めから12月までです。					
2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。					
3) この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室にきてください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120014
<b>開設科目名</b>	工業簿記特論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	岩寄 昇			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日商簿記 1 級の内容のうち、工業簿記・原価計算を学習します。この工業簿記特論は原価計算特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。工業簿記特論と原価計算特論は職業会計人コースの必修科目です。					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ALFA 工業簿記・原価計算／大原簿記学校 教材開発部:大原簿記学校, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なお、					
1) 授業は9月始めから12月までです。					
2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。					
3) この工業簿記特論は原価計算特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120015
<b>開設科目名</b>	原価計算特論			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	岩寄 昇			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
日商簿記 1 級の内容のうち、工業簿記・原価計算を学習します。この原価計算特論は工業簿記特論と一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。詳細は、工業簿記特論を参照して下さい。なお、工業簿記特論と原価計算特論は職業会計人コースの必修科目です。					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
ALFA 工業簿記・原価計算／大原簿記学校 教材開発部:大原簿記学校, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なお、 1) 授業は9月始めから12月までです。 2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。 3) この原価計算特論は工業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A 棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120016
<b>開設科目名</b>	法人税法Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	香田 一憲, 篠田 聖一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
法人税法の基礎的な内容を学習します。この法人税法Ⅱは法人税法Ⅰと一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は、法人税法Ⅰを参照して下さい。					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なお、 1) 授業は9月始めから12月までです。 2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。 3) この法人税法Ⅱは法人税法Ⅰと一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120017
<b>開設科目名</b>	法人税法Ⅲ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	香田 一憲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>法人税は、法人が一事業年度に得た所得(もうけ)に対して課される国税です。ここでいう所得(もうけ)とは、損益計算書上の当期利益とはその範囲が若干異なるので、これを調整した上で、法人税額を計算することになります。このような調整項目を中心に学習します。この法人税法Ⅲは法人税法Ⅳと一体で運営されます。履修にあたっては十分注意して下さい。なお、法人税Ⅲ・Ⅳは税理士試験を踏まえた内容になっているため、職業会計人コース税務専攻3年生は履修することが望ましい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>納付税額の計算・条文理解を中心に、税理士試験の法人税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。</p> <p>授業計画【概要・授業の目標(予定)】</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>講義中に実施する中間試験の平均点と学期末に実施する試験の合計で100点満点として成績を評価します。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>法人税法一般テキスト・チェック／大原簿記学校 教材開発部:大原簿記学校, 2008</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>なお、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業は9月始めから12月までです。</li> <li>2) 試験は通常の試験期間外に行う予定です。</li> <li>3) この法人税法Ⅲは法人税法Ⅳと一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。</li> </ol>					
<b>連絡先</b>					
<p>質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。</p>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120018
<b>開設科目名</b>	法人税法IV			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	香田 一憲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この法人税法Ⅲは法人税法Ⅳと一体で運営されますので、履修には十分注意して下さい。詳細は法人税法Ⅲを参照してください。					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>なお、</p> <p>1) 授業は9月始めから12月までです。</p> <p>2) 試験は通常の試験期間中に行う予定です。</p> <p>3) この財務会計特論は商業簿記特論と一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120019
<b>開設科目名</b>	相続税法 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	小林 多恵子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
死亡した人が残した財産を引き継いだ場合に課される国税(相続税)と、他人から財産の贈与を受けた場合に課される国税(贈与税)について定めているのが相続税法です。人が死亡した時に、「誰がどの位の割合で財産を相続するのか？」などの学習をします。この相続税法Iは相続税法IIと一体で運営されますので、履修には十分注意してください。					
<b>授業の一般目標</b>					
税額の計算・手続等一連の流れ・財産評価を中心に相続税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 正しく相続人・法定相続人の判定が出来る。 2. 正確に相続税の計算が出来る。 3. 正確に贈与税の計算が出来る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義中に実施する中間試験の平均点と学期末に実施する試験の合計で 100 点満点として成績を評価します。					
<b>教科書</b>					
相続税法一般テキスト・チェック／大原簿記学校 教育開発部:大原簿記学校, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なお、 1) 授業は9月始めから12月までです。 2) 学期末試験は通常の試験期間外に行う予定です。 3) この相続税法Iは相続税法IIと一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A 棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120020
<b>開設科目名</b>	相続税法Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	小林 多恵子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
相続税法の基礎的な内容を学習します。この相続税法Ⅱは相続税法Ⅰと一体で運営されますので、履修には十分注意してください。詳細は相続税法Ⅰを参照して下さい。					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
なお、 1)授業は9月始めから12月までです。 2)試験は通常の試験期間中に行う予定です。 3)この相続税法Ⅱは相続税法Ⅰと一体で運営されます。履修登録には十分注意して下さい。					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120021
<b>開設科目名</b>	消費税法			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	篠田 聖一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
消費税は、商品の販売や建物賃貸など、お店が取引を行った場合に課される国税です。消費税にはこれらの取引の代金に5%が上乗せされますが、中には消費税が上乗せされないような取引もあります。その見分ける基準を中心に学習します。					
<b>授業の一般目標</b>					
税額の計算・手続等一連の流れを理解することを中心に、消費税法の基礎的な内容をマスターすることを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義中に実施する中間試験の平均点と学期末に実施する試験の合計で100点満点として成績を評価します。					
<b>教科書</b>					
消費税法一般テキスト・チェック／大原簿記学校 教材開発部:大原簿記学校, 2009					
<b>参考書</b>					
消費税法規通達集／日本税理士会連合会 編:中央経済社, 2009					
<b>メッセージ</b>					
なお、 1) 授業は9月始めから12月までです。 2) 試験は通常の試験期間外に行う予定です。					
<b>連絡先</b>					
質問がある学生諸君は、A棟2階プロジェクト推進室に来てください。曜日・時間は授業中にお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120022
<b>開設科目名</b>	原価計算論2			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中田 範夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>原価計算論2は原価計算論1を受講した後に受講すべき科目です。原価計算論1では公表財務諸表作成目的のための原価計算が中心だが、原価計算論2では原価管理や経営計画設定のための原価計算が中心である。活動基準原価計算は原価改善ステージで使用される原価計算であり、伝統的原価計算の欠点をカバーする。原価企画は製品の企画・設計時における原価削減(利益管理)のための手段である。また、品質原価計算やライフサイクル・コストニングについても講義してみたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>単に原価計算の技法を理解するだけでなく、企業環境変化が生産技術に影響を及ぼし、そしてその生産技術の影響を受けて原価計算が変化すべきことを理解してもらいたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>出席と学期末試験による。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>最新 原価計算講義／溝口一雄著:中央経済社</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032120023
開設科目名	管理会計論2			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	羽生 正宗			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032120024
開設科目名	マーケティング戦略論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	武居 奈緒子			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義の目的は、マーケティング戦略について理解を深め、マーケティング戦略を策定できるスキルを身につけることである。</p> <p>マーケティングにおける戦略論は、もともと経営学における戦略論のフレームワークを土台にして構築された。この講義では、マーケティング戦略を理解するために、次のような問題に焦点を当てて考えていきたい。</p> <p>(1) 企業は、どのように市場を選択するのか？</p> <p>(2) 選択した市場をどのように分析するのか？</p> <p>(3) 分析した市場をどのように接近するのか？</p> <p>(4) 企業は、マーケティング展開に対して、消費者の反応をどのようにフィード・バックするのか？</p> <p>以上のような諸課題を、理論と事例から追求していきたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1. マーケティング戦略について理解を深める。</p> <p>2. マーケティング戦略を策定できるスキルを身につける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験 80%、小テスト・授業内レポート 20%					
<b>教科書</b>					
現代マーケティング論／高嶋克義・桑原秀史:有斐閣アルマ, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120025
<b>開設科目名</b>	商品開発論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	柳田 卓爾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
商品開発をめぐる諸問題を理解するための基本的な枠組みを、解説する。					
<b>授業の一般目標</b>					
商品開発をめぐる諸問題を知り、理論的な枠組みを使って理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
原則として、定期試験 100%。レポート等を課す場合がある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
製品・ブランド戦略 現代のマーケティング戦略①／青木幸弘、恩蔵直人:有斐閣, 2004					
競争戦略論／青島矢一、加藤俊彦:東洋経済新報社, 2003					
経営戦略論 新版／石井淳蔵、奥村昭博、加藤野忠男、野中郁次郎:有斐閣, 1996					
<b>メッセージ</b>					
初回の講義の際に、詳しいレジュメを配布して、講義内容、進め方などについての説明を行う。履修希望者は、必ず出席すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032120026
<b>開設科目名</b>	保険論Ⅱ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	石田 成則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>保険論Ⅱでは、年金、医療、介護そして雇用保険などの、社会保険・社会保障の理念や仕組み、そして経済的な役割について学びます。少子高齢化が進んでいるわが国の事例を中心にしながら、諸外国の動向についても触れます。こうした制度の歴史、現状そしてこれからの課題を知ることで、年金や医療などのあり方について考えていきます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>少子高齢化や雇用・就労の多様化、そして経済・経営のグローバル化により、社会保険や社会保障がどのような影響を受けるかを理解する。そして諸外国の動向についても知ることで、これからの社会保険・社会保障について考え、より良い制度を選択する力を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 社会保険や社会保障の理念や構造そして役割について理解を深める。  <b>思考・判断の観点:</b> 社会保険・社会保障にかかる政策の是非を判断できる能力を涵養する。  <b>関心・意欲の観点:</b> 年金や医療などの時事問題に関心を深める。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末試験と平常点</p>					
<b>教科書</b>					
<p>老後所得保障の経済分析／石田成則: 東洋経済新報社, 2007</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>講義は社会保険・社会保障を理解する入り口にすぎません。日頃から新聞・雑誌そして各種報道で、関心を持ち続けて下さい。そして、自分年金、自分医療の発想で、望ましい政策を判断できる力を身に付けて下さい。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>いつでもどうぞ。</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032130001
<b>開設科目名</b>	貿易論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	田淵 太一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義は国際貿易理論を概説し、発展途上国を中心とする世界経済の現状に照らし合わせて、批判的に捉える考え方を紹介します。					
<b>授業の一般目標</b>					
比較優位の原理を中心に国際貿易理論の基本概念を把握したうえで、開発や現実の世界経済の動向から既存の理論に欠けている点を批判的に捉えることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験 100%					
<b>教科書</b>					
貿易・貨幣・権力／田淵太一:法政大学出版社, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
基礎理論のたんなるトレーニングでなく、批判的に理論を捉える思考のプロセスを身につける授業です。					
<b>連絡先</b>					
経済学部学務係					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032130002
<b>開設科目名</b>	国際金融論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	田淵 太一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
2007 年のサブプライム・ローン危機に端を発した世界金融危機は、現在、急速に世界恐慌へと深刻化しています。既存の国際金融理論は、この危機を予測できなかったばかりでなく、むしろその誤った理論がこの危機を生みだしてしまったと言っても過言ではありません。この講義では、既存の国際金融理論をただ学ぶのではなく、どのような誤りがこの危機を生みだしたのか、そして危機はどのように展開するのかを中心に考察してゆきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
現在進行中の世界金融危機の原因と進展を理解することを目的とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期末試験 100%					
<b>教科書</b>					
金融権力／本山美彦:岩波新書, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
世界不況によって、少なくとも今後数年は就職氷河期となるでしょう。みなさんの人生をも大きく左右する世界金融危機について、その意味と打開策をともに考えましょう。					
<b>連絡先</b>					
経済学部学務係					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032130003
<b>開設科目名</b>	物流論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>わが国は、原油をはじめ石炭や鉄鉱石、ボーキサイトなどの原材料を100%輸入し、食料品については熱量換算で60%を輸入しています。これらのエネルギーや原材料、食料品の輸送つまり物流は私たちの生活にとってのライフラインといえます。コンビニでお弁当が売っているのも、家庭で電気が使えるのも、すべて物流に依存しているのです。</p> <p>本講義では、私たちが何気なく使用しているモノを取り上げ、それらの流れの中で用いられる輸送機関(手段)や荷役機械、あるいはそれらが複合したシステムなどについて講義します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
物流に関する基礎知識を習得するとともに、経済と物流をめぐる諸問題について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は、出席(30点)、期末試験(70点)によって行います。					
<b>教科書</b>					
交通と物流システム／上羽博人他編:成山堂書店, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032130004
開設科目名	アメリカ経済論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	河野 眞治			区分	
<b>授業の概要</b>					
アメリカの産業について、その歴史、市場構造、競争の特徴について講義します。取り上げる産業は、自動車、鉄鋼、石油、コンピュータ、半導体、通信、航空、農業、銀行、スポーツなどです。また現在進行中の金融危機について、現実の変化にあわせて説明します。このテーマについては、講義をする時期ごとに展開しているかに応じて内容に変更があります。					
<b>授業の一般目標</b>					
アメリカの産業について一般的知識を獲得するとともに、産業を分析するときの方法について勉強する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> アメリカの産業について、基礎的知識を得る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> アメリカ経済の歴史現状に興味を持って新聞を読む。					
<b>技能・表現の観点:</b> 得た知識をレポートにまとめる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
小テストで60%(4×15回)、期末テストで40%、合計100点で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 10:00-12:00					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032130005
<b>開設科目名</b>	現代日本社会事情			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	河野 笙子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代日本に特徴的な社会的、経済的問題を、新聞や雑誌等の記事を通して様々な角度から取り上げます。テーマ別に編集された切り抜き記事コピー集の読解を中心に授業を進め、他国、他地域との比較文化論的な観点からの掘り下げも行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 経済学部で学ぶ外国人留学生に必要な基礎的知識・社会常識を身につける。					
(2) 時事日本語に対する読解力を身につける。					
(3) 時事問題に対する分析力を養う。					
(4) 現代日本社会に対する理解と認識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 時事問題の読解ができる。					
2. 取り上げられたテーマについて説明ができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 時事問題の背景や問題点について自分の意見が言える。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 現代社会で起きている様々な問題に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 1. 時事問題について問題意識を持って考えることができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 時事問題についての論述が日本語でできる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回、質問票などにより読解記事の内容に関する質疑応答を行って理解度をチェックする。その後の話し合いや意見交換への参加度も重視される。出席率は勿論重要であり、特別な理由がない限り7割以下の学生には単位を与えない。最後に、自分の関心の高いテーマについて800字～1200字程度のレポートを作成し指定期日までに提出する。レポートを提出しない場合も単位は与えられない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
留学生の皆さんが楽しく有意義で実り多い学生生活を送れるよう、多方面から支援・協力していきたいと思っています。気軽にC103室(留学生指導室)をお訪ねください。					
<b>連絡先</b>					
k-shoko@yamaguchi-u.ac.jp 電話(933)5562 研究室: 経済学部C103室					
<b>オフィスアワー</b>					
木曜日14時30分～16時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032130006
開設科目名	国際地域統合論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	尹 春志			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>現在、経済のグローバル化が叫ばれるなか、世界中で自由貿易協定、地域協定の締結が進められています。それは、従来、多角主義を通商政策の基本としてきた日本も例外ではありません。この講義では、なぜいま自由貿易協定、地域協定がなのか、そして日本の通商政策はこの点でどのように変容しているのかについて検討を行います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>現在の世界経済の政治経済を見るうえで、自由貿易協定、地域協定の締結の動きは欠かすことのできない題材です。この講義では、こうした論点を詳細に検討することを通じて、現在のグローバル経済の力学関係を理解することを目標とするものです</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 世界経済の基礎的な構造について理解する。  <b>思考・判断の観点:</b> 日本の通商政策を展望する力を養う。  <b>技能・表現の観点:</b> レポート課題を通じて、大学生としての文章作法を身につける。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートと期末試験で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032130007
開設科目名	東アジア経済論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	尹 春志			区分	
<b>授業の概要</b>					
東アジアは、歴史上まれに見る急成長をとげ、世界の工場といわれるまでになっている。この経済成長の過程には、日本経済と日本企業が重要な役割を果たしてきた。この講義では、東アジア地域の経済構造を、主に生産、貿易、投資、企業活動の観点から、可能な限り統計的な数値を用いて分析し、日本と東アジア経済の関係についての理解を深めることを目的としている。					
<b>授業の一般目標</b>					
東アジア経済は、どのように発展してきたのか、またそれは日本経済や日本企業とどのような関係にあるのかを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知職・理解の観点:</b> 東アジア経済についての基本的な特徴を知り、日本と東アジアの経済的な結びつきを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 地域経済の分析に必要な統計数値とその読み方について学ぶ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験で100%評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032130008
開設科目名	韓国経済論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	横田 伸子			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>1.1960年代後半以降、韓国経済は「漢江の奇跡」と呼ばれる高度成長を遂げた。本講義では、韓国経済の発展のメカニズムを、「開発国家」に集約される強力な国家の役割と、「組立型工業化」と呼ばれる工業化パターンの両側面から見ていく。</p> <p>2. 1960年代後半以降の経済発展の中で、韓国の社会・経済・政治構造がどのように変わっていったのかを、労働市場構造、社会政策、労働者の生活構造の変化を通してみる。この際、日本と比較することによって、韓国の特徴を浮き彫りにしたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1.韓国の経済発展のメカニズムについて考える。</p> <p>2.韓国の労働市場構造、社会政策、生活構造の変化を歴史的・構造的に捉える。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて構造的に理解する。					
2. 韓国の労働市場構造、社会政策、生活構造の変化を歴史的・構造的に理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に体系立てて説明できる。					
2. 韓国の労働市場構造、社会政策、生活構造の変化を論理的に体系立てて説明できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 現在の問題だけでなく、韓国の歴史や文化について関心を持つ。					
2. 同じ東アジア文化圏にある、韓国と日本、それに中国も含めて比較分析する視点を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 1. 本講義に対して、質問や自分の意見を提示するなど、講義に主体的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に体系立てて自分の言葉で叙述できる。					
2. 韓国の労働市場構造、社会政策、生活構造の変化を論理的に体系立てて自分の言葉で叙述できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に評価する。					
2. 出席を重視する。					
3. 試験 60%、レポート 10%、授業への参加度 10%、出席 20%。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
韓国の経済／隅谷三喜男：岩波書店，1976					
韓国の工業化／服部民夫他：アジア経済研究所，1987					
韓国の工業化と開発体制／谷浦孝雄：アジア経済研究所，1989					
東アジア経済の発展と日本：組立型工業化と貿易関係／服部民夫：東京大学出版会，2007					
経済危機後の韓国：成熟に向けての経済・社会的課題／奥田聡編著：アジア経済研究所，2007					
<b>メッセージ</b>					
<p>昨年末からの経済危機によって、日本でも韓国でも若者の雇用が危機にさらされています。「反貧困」をキーワードに、両国で若者による新しい社会運動やネットワークが育ちつつあります。日韓の厳しい社会経済状況を冷徹に見据えつつも、新しい社会的連帯の模索の中で社会的排除や貧困からどのように抜け出していくのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。</p>					
<b>連絡先</b>					
Tel)083-933-5559(研究室)					
e-mail)yobuko@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032140001
開設科目名	法学Ⅱ			単位	2単位
対象学生	a			学年	～
担当教員	平中 貫一			区分	
<b>授業の概要</b>					
この授業は経済学部 の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則が中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことからも扱う。					
<b>授業の一般目標</b>					
民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことについて理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 民法の位置づけを理解する。法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてごく初歩的な知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> きちんと予習・復習をする習慣を身につける。					
<b>態度の観点:</b> 私語などにより授業を妨害しない。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と期末試験による。					
試験は基本的な内容を中心とするため、試験の持込は認めない。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。					
また、3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また風邪や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。					
なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032140002
開設科目名	法学Ⅱ			単位	2単位
対象学生	b			学年	～
担当教員	油納 健一			区分	
<b>授業の概要</b>					
この授業は経済学部 の基盤科目の一つであり、この授業を履修することで、専門科目としての法律学のうち私法に属する科目の学習に必要な基礎知識を得ることができる。内容としては、民法総則が中心となるが、あわせて損害賠償法についてのごく初歩的なことからも扱う。					
<b>授業の一般目標</b>					
民法総則の基礎知識を習得し、あわせて損害賠償法についてごく初歩的なことについて理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 民法の位置づけを理解する。法律用語を正確に理解する。民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。債務不履行や不法行為法についてごく初歩的な知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 事実に法を当てはめて答えを導き出す能力を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> きちんと予習・復習をする習慣を身につける。					
<b>態度の観点:</b> 私語などにより授業を妨害しない。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と期末試験による。					
試験は基本的な内容を中心とするため、試験の持込は認めない。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて(雑談を除く)とする。					
また、3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。遅刻・早退は欠席とみなす。また病気や家庭の事情等で遅刻・早退・欠席した者に対して、救済することはない。					
なお、欠席とみなされたにもかかわらず出席を認めるようにしつこく主張したり、雑談・筆談して講義を妨害するなど、教員の指示に従わない者は不合格とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yuno@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
毎日研究室にいる。在室中は急用がある場合を除きいつでも相談に応じる。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032140003
開設科目名	法学Ⅱ			単位	2単位
対象学生	c			学年	～
担当教員	吉川 信将			区分	
<b>授業の概要</b>					
経済学部 の 基盤科目の一つであり、この授業を履修することにより専門科目としての法学のうち私法に属する科目(民法・商法等)の学習に必要な基礎知識を習得できる。内容としては、民法総則を中心とし、損害賠償法に関する初歩的な事柄についても取り扱う。					
<b>授業の一般目標</b>					
民法総則の基礎知識を修得し、あわせて損害賠償法の初歩的な事柄についても理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 民法の位置づけを理解する。 基本的な法律用語を理解する。 民法総則に関する諸概念・諸制度を理解する。 債務不履行や不法行為法について初歩的な知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 事実に法を当てはめて答えを導き出す思考法を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 事前に予習して授業に臨み、理解できなかった点は質問する姿勢を身につける。					
<b>態度の観点:</b> 私語禁止。携帯電話の使用禁止(メール・インターネットの閲覧含む)。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験を主とし、出席及び受講態度を加味して評価する。他の受講者の迷惑となる者、または著しく受講意欲に欠ける者は減点するか、以後の受講を中止させることがある。					
<b>教科書</b>					
民法法入門第5版/野村豊弘:有斐閣, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
できる限り平易に解説するので、講義に出席することにより確実に民法の基礎知識を習得できるはずである。そのためにも、①座席は座席番号の付された席のみ着席可とし、前方の座席が埋まらない限り、後方の座席は使用しないものとし(座席番号の付された席が満席となった場合のみ前方の座席から順に、座席番号の付されていない席への着席を認める。)、②出席点のみを目的とし、他の学生の履修に妨げとなる者や履修意欲の欠如した者は、以後の受講を禁じることがある。					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟413研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日12:50～14:20					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032140004
<b>開設科目名</b>	憲法Ⅱ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	梶原 健佑			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本講義では憲法学のうち、人権論を扱う。憲法第3章の規定をもとに、様々な事例を紹介しつつ、判例と学説の評価を軸にして講義する。公権力との関係において、私たちは、何をどこまで正当な主張として展開できるのかを学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
憲法に規定された人権(基本権)の法力とその限界について、とりわけ限界を見定めるための独特な思考枠組み(判断の基準)を理解する。 社会一般にいう「人権問題」の相当部分が憲法問題ではないことを理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 「人権」の法力とその限界につき、判例・学説のいうところを理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 通説・判例を批判的に検討することができる。知識を体系的に整理し、具体的事例に応用することができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 内なる知識・思索を、他人に分かり易くアウトプットすることができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験の結果で評価する。試験の形式・救済策等は初回講義時にアナウンスする。 なお、受講態度を減点要素として考慮することもありうるので注意されたい。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
憲法2 基本権クラシック[全訂第三版]／阪本昌成:有信堂, 2008					
<b>メッセージ</b>					
憲法Ⅰを履修済み(単位取得の有無は問わない)の学生の履修が望ましい。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032140005
<b>開設科目名</b>	民法IV			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	三間地 光宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
不法行為法を学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
不法行為法を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 不法行為法について基礎的なことを理解する。					
<b>態度の観点:</b> 私語などによって他の受講者の学習を妨げないこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験による。					
なお、私語などによって他の受講者の学習を妨げる者は期末試験の受験を認めないことがある。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
連絡用メールアドレスは第一回目の授業の際に配付するプリントに記載。					
<b>オフィスアワー</b>					
未定。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032140006
<b>開設科目名</b>	刑法各論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	安里 全勝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
刑法各論の内容を理解して貰う。刑法は犯罪と刑罰を規定する法律であるが、刑法各論の授業は具体的な犯罪の内容を考察することになる。最初の授業の時に講義要項を配布し、それこしたがつて授業を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
具体的な犯罪の考察において不可欠となる保護法益、行為の主体、行為の客体等を考察していく。具体的には判例を考察し、刑法理論がどのように適用されていくのかを見ることにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 刑法各論の内容を理解して貰う。犯罪は具体的な罪名を持つ。そこで、それらの犯罪に刑法理論がどのように適用されているかを理解して貰う。					
<b>思考・判断の観点:</b> 法的思考の観点から、法的理論が具体的事案にどのように適用されていくのかを理解して貰う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験、レポート等、出席を参考。					
<b>教科書</b>					
刑法各論(財産に対する罪) / 安里全勝: 成文堂, 2009					
<b>参考書</b>					
演習ノート刑法各論[第4版] / 岡野光雄: 法学書院, 2008					
<b>メッセージ</b>					
予習、復習をして欲しい。 毎回出席すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032140007
開設科目名	商法Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	中村 美紀子			区分	
<b>授業の概要</b>					
本年度は、わたくしたちの社会生活と密着した存在である会社企業について、その組織と活動を規制する会社法の内容を商法Ⅱおよび商法Ⅲで取り扱うこととします。本講義では、会社の中心をなす株式会社のとくに大規模な株式公開会社について、その運営、基礎の変更、再建・再生、解散・清算について概説します。					
<b>授業の一般目標</b>					
受講生が会社法制度の仕組みについて理解し、判例を通じて法解釈学のエッセンスにも接することを目標とします。受講生の理解度に合わせた進捗を設定し、双方向の授業を目指すつもりです。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 会社法の基本が分かるようになる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 会社法判例が読めるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 例示した模範的解答に近づこうと思うようになる。					
<b>態度の観点:</b> 遅刻・無断欠席をしなくなる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 答案の作り方が分かるようになる。					
<b>その他の観点:</b> 授業中の私語をしなくなる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験の評価割合は70%(講義回数の70%以上の出席者に期末試験受験を認める)、コメントシート(=まとめ問題の解答および出席)の評価割合は30%(ボーナス加算あり)。					
<b>教科書</b>					
テキストブック会社法/末永敏和[編著]:中央経済社, 2006					
<b>参考書</b>					
会社法判例百選/江頭憲治郎他[編]:有斐閣, 2006					
<b>メッセージ</b>					
受講生は法学Ⅱを履修済みであることが望ましく、商法Ⅰを履修済みであることが理想的です。2009年度版の六法を必携するようにしてください。小型のもので構いません。出席回数は自己管理で把握してください。					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟319研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日 16:10-17:40					



<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032140008
<b>開設科目名</b>	社会法Ⅱ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	柳澤 旭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
労働関係と社会保険法について主に理解することが目的である。					
<b>授業の一般目標</b>					
日常の新聞記事を読んで法的問題点が理解できるようになること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的な法律問題の理解。					
<b>思考・判断の観点:</b> 他の事例について知識を動員して解決できること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 新聞記事を読み自分で六法や教科書を読み興味を持つこと。					
<b>態度の観点:</b> 講義を疑問を持ちつつ聴くこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
社会法における労働と社会保険との関係を理解することが講義の目的である。					
<b>教科書</b>					
未定					
<b>参考書</b>					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032140009
<b>開設科目名</b>	民事訴訟法			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	上田 和義			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>民法・会社法その他私法は、社会生活や事業を営む上での事実上の行為規範となっていますが、最終的には、裁判規範として民事裁判でその内容が実現されます。</p> <p>つまり、実体法が理解できていたとしても、裁判の手続きや仕組みが分かっていなければ、実体法も本当に理解できたことになりません。</p> <p>そこで、本講義では、民事訴訟法の全体的な構造と、社会的に多く利用される実体法の適用を中心に、実際の訴訟などで直面するであろう問題を取り上げていきます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
一般社会生活や事業を営む上で必要な民事訴訟制度の全体構造と、訴訟提起時に直面するであろう問題点を理解することを目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験100%					
<b>教科書</b>					
民事訴訟法【第5版】有斐閣Sシリーズ／上原敏夫ほか；有斐閣，2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032140010
<b>開設科目名</b>	行政法Ⅱ			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	石 龍潭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>現代福祉国家は、我々の日常生活の隅々にまで行政が関係してくるが、そうした行政の働きの過程で我々の権利や利益が違法に侵害されたとしたら、どうすべきであろうか。それが行政救済法の問題である。その意味で行政救済法は、行政の総仕上げという意味をもつ。この講義では、行政、行政法といった基礎概念を再確認したうえで、具体例を素材にしながら行政救済の問題を考えていきたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>具体的な事例を行政法の立場から分析し、行政争訟及び国家補償の問題となった場合にどう解決が可能かを、説明できるようになることを目標とする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験による。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>一緒に頑張りましょう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>質問等のある学生は、気軽に私の研究室にきてください。 (研究室:経済学部 A 棟 408 号室)</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032140011
<b>開設科目名</b>	税法 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	安住 修一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
望ましい税制のあり方を考えるに当たって、主要な税(所得税、法人税、消費税)についてそれぞれの基本的仕組み(課税対象、所得・税額の算出方法)や負担割合の現状及びそれぞれの税の特色・欠点等を比較し、さらに諸外国の税制との比較を通し学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
主要な税(所得税、法人税、消費税)の基礎的知識を学びつつ、税を身近なものと考え、公平・中立・簡素などの租税原則に照らし、望ましい税制のあり方とはどのようなものかなどについて考えること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席 20% + テスト 80%					
<b>教科書</b>					
図説日本の税制: 財経詳報社, 平成 20					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
(TEL) 083-933-5580 (メール) azumi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 10 時 30 分～12 時					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032140012
<b>開設科目名</b>	政治学Ⅱ			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	渡邊 幹雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>政治学1における一般的な講義を受けて、こちらではかなりテクニカルな問題に踏み込みます。具体的には、集合的な意思決定の指針となる社会的厚生関数の問題について、新旧の厚生経済学、法哲学、そして現代政治理論・正義論を横断的に論じます。テクニカルな作業に通じることが目的ではなく、そのように表現されるものの背後にある問題を的確に理解することに努めます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>厚生経済学・法哲学・政治理論の各分野においてなにが中心的テーマになっているのか、どうしてそれが問題となるのかを理解することがこの授業の一般目標です。テクニカルな作業はそのための道具ですので、難しく考えることはありません。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末におこなう定期試験で決定します。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>授業終了後の一定時間であれば、いつでも結構です。</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150001
開設科目名	観光経済学			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	河村 誠治			区分	
<b>授業の概要</b>					
観光経済学は、経済学の諸理論をベースにしながらも、経済学の周辺領域の学問も織り混ぜながら、観光活動に見られる経済的に特有な諸々の現象や矛盾を分析し研究し、観光経済の発展を「観光公害」などの理由から否定するのではなく、その発展のための条件やその法則性を探ろうとする応用経済学である。本講義では、観光経済の細胞とも言える観光商品を分析した後で、観光商品の需給関係、観光商品の価格、観光消費、観光収入とその分配と、ミクロからマクロまでの観光経済の領域全般についての原理を説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
観光経済の研究、具体的には(1)観光商品とその需給および観光マーケティングに関するミクロ経済的研究、(2)観光経済の性質と特徴に関するマクロ経済的研究を行なう上での基本的な知識・理解を講義し、思考・判断、関心・意欲を育む。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 観光経済の基本概念を説明でき、その基本的な専門用語を識別できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 観光経済を、主にミクロ経済学、マクロ経済学、および政治経済学などに基づいて分析し、観光経済を多面的にかつ重層的に捉えることができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 大衆観光をリードする観光産業や観光を指導する政府の経済活動、観光による地域経済の振興、ひいては国民経済の発展に対する関心が高まるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 教科書の予習・復習を行い、講義を聴き、理解できなかった点や不明な点を質問することができるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験=100%、欠席率3分の1以上 = 欠格条件。					
注1. 出席の取り扱いについて。出席カードで出席を確認する。欠席率が3分の1以上の学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業中に配布し、回収する。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えない。					
<b>教科書</b>					
新版 観光経済学の原理と応用/河村誠治:九州大学出版会, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ミクロ経済学、マクロ経済学そのものを講義する授業ではありません。あくまでもそうした経済学をもとにした応用経済学(applied economics)です。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150002
開設科目名	観光サテライト・アカウンティング			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	朝日 幸代			区分	
<b>授業の概要</b>					
観光産業の経済波及効果は広範囲な部門に影響を与えるため、観光資源の有効利用が国・地域経済を活性化させるものとして位置付けることができる。これらの効果を多産業部門間の相互依存関係を通して経済の循環構造を定量的に分析できるツールの1つに産業連関分析がある。またその他の計量経済学的手法で時系列の経済影響を分析することも可能である。ここでは産業連関分析を含めた計量経済学的手法を学び、実証分析を行いながら、地域経済における観光産業活動とその役割、観光政策の有効性についての評価を考察できる分析能力を養う。この講義はコンピュータールームにおいて実習形式で行うものである。					
<b>授業の一般目標</b>					
SNA におけるサテライトアカウントの位置付けを理解し、観光データの現状と問題点を具体的に解説することができる。観光データとその他の経済データを用いて観光サテライトアカウントを計測する方法を解説ができ、課題問題として提示されたデータにおいて計測することができる。また、産業連関分析を理解し、産業連関表を用いた観光消費と観光関連施設の建設等の波及効果の分析を行うことができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 観光データの問題点を理解している。 サテライトアカウントと観光サテライトアカウントを説明できる。 産業連関分析の理論を習得し、実際の分析の仕方を理解している。					
<b>思考・判断の観点:</b> 観光データや経済データを扱う際に、それぞれのデータの特徴を検討し、用いることができる。 講義で取り上げる内容について、どのような意味があるのかを思考しながら、実習講義に取り組むことができる。					
<b>態度の観点:</b> 課題に積極的に、ねばりよく取り組むことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> マイクロソフトエクセルの機能を理解し、必要な作業を短時間で行うことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
講義中に何回か出す課題のレポート(評価比率 60%)と定期的に講義時間以外を用いて作成していただくレポート(評価比率 40%)によって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
観光経済学入門/ジェームズ・マック著; 瀧口治, 藤井大司郎監訳: 日本評論社, 2005					
<b>メッセージ</b>					
マイクロソフトEXCELを頻繁に利用している経験をもっていることが望ましい。この講義は実習講義ですので、積極的に課題に取り組んでいただきたいと思えます。また欠席をすると、次回の講義に参加しても、作業内容が理解できないことも極めて多いことから、出席を必ずお願いします。講義中に前回欠席者の個別指導は他の学生さんの迷惑になるので行いません。忌引きや病気で欠席した受講生は講義の前日までに研究室へ相談に来てください。					
<b>連絡先</b>					
asahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150003
<b>開設科目名</b>	観光産業総論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	河村 誠治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
観光産業総論では、「観光概論」に立ち戻り、観光における観光産業の意義・役割を示すとともに、その全般的な特徴を説明したあとで観光産業を構成する旅行業、旅客輸送業、ホテル・旅館業、ホテル・レストラン業、旅客輸送業、テーマパークなど、それぞれの事業内容などを取り上げる。					
<b>授業の一般目標</b>					
観光客の視点からだけの観光の理解ではなく、大衆観光をリードしてきた観光産業の視点から観光の理解を促す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 観光産業および観光産業主要6業種の概要。					
<b>思考・判断の観点:</b> 効率と効果の違いを個別産業に当ては理解できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 観光資源や観光商品だけでなく、大衆観光をリードする観光産業の経営・労働面に興味を抱く。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験=100%、欠席率3分の1以上 = 欠格条件。					
注1. 出席の取り扱いについて。出席カードで出席を確認する。欠席率が3分の1以上の学生については期末試験の受験資格がない。出席カードは授業途中に配布し、回収します。配布後に遅刻してきた学生には出席カードを与えません。					
<b>教科書</b>					
新版 観光経済学の原理と応用、／河村誠治:九州大学出版会, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150004
開設科目名	広告宣伝論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	MARC LOHR			区分	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、マスメディアの広告が持つさまざまな側面を包括的に分析する。					
<b>授業の一般目標</b>					
マスメディアの広告の特徴と機能を受信者として、そして送信者として理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 広告市場と広告の機能を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 広告の有効性について判断する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極適に広告を分析できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席(欠格条件)、広告企画の作成(50%)とグループ・プレゼンテーション(50%)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150005
開設科目名	観光地理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	朝水 宗彦			区分	
<b>授業の概要</b>					
本講義では観光関連の基礎的な科目をさらに発展させるために必要である知識を身につける。前半部で観光地理学を学ぶために最低限必要な定義や専門用語などを扱う。後半部では現代における観光政策の多様性や観光関連の法整備、観光が経済的・文化的に及ぼす影響の諸事例を中心に、各地域のケーススタディを用いながら授業を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
本講義では初学者から既学者まで観光地理学について学べることを目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 観光地理学に関する基本的な概念や歴史的背景、関連産業との結びつき、社会・文化的な影響等について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 観光地理学に関する諸現象のうち、特に欧米諸国およびアジア太平洋諸国に関する事例を包括的に分析できるようにする。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 本講義内での基礎的事項を足がかりに、各自で観光地理学に関する問題設定を行い、初歩的な調査研究が行えるようにする。					
<b>態度の観点:</b> 授業の参加や課題提出を通して、学習態度を示す。					
<b>技能・表現の観点:</b> 期末試験を通して、学習した事象を的確に表す。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席 15 点、中間課題 15 点、期末試験 70 点で評価する。出席は出席票を用いるが、配布後に遅刻した学生の出席は無効とする。中間課題はレポート形式で、最低限3タイトルの文献調査を行うこと。期末試験は記述式なので試験前に十分復習を行うように。					
<b>教科書</b>					
開発と環境保護の国際比較／朝水宗彦:嵯峨野書院, 2007					
<b>参考書</b>					
新観光地理学／山村順次:原書房, 2004					
オーストラリアの観光と食文化(改訂版)／朝水宗彦:学文社, 2003					
持続可能な開発と日豪関係／朝水宗彦:くんぶる, 2004					
高まるアジア・豪州のニッポン観光熱／日本経済新聞社産業地域研究所編:日本経済新聞社産業地域研究所, 2008					
Global Mobility／ASAMIZU Munehiko ed.:Kumpul, 2008					
<b>メッセージ</b>					
プリント等の配布物が多いのでA4サイズのファイルを各自用意するように。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150006
<b>開設科目名</b>	文化心理学			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>選択すること、誉められること、自己主張することは、楽しいでしょうか？この質問への答えは文化に深く影響される。「個人主義」日本人は「集団主義」という理論から始まった文化の心理学は急ピッチで発展している。今は、より細かくより構造の整った行動についての理論が構築されている。本授業では、多くの事例・実験・視覚教材を使いながら文化心理学の理論を紹介し、観光の現場など異文化接触場面での応用を考える。</p> <p>授業中では、他の武本担当科目と同様、クラスメートと話し合ってもらい、質問や発言する学生にポイントカードを与え、評価の対象とする。隣に座っている学生と話すことは履修条件です。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業の目的は、「異文化コミュニケーション」で教えられた内容のより進んだレベルまで、文化と心理の関わりを考え、なぜ違いが起きるのか、これらの違いがどのように関係しあっているかについての理解を深めること。また、観光をはじめ異文化接触・異文化コミュニケーション場面で、文化心理学の理論を応用する力を育成する					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文化心理学の研究についての知識					
<b>思考・判断の観点:</b> 文化心理学の理論を理解し、観光などの異文化コミュニケーション場面で応用すること					
<b>関心・意欲の観点:</b> 文化的な違いをより深く考える関心を持たせること					
<b>態度の観点:</b> 文化の違いを受け入れる態度を強めること					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
試験・修行参加・自分が見つける文化心理学・少テストで評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
自己と感情:文化心理学による問いかけ/北山忍:共立出版, 1998					
木を見る西洋人 森を見る東洋人/R・E・ニスベット:ダイヤモンド社, 2002					
社会心理学:アジア的視点から/山口勲:放送大学教育振興会, 1998					
<b>メッセージ</b>					
いつでもご連絡ください。					
<b>連絡先</b>					
教員 HP <a href="http://nihonbunka.com">http://nihonbunka.com</a>					
コースホームページは YUFOE.com から入れます。					
<b>オフィスアワー</b>					
授業時間以外					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150007
<b>開設科目名</b>	中国社会文化論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	齊藤 匡史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国理解を近現代文明の特質を探ることから始め、改革開放の今日の状況に至る経緯、二大都市の考察による中国文明の多様性理解を進める。さらに広大な中国の文明・文化の特質を各地域の状況から把握する。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国近現代文明史を理解する</li> <li>・改革開放により変化を遂げた中国社会、生活を理解する</li> <li>・中国各地域の文化や状況に触れる</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートを中心に評価する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150008
<b>開設科目名</b>	英米文化論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>英米の文化で、「旅」がどのようにとらえられているかを見ていく。 イギリスとアメリカ、またはこれらに影響を与えた他の文化における「旅」の概念を、旅行記・小説・映像での描かれ方を実際に検証し学習する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
英米における「旅」の概念について、またその背景となる英米(あるいは西洋)文化全般について理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席+レポート+α 詳細については、初回の授業で説明する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150009
開設科目名	ライティング(英語基礎強化)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	宮崎 充保			区分	
<b>授業の概要</b>					
ライティングは英訳の場合とそうでない場合があります。英訳(翻訳とも言う)はまた別のスキルを要求しますから、この授業では、何かに関して自己表現・自己発信をするやり方を the writing of English と称して行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある一定時間で所期の目的の英文を書けるようになる。</li> <li>・そのために英語を多読する習慣を形成する。</li> <li>・多読と書くことから文法を知る。</li> <li>・同時に語彙力を増強する。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 目的に沿う英文が書くために「目的」が明確にできる。					
その表現が客観的に理解できるための文構造の展開の仕方を知る。					
<b>思考・判断の観点:</b> 的確な言葉遣い。					
的確な文体。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自己表現・自己発信できる。					
Writing skills を高めるために多量の英語を自分に取り込む。					
<b>態度の観点:</b> 日常的な積み重ねの習慣形成をする。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自己の英語を批判(推敲)できる。					
伝える工夫を表現の中に込められる。					
<b>その他の観点:</b> 表現する＝人にわかってもらう面白さを知る。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席4回目で欠格とする。</li> <li>・授業でのアクティビティのパフォーマンス。</li> <li>・自習課題</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いたものは、必ず推敲する習慣をつけてください。</li> <li>・よりよい表現を求めて、文の構造を変えたり、単語の選び方に工夫をしてください。そのために和英より英々辞典を多用してください。辞書から単語使用に関する文法情報を得て、また、例文を参考にしてください。</li> <li>・辞書を引いた形跡のない英文は最低の評価しかしません。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
mmiy@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
空いた時間はオフィスアワーにします。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150010
開設科目名	会話(英語基礎強化)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT			区分	
<b>授業の概要</b>					
TOEICのSWテストを受けようと思っている学生や留学を目指している学生や観光学科の学生にお薦めするこの授業は、共通教育のイングリッシュスピーキングに似ていてより進んだレベルの英語スピーキング能力を身に付けるための需要です。授業内ではひたすら英語で話し聞き、授業の外では教科書を読んでおいてもらったり、単語を覚えてもらったりしてもらいます。会話のテーマは山口大学での生活です。					
<b>授業の一般目標</b>					
この授業の目標は、発信型の英語スピーキング能力を身に付けることです。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 自分自身の性格・嗜好や山口での生活を説明できるための簡単な文法表現を理解すること 自分自身の性格・嗜好や山口での生活を説明できるための簡単な英単語を覚えること					
<b>思考・判断の観点:</b> 自分もっている英語について知識を、英語コミュニケーション即戦力に活かすこと					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分がわからないことをはっきり「分からない」という表現する潔い態度 間違った英語でも自己表現すること					
<b>態度の観点:</b> 英語や間違いを恐れないこと					
<b>技能・表現の観点:</b> 簡単な構造や単語でも、即座に英文を作り発話すること 自分自身や自分の生活について文章を書くこと					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
教科書のテキストを読みオンラインで TOEIC Part 7 風の教科書についての解読問題に答えることと、授業中の参加で評価します。					
<b>教科書</b>					
English Speaking/Timothy Takemoto: 自費出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
英語はスポーツのようなものだと思います。ファイト!					
<b>連絡先</b>					
<a href="http://nihonbunka.com">http://nihonbunka.com</a> からの電子メールリンクを使ってください。					
<b>オフィスアワー</b>					
授業時間以外にいつでもよいです。					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150011
<b>開設科目名</b>	ビジネス英語			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	古賀 武陽			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。					
<b>授業の一般目標</b>					
国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ビジネス文書を正しく理解し、書けるようになること。					
<b>思考・判断の観点:</b> ビジネス文書の背後(ビジネス環境、社内事情など)を正しく理解する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 国際ビジネスへの関心を高める。					
<b>態度の観点:</b> 国際理解力を高める。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語発想に基づく英語の文書作成能力をつける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発想力および表現力の両面でスキルが着床しているかどうかを評価のポイントとなる。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
グローバル・マインドをもって世界を見よう！					
<b>連絡先</b>					
kogatake@jupiter.ocn.ne.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150012
開設科目名	ビジネス・ライティング			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	ALAN ROBERT CHRIST			区分	
<b>授業の概要</b>					
Writing in English and other forms of English within a business context will be emphasized.					
<b>授業の一般目標</b>					
By placing themselves in hypothetical business situations, students will be able to write using E-mail in English appropriate to various office situations.					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> The forms and conventions of business correspondence, primarily by Email will be studied.					
<b>態度の観点:</b> The more that students are willing to stretch their knowledge of English and unburden themselves of the fear of making mistakes, the better their English will progress.					
<b>技能・表現の観点:</b> Personal expression in differing business situations will be maximized.					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
Grades will be based on the following: Weekly Homework 40%					
Final Test 40%					
Class Participation 20%					
<b>教科書</b>					
Email at Work, Schneer, MacMillan					
Quick Work,,					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150013
<b>開設科目名</b>	現代経済英語			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	正宗 聡			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>担当講師が「経済学」の専門家ではないものの、考えてみれば何をこの授業の教材として扱うにしても、その教材の内容に、経済的なものはつきまとう。したがって、この授業科目名の経済部分は間接的にカバーできると考えたうえで、科目名を構成する「現代」というもうひとつのキーワードに関してはどうだろうか。この点については、BS放送など最新のメディアが伝えたものから教材を選びもってくることで、カバーできるのではないかと考えている。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1 英語圏(アメリカ)の現在の様子に触れる。  2 1のプロセスを通じて、英語の表現を拾い一つ覚え、身につけていく。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>アメリカの最新事情に少し触れる。  英語のさまざまな表現を知る。(あまり「学校」では扱われないようなものにより注意を払いたい。)  <b>関心・意欲の観点:</b>教材で取り上げられた事象について、自らさらに調べてみる姿勢が大事。  <b>技能・表現の観点:</b>アメリカの最新事情を知るにあたって、英語という表現媒体を意識する。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業における発表 (50パーセント)  小テスト合計点( 50パーセント)</p> <p>出席は言わずもがなの、当たり前の条件です。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>正宗の授業(共通教育も含めて)を過去に受講したことのある方は、必ず事前に相談に来ること。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>経済学部、教員室</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>未定</p>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150014
<b>開設科目名</b>	時事英語			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、新聞・雑誌やニュース番組を教材として使用する。そこで使用されている英語表現について、その構文的特徴を学び、同時代的問題を表す語彙を習得する。また、全般的な読解力と聴解力の向上を目指す。					
<b>授業の一般目標</b>					
新聞等で使用されている英語表現を学ぶ。読解力と聴解力の向上を目指す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主として、小テストの成績+期末テスト、で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150015
<b>開設科目名</b>	観光英語			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信, TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT, 宮崎 充保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この授業では、観光に関連する様々な英語の運用法を学習する。特に観光旅行のための情報収集、観光スポットの宣伝、観光客の受け入れの 3 つの状況を設定し、それぞれ局面で必要とされる英語表現や用法を学ぶ。</p> <p>具体的には、1) 英語で提示されている既存の観光地の情報に実際に触れ、その表現上の特徴を検証する。2) 特定の土地の歴史や自然から、より身近な事物まで観光地としての魅力を(再)発見し、それを宣伝する演習を行う。3) 観光客を迎えて、観光地の案内やホテル等での応対にふさわしい英語を学習・訓練する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>特定の土地の観光資源を開発・宣伝し、観光客の受け入れ・案内を英語で行うことができるようになるのが、最終的な目標である。</p> <p>そのために、1) 英語による情報収集力の向上、2) 対象を適切に説明できる英語力の訓練、3) 観光客に「歓待の心(hospitality)」を伝える英語、好感を与える英語の修得を目指す。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>発表等の授業参加状況・授業中の態度による評価(1/3)、宿題・自習課題(WBT 形式で提示されることもある)での評価(1/3)、小テストやレポートでの評価(1/3)、を合わせて成績を出す。</p> <p>尚、この授業全体を通して 4 回以上の欠席をした者には単位を出すことはできない。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>宮崎 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>武本 e-mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp</p> <p>鴨川 e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150016
開設科目名	TOEIC400			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	山根 和明			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>TOEICは難しい、面倒臭いとよく言われるが、本当は楽しく学べるもの。英語の歌で発音訓練をし、ペアで会話訓練をして、カセットプレーヤーをうまく活用し、リスニング問題の指導を行う。400レベルはTOEICでは入門レベルである。そのため、基本的な内容を重視して指導する。リスニングではパート1, 2にある程度時間をかける。リーディングでは特に基本的ボキャブラリーの習得に力点を置く。とくに私の授業では独特の家庭用カセットテープを配布することになる(1本200円かかる)。自宅にカセットテープをかけるプレーヤーがない場合はご両親やご祖父母にあらかじめおたずねしてお借りするとよい。それでもない場合は量販店で300円から4000円である。また、ヤフーのネットショッピングのオークションコーナーや、街の中古ショップに500円からあるので、再生機能だけあるものでよいので購入を進める。長い間のTOEIC指導でCDよりもカセットテープの効用を確信しているのでぜひ用意すること。これまでの受講生で良い成績を上げている人は全員この指示に従い、しかもカセットの効用を絶賛している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>各期に2回あるTOEIC学内団体テスト(IP)またはSP(公開テスト)を受験して400点以上を得点しなければ単位は出せないことになっている。授業では400点を取れる攻略法を指導するのはもちろんだが、英会話ができるように、また、英文メール、手紙、資料などが素早く読めるように指導する。楽しく学んで英語力をつける!これがこのクラスの目標であり特色である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> TOEICテスト400点を取るためのボキャブラリー力とリスニング力の養成</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 英語を使って話したくなるように指導したい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>とにかく400点を期間中に獲得することが大前提。既に400点ある人は出席率(80%)のみ達成すれば良い。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>自作のプリント主体なのでテキストは不要</p>					
<b>参考書</b>					
<p>なし</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>成せば成る、成さねばならぬ何事も!指示通りやればだれでも目標は達成できる。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>yamane@poole.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>別に設けていないが、金曜日の昼休みはD-104にいるので相談のある人はどうぞ。</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150017
開設科目名	TOEIC600			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	山根 和明			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>TOEICは難しい、面倒臭いとよく言われるが、本当は楽しく学べるもの。英語の歌で発音訓練をし、ペアで会話訓練をして、カセットプレーヤーをうまく活用し、リスニング問題の指導を行う。ただ、600点レベルとなると、適当に勉強していたのでは到達できない。自宅での独習が必須となる。そのために私の授業では独特の家庭用カセットテープを配布することになる(1本200円かかる)。自宅にカセットテープをかけるプレーヤーがない場合はご両親やご祖父母にあらかじめおたずねしてお借りするとよい。それでもない場合は量販店で300円から4000円である。また、ヤフーのネットショッピングのオークションコーナーや、街の中古ショップに500円からあるので、再生機能だけあるものでよいので購入を進める。長い間のTOEIC指導でCDよりもカセットテープの効用を確信しているのでぜひ用意すること。これまでの受講生で良い成績を上げている人は全員この指示に従い、しかもカセットの効用を絶賛している。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>各期に2回あるTOEIC学内団体テスト(IP)またはSP(公開テスト)を受験して600点以上を得点しなければ単位は出せないことになっている。授業では600点を取れる攻略法を指導するのはもちろんだが、英会話ができるように、また、英文メール、手紙、資料などが素早く読めるように指導する。楽しく学んで英語力をつける!これがこのクラスの目標であり特色である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> TOEICテスト600点を取るためのボキャブラリー力とリスニング力の養成  <b>関心・意欲の観点:</b> 英語を使って話したくなるように指導したい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>とにかく600点を期間中に獲得することが大前提。既に600点ある人は出席率(80%)のみ達成すれば良い。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>自作のプリント主体なのでテキストは不要</p>					
<b>参考書</b>					
<p>なし</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>成せば成る、成さねばならぬ何事も!指示通りやればだれでも目標は達成できる。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>yamane@poole.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>別に設けていないが、金曜日の昼休みはD-104にいるので相談のある人はどうぞ。</p>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150018
開設科目名	韓国語Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	李 文相			区分	
<b>授業の概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期で習った韓国語の読み書きを再確認し、やさしい文型へと進む。</li> <li>・視聴覚機材を活用し、スピーチ・ヒアリングを養う。</li> <li>・基本文法を使い、作文の練習をする。</li> </ul>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>韓国固有の文字であるハングルを正確に発音し、読む力を養う。</p> <p>韓国人の身近な話題・風習などを取り上げ、韓国人の考え方や韓国文化について理解を深める。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基礎文法を理解し、簡単な韓国語の文章が書けること					
<b>思考・判断の観点:</b> 韓国語と日本語の類似点および相違点を理解すること					
<b>関心・意欲の観点:</b> 韓国文化を理解しようとし、ハングルでレポート・小テストを提出すること					
<b>態度の観点:</b> 出席および積極的な授業参加が必要					
<b>技能・表現の観点:</b> ハングルが書け、正確な発音で読めること					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験 50%、授業時の小テスト 25%、宿題など提出物 25%					
<b>教科書</b>					
『サランヘヨ !ハングル ー初級から中級へー』/李文相(共著):白帝社, 2009					
『サランヘヨ !ハングル 別冊 練習帳』/李文相(共著):白帝社, 2009					
<b>参考書</b>					
『ハングル読本ー基礎から読解までー』/李文相(共著:明石書店, 2004					
<b>メッセージ</b>					
連携的に授業を行うので関連科目「韓国語会話Ⅱ」を合わせて受講することが望ましい。韓国語と韓国文化に触れてみましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150019
開設科目名	韓国語会話Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	李 文相			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>いろんな出会いを想定し、楽しい雰囲気の中で韓国語が自然にしゃべれるような授業にしたい。ビデオなどの視聴覚機材を活用し、年中行事や韓国の習慣、歌など韓国文化に慣れ親しみながら授業を進める。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>韓国語で日常の簡単な会話ができるようにする。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 語彙を増やし、すぐに使えること</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 日韓両国の風習や文化の違いを理解できること</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 韓国語や韓国人の考え方について理解しようとする</p> <p><b>態度の観点:</b> 出席・復習を怠らないこと</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 日常生活や旅行に役立つ韓国語会話ができること</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>期末テスト 40%、宿題 20%、授業参加の積極性および発音・ヒアリング力 40%</p>					
<b>教科書</b>					
<p>『サランヘヨ! ハングル 初級から中級へー』/李文相(共著):白帝社, 2009</p> <p>『サランヘヨ! ハングル 別冊 練習帳』/李文相(共著):白帝社, 2009</p>					
<b>参考書</b>					
<p>『ハングル読本-基礎から読解まで-』/李文相(共著):明石書店, 2004</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>連携した授業を行うので関連科目「韓国語会話Ⅰ」を合わせて受講することが望ましい。韓国語と韓国文化に触れるチャンスをつかみましよう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150020
開設科目名	ビジネス韓国語II			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	桂 文姫			区分	
<b>授業の概要</b>					
本講義では、韓国語による「ビジネス会話」(いわゆる日常会話とは一味違う内容で構成されている)を中心に進めていきます。また韓国の経済・企業経営に関する時事問題の関連記事も読みながら、韓国語ビジネスレターや文化にも触れていきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
韓国語でビジネス・コミュニケーション能力を身につけること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ビジネス会話(韓国語)が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 日本語と異なる表現に触れ、物事に複眼的な考察ができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ハングルを通じ韓国への関心を抱く。					
<b>態度の観点:</b> 隣国への興味が実践行動に寄与できる(旅行・語学研修など)。					
<b>技能・表現の観点:</b> 韓国語によるビジネス会話の表現やビジネスレターの短文が作られる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
定期試験・小テスト・出席による総合評価。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
一段高いレベルの韓国語に挑戦できる絶好のチャンスです！					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032150022
<b>開設科目名</b>	中国語(閲読Ⅱ)			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	袁麗暉			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>共通教育で習得した中国語能力を基礎に、読解能力を養成する。</p> <p>中国語の構文、語法を再確認しながら、より複雑な表現、より長い文章を読みこなし、内容を理解する能力を向上させることを目的とする。同時に現代中国社会、文化についての理解も深めていく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
基本的語法、文型、語彙を習得し、一般的な文章を読みこなす力をつける					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 基本的な語法を習得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 中国語の語彙、表現に慣れる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国に関心を持つ。					
<b>態度の観点:</b> 与えられた課題に積極的に取り組む。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、理解の進捗度、定期試験の成績(70%)により総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
読解中国語一やさしい中国語でよむ現代中国／横川伸 王亜新: 白帝社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150023
開設科目名	中国語(聴力Ⅱ)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	李 海英 [ri kaiei]			区分	
<b>授業の概要</b>					
この授業は共通教育で習得した中国語を基礎に聞き取り能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。前期に引き続き、より実用的な教材を使い、より高度な聞き分け能力を身につけるためのトレーニングを行う。言葉の文化的な背景についても適当説明する。					
<b>授業の一般目標</b>					
共通教育で習得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。 プリントやビデオを適当に使う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 中国語の発音や言葉の使い方、コミュニケーション能力を養成する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 中国語、中国文化、中国社会に強い関心を持つことができる。					
<b>態度の観点:</b> 出席を重視し、小テストや授業中の練習などに積極的に参加でき、聴力、会話練習などを進んで行う。					
<b>技能・表現の観点:</b> より高度な聞き分け能力を身につける					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末試験と小テスト、出席、受講態度などによる総合評価					
<b>教科書</b>					
中国語リスニング道場/遠藤雅裕・陳淑梅・柴森:朝日, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
声を出して繰り返し本を読むこと。授業外の復習予習は大事です。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032150024
開設科目名	ビジネス中国語Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	永富 健史			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>ビジネス中国語では、「日常交際編」(前期)、「ビジネス編」(後期)に分けて授業を行う。従って、「ビジネス中国語Ⅱ」では、「ビジネス編」の講義と会話練習を行う。</p> <p>1.中国ビジネスにおけるいくつかの典型的な場面を中心に、中国語の表現を習得しながら会話練習を行う。</p> <p>2.日中異文化コミュニケーションの観点から、中国語母語者の思考法や中国語表現について日本語母語者と比較しながら考えていく。</p> <p>3.中国ビジネスマナーにも触れる。</p> <p>・受講者は共通教育中国語を履修した者を対象とする。</p> <p>・本科目は授業内容が前期、後期で関連性を持つので、通年で受講することが望ましい。</p> <p>・毎回、必ず予習をしてこよう。テキストの発音記号(ピンイン)は必ず予習段階で全部しらべてこよう。予習してこないと、授業中に「分かりません」、「できません」は言わないこと。予習した結果、分からなかった時は、どこが分からなかったか、授業中に質問すること。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>1.中国語の発音を習得する。</p> <p>2.ビジネス中国語によるコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>3.ビジネス中国語の用語、構文を習得する。</p> <p>4.中国社会、中国ビジネスの習慣やマナーに対する理解を深める。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>ビジネス中国語の構文と中国人の思考法を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>ビジネス中国語に特有の表現に慣れる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>中国語コミュニケーションに関心を持つ。</p> <p><b>態度の観点:</b>中国語トレーニングに積極的に参加する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>場面に適切な中国語で話せるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>定期試験、授業態度・授業への参加度、出席による総合評価を行う。評価割合は以下のとおりである。定期試験90%、授業態度・授業への参加度10%、合計100%。出席については、以下のとおりである。</p> <p>毎回出席をとる。三分之一以上欠席すると欠格となり、後期末定期試験を受けることができない。すなわち、5回欠席すると欠格となる。公欠は「忌引き」のみとする。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<p>メールでの連絡を受け付ける。メールアドレスは以下のとおり。</p> <p>a0a11229@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1032160001
開設科目名	外国書講読			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	植村 高久			区分	
<b>授業の概要</b>					
英語の雑誌や新聞記事を読む。たんに翻訳するだけでなく、内容に踏み込んだ理解をめざす。					
<b>授業の一般目標</b>					
難しくない英文の新聞記事を辞書なしで読めること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 通常の新聞や雑誌を理解できるだけの語彙力をもつ。					
<b>思考・判断の観点:</b> 商店になっている事柄が的確につかめる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 英語のままで論文や雑誌記事を読める。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032160002
<b>開設科目名</b>	外国書講読			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	陳 禮俊			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>This course will study the economics of public policy toward natural resources and the environment. It is designed primarily for advanced undergraduates in economics. Prerequisites include intermediate microeconomics and calculus.</p> <p>We will start with the concepts of externalities, public goods, property rights, market failure, and social cost-benefit analysis. Within this framework, we will consider a few additional problems such as information, uncertainty, and risk analysis. The first set of applications of these tools will involve natural resources. Other applications include air pollution, water pollution, solid waste management, and hazardous substances. In addressing each of these problems, we will compare public policy responses such as administrative regulation, marketable permits, tax incentives, and direct subsidies. We will study several methods to value environmental benefits.</p> <p>In the case of nonrenewable resources, such as fossil fuels, we will consider the "efficient" rate of extraction, the private market rate of extraction, and public interventions that might achieve the efficient rate. In the case of renewable resources, such as forests and fisheries, we will consider the common property problem and public policies to correct it. We will also look at the disposal of wastes, policies to encourage alternatives such as recycling, and policies to discourage other alternatives such as illegal dumping or burning.</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>You will learn some of the tools useful to evaluate environmental policy and proposals with respect to the sometimes-conflicting criteria of administrative and economic efficiency, horizontal and vertical equity, simplicity, certainty, and flexibility. Alternative explanations will make frequent use of algebra and occasional use of calculus.</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>Attendance and presentation will count for 50 points individually.</p>					
<b>教科書</b>					
<p>environmental economics and natural resource management / David A. Anderson: South-West, Thomson Learning, 2004</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>You will have to prepare (buy or copy) one textbook yourself, if you want to attend this course.</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>Phone/Fax: 083-933-5526 E-mail: lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	後期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1032160003
<b>開設科目名</b>	商業教育論			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	古堤 一三			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033130001
<b>開設科目名</b>	国際金融論			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>	(旧)			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	尹 春志, 田淵 太一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
国際通貨・金融の歴史について学びます。この授業は、旧課程学生用の授業です。					
<b>授業の一般目標</b>					
国際通貨・金融の歴史について学び、現代の通貨・金融問題についての認識を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席とレポートを中心に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033130002
<b>開設科目名</b>	国際関係論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>	(旧)			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
国際社会は日々変化しています。国際社会との関わりを持たずに生きていくことは現在では不可能です。一国にとって外交は最も重要な課題です。そのため、日本が直面している外交問題をはじめとする国際問題や世界政治の動向を取り上げ、それを理解するために必要な基本的知識と情報を提供し解説します。同時に、正しい日本の歴史を学ぶことによって日本という国について考える機会を提供します。					
<b>授業の一般目標</b>					
国際政治学や国際関係論の基本的理論を習得して国際問題を考える素養を養うとともに、それを前提として身近な国際問題を説明できるコンセプチュアル・スキルと、専門的な国際問題への学際的アプローチの仕方を習得しつつ国際関係についての理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は、出席(30%)と学期末試験(70%)を総合して行います。					
<b>教科書</b>					
渡部昇一の昭和史(正)／渡部昇一:ワック, 2008 渡部昇一の昭和史(続)／渡部昇一:ワック, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033150001
<b>開設科目名</b>	プロジェクト演習 I			<b>単位</b>	2 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	朝水 宗彦			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>学生各自が、何らかのプロジェクトを企画・実行し、レポートにまとめ、最後に報告会での審査をパスしたのち単位を修得できるという、観光政策学科の学生に限定した授業です。ただし、安全性、費用負担、持続可能性、そして教育的効果も考えなくてはなりませんので、観光政策学科が事前にごできるだけ多くの実習先を紹介します。</p> <p>昨年度の例を挙げますと、観光政策学科は「プロジェクト演習」の主たるメニューとして、観光業界関係者による講演会（主に水曜日の午後）、夏季休暇中の短期学外実習、イベントの企画や参加（不定期）、グループワークによる研修報告会（12月）を用意しました。研修報告会は「観光政策InforMix2008」というイベントの中で公開しています。今年度の「プロジェクト演習I」は準備段階にあり、4月以降できるだけ早い時期に説明会を開催します。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>観光についての企画力を、社会との接点(実践)において培うとともに、それをレポートにまとめ、人前で発表できる能力(すなわちプレゼンテーション能力)をつけることを一般的な目標とします。学外実習は3日間程度ですが、前期の事前学習にて実習希望先を各自が十分調査します。学外実習後は後期の事後学習にて理論と実践を融合し、グループで協力しながらプレゼンの準備をします。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 学外実習およびプレゼンに必要な調査を十分行う。					
<b>思考・判断の観点:</b> 学外実習を通じ、理論と実践の融合を行う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 観光関係の専門家と接する機会を増やす。					
<b>態度の観点:</b> 学内外を問わず、山大生としての品位を保つ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 他の受講生にも成果を十分伝えられるプレゼンを行う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
研修報告会でのプレゼン内容とその技能を厳正に審査し、評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>学外での活動を伴うので、実習先に迷惑のかからぬよう、事前に提示されるルールを遵守すること。それにもまして事故などにあわないように。学外の学生の教育活動に関する保険(制度)のもとで、観光政策学科の了解を得てから「プロジェクト演習 I」を始めください。なお、留学等で途中から授業に参加できなくなった場合、それまでの出席点は復学後に換算されます。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033150002
開設科目名	プロジェクト演習Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	陳 禮俊, 朝日 幸代			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>「プロジェクト演習Ⅱ」の目的は(新)プロジェクト演習Ⅰ(旧:プロジェクト演習)で得た経験を深めながら、違う視点から観光ビジネスを体験する。今年度のプロジェクト演習Ⅱの課題(案)は「ホスピタリティ・マネジメント教育実習プロジェクト(セントラルフロリダ大学(UCF)編)」である。3名の担当教員の指導を受けながら、この演習課題に向けて、受講希望者は自ら実施プランニングを計画し、演習課題を実行するまでの様々な過程に関わる作業を行う。また経済学部 of 教育予算の成立を前提に、担当教員は受講希望者を引率し演習課題を体験することによって、学校教育では提供できない実践教育の場を提供することを期待している。なお、予算・助成により授業内容を変更することがあり、詳細は担当教員より随時連絡する。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>学生が積極的に観光に関わり、演習課題に最後まで取り組むこと、そして、演習課題としての実施プランニングや演習課題の実行までの作業の中で、実践的な問題解決方法を学ぶことが、本授業の目標である。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>ホスピタリティの概念を理解し、説明できる。ホスピタリティ マネジメントへの事例を説明できる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>ホスピタリティ マネジメントとサービスの区別について自分の意見をのべることができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>与えられる課題について、積極的に取り組み、観光業界のホスピタリティ マネジメント状況について常に感心をもつ。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>本講義は、研修における事前、事後の授業、研究期間における態度や参加度、さらには受講者の発表(プレゼン)、出席によって評価する。</p> <p>評価割合は授業外レポート30%、授業態度、授業への参加度20%、受講者の発表50%である。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>本講義は、履修申告前にならず講義内容の説明会を開くので、履修を考えている学生さんは必ず出席してください。説明会については掲示により、日程と場所を連絡します。</p> <p>本講義は受講生が積極的に行動すること、積極的に学ぶことによって、大きな成果を得ることができます。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>陳禮俊 lichun@yamaguchi-u.ac.jp  袁麗暉 ylhenrei@yamaguchi-u.ac.jp  朝日幸代 asahi@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170101
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	植村 高久			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>テーマ:現代日本の経済と社会</p> <p>ゼミの目標は、この現代の日本の社会経済の特質を学び、多面的な関心を持てるようにすることである。</p> <p>1)大学生活に主体的に取り組んでゆける「テーマ」(何でも良い)を各自が見つけ、それに全力投入できるようにして、アクティブな大学生活を送るよう支援する。</p> <p>2)学習の面では、関心のあるテーマを自分で選び、継続して観察しつづけるようになることが重要である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日本経済だけでなく、現在の日本で生起している諸問題に対し、積極的に関心を持ち、問題を理解し、解決策を模索することができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>(知識・理解の水準)日本経済新聞を読める。新書本レベルの経済書が読める。</p> <p>経済・社会の様々な問題について一般的な了解ができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>経済学的な思考法、社会科学の思考法を駆使できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>様々な事件や問題を自ら積極的に理解・解明しようとする。</p> <p>一つのテーマを継続的に追跡できる</p> <p><b>態度の観点:</b>自力で考える習慣が身に付いている。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170102
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	柏木 芳美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
公務員試験の問題はミクロ経済学を理解するのによいものが少なくない。このゼミでは公務員試験の問題を利用してミクロ経済学のより深い理解を目指す。必然的にある程度の数学を使う。また、通常の授業とは異なり、ゼミなので君たちが参加者に解説する。尚、全く別なことを勉強しなければ相談このる。					
<b>授業の一般目標</b>					
公務員試験の問題を通してミクロ経済学を理解すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. ミクロ経済学の基本的事項を説明できる。					
2. 公務員試験のミクロ経済学の問題を説明できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1. 経済現象を数理的にとらえることができる。					
2. 他人のプレゼンテーションを評価できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. ゼミに積極的に参加する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表 60～80%, 出席 20～40%, 他人のプレゼンテーションに対する評価 10%。					
<b>教科書</b>					
新スーパー過去問ゼミ2 ミクロ経済学/資格試験研究会編:実務教育出版					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
遅刻欠席をしないように心懸けること。無断欠席には厳しく対処する。					
楽しくやりましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170103
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	兵藤 隆			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
金融論とは、みなさんの身の回りにある「お金」について経済学の間を通じて論じていく学問です。「お金」に興味のない人はいないと思いますが、それを論じていくためには様々な知識を身に付けていく必要があります。さらに、身に付けた知識を活かすには、人前でプレゼンテーションをし、それをもとに意見交換および議論することも必要になってきます。それらをトータルで学習することがこの演習 I の目的になります。					
<b>授業の一般目標</b>					
1, 新聞がしっかり読めるようになる。 新聞は、現在の社会・経済に関するあらゆる情報がつまっています。新聞は単なる TV ガイドではないということをまず理解しましょう。					
2, 人前でプレゼンテーションするための技術を身に付ける。 人前で話すことだけでも大変ですが、理解してもらうのはもっと大変です。					
3. 相手の意見を聞いて、自分の意見を発する。 議論のための基本です。相手の意見を理解し、自分の意見を理解してもらうことがどれだけ重要であるかを理解しましょう。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ( <a href="http://thyodo.eco.coocan.jp">http://thyodo.eco.coocan.jp</a> )を参照してください。ゼミの主役は学生諸君です。しっかり学んで、自らの付加価値を高めるべく、一緒にがんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
thyodo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170104
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	寺地 伸二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
テキストの輪読と発表。					
<b>授業の一般目標</b>					
テキストの輪読と発表。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表など。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170105
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	木部 和昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近代日本経済史研究 ～明治・大正・昭和期の日本経済の歴史を分析する～ 本演習では、明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。内容としては特に、各人の身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析してもらう。主な対象としては、身近な地域の経済を歴史的に分析する事を考えているが、各人の興味関心に応じて、必ずしもこれに限定するわけではない。最終的には、資料を用いて具体的な分析を行い、教科書に出てくる経済史とは異なった新たな歴史像を自ら発見してもらいたい。大学で勉強する歴史は高校までの日本史・世界史と異なり、単に知識を暗記するだけの学問ではない。自らが歴史を解明し、分析するという点に興味を持つ学生の受講を歓迎する。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1)明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。 (2)身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。 (3)史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
順番に担当してもらう報告、夏休みレポートの内容によって評価する。 報告者以外は、報告内容をまとめたノートを提出させるが、これも評価の対象となる。 報告 45%、授業内小レポート 15%、夏休みレポート 30%、授業態度 10% 欠席が多い者は不合格となる。					
<b>教科書</b>					
概説近代日本経済史(第2版)／三和良一:東京大学出版会, 2002 近現代日本経済史要覧／三和良一・原朗:東京大学出版会, 2007					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年後の卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。</li> <li>・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。</li> <li>・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail; kibe@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170106
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村 淳一			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを理想としています。演習では教科書を中心にミクロ経済学・マクロ経済学の論理の習得に努めます。平行して、地域経済(観光)の問題に2年次の学内討論大会で取り組み、日本経済の問題に3年次の全国討論大会で取り組みます。自分の研究テーマは、そうした過程で関心や興味を持った経済・社会問題を自由に選んでもらっています。常に経済・社会に対する問題意識を持ってもらうために、新聞の社説を読むことを義務付けています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>経済理論の基礎を習得する。          数学・統計学の基礎を習得する。          現在の経済・社会問題を把握し、問題意識を持って議論する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 各分野の入門的知識を理解している。  <b>思考・判断の観点:</b> 論理的に判断ができる。  <b>関心・意欲の観点:</b> 日常的な経済・社会問題を意識的に考察する。  <b>態度の観点:</b> 積極的に質問する。  <b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えを他者に理解可能な形で表現できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容と議論への参加態度による。					
<b>教科書</b>					
現代経済学の数学的基礎(上) / A.C.チャン:: シーエーピー出版, 1995					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170107
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山田 正雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経済分析の方法を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
経済分析の方法を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
参加姿勢、報告、出席によって評価します。					
<b>教科書</b>					
道具としてのファイナンス/石野雄一:日本実業出版社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
Excel と PowerPoint がインストールされたノートパソコンを用意してください。 (台数に限りはありますが、学務係で借りることもできます。)					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170108
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	濱島 清史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>社会政策論、労働経済論などに関連するテーマをやっていくが、テーマ設定は受講生と相談した上で決めたい。世界同時不況と非正規雇用というテーマで、時事問題も兼ねてやっていってどうかと考えているが、少子高齢化、年金・介護、ワークライフバランス、或いは就職対策も兼ねてキャリア形成論や業界企業研究をやってもよい(但し、過去の経験では2年生で就職対策は早すぎた)。いずれにせよ、ゼミナール大会に参加し、ゼミ合宿を行ない、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、ディベート力をも磨いていきたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>テーマに沿って、各自が情報収集、現状把握、原因分析、対策・政策が論じられるようにしたい。その際、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、ディベート力をも磨いていきたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>レポート、ゼミでの発表、ディスカッションの司会進行、ディベートの発言、出席状況による。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>今年度はプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートなどコミュニケーション能力の育成に期待ができそう。</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170109
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	鍋山 祥子			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>私たちが日頃考えていることや興味を持っていること、逆に納得がいけないことって、実は立派な「学問」につながっていたりする。せっかく大学生をやっているんだから、自分と学問とのつながりについて、じっくり考える機会があってもいいんじゃない？ 私がもっとも重視するのは、この「内発的な問題意識」です。</p> <p>演習 I の進め方は、4 年次までの長期計画のもとに組み立てられています。まず 2 年次(演習 I)には、できるだけ多くの社会問題の存在にふれ、何故それが社会問題として取り上げられているのか、という背景についての理解を深めます(社会学的思考の習得)。3 年次(演習 II)には、KJ 法を活用してゼミ員全体による「問題意識の地図」を描いた後、個々人の問題意識を文献・資料研究によって各自が追求し、ゼミでの報告・議論をおこないます。そして、4 年次には「自分なりの卒論」をまとめ上げます。こうしてできた卒論は大学時代、あるいは今までの人生の集大成になることでしょう。</p> <p>本ゼミに求められる姿勢は、ゼミ内で「自分をさらけ出す勇氣」と「自分がゼミを創っていくという当事者意識」です。最後に、参考までに私の研究領域をキーワードで述べると、高齢社会・社会政策・ケア論・地域福祉・労働と家族的責任との両立(ワークライフバランス)・ジェンダー・福祉国家論・NPO・アイデンティティなどです。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「学問」と「自分の生活」との結びつきを意識化すること。(社会学的思考の習得)</li> <li>2. レジュメ作成・文献資料検索・レポート作成・議論の方法を習得すること。(学習技術の習得)</li> <li>3. 日常生活のなかにある「自分なりのこだわり」を明確化すること。(研究テーマの探求)</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1. 授業内討論への参画度合(出席は欠格条件) 2. グループ課題の遂行 3. レポート評価を総合的に判断します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
私からは研究テーマを与えませんので、自分で追求したいテーマを探すという困難に挑む積極的態度が不可欠です。活発で率直な意見交換ができるような、楽しい雰囲気でのゼミでありたいと思っています。					
<b>連絡先</b>					
Eメール:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 3/4 限					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170110
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	齋藤 英智			区分	
<b>授業の概要</b>					
地域経済、観光経済の基礎的な理論を理解するとともに、社会経済の実態も考慮しながら、地域経済の活性化策について考える。					
<b>授業の一般目標</b>					
報告、意見交換などを通じて自分の意見を的確に相手に伝え、また受け答えができるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 地域経済、観光経済に関する基礎的な知識を修得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 社会経済現象をさまざまな角度から考察できる力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に発言し、自らの意見を的確に述べることができる。					
<b>態度の観点:</b> 無遅刻無欠席を原則として積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> スピーチ、報告を通じてプレゼンテーションの方法を向上させる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告(50%)、参加姿勢・発言内容など(50%)により総合的に評価する。なお、出席は欠格条件とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
遅刻、無断欠席は厳禁である。特に報告担当者は、授業の進捗を妨げるので注意すること。 やむを得ず授業を遅刻、欠席する場合は事前の連絡を義務づける。					
<b>連絡先</b>					
hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp メールで質問や問い合わせを行う際は、メールの件名に“【演習 I】〇〇”と名前を必ず明記してください(件名がない場合はメールを破棄します)。					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室(経済学部 A 棟 4 階 425) 在室中はいつでも研究室に来ていただいて結構です。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170111
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	塚田 広人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>演習 I の内容は</p> <p>(1) 現実の経済問題を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ (景気、労働問題、社会保障・福祉の問題、戦争の問題など)</li> <li>○ 現代的な問題を扱った本を読み、議論する。</li> </ul> <p>(2) 基礎的文献としての古典に親しむ (スミス、マルクス、ケインズ、ロールズなど)</p> <p>の二つです。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日本と世界の経済と社会の進路を、大局的、また、具体的な両視点から考える力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法 (総合)</b>					
出席、レポート、討論への参加、を総合する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
楽しく、しっかり学びましょう。					
<b>連絡先</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 933-5558 ht@yamaguchi-u.ac.jp</li> <li>○ A 棟 424 号室</li> </ul>					
<b>オフィスアワー</b>					
○ 原則として水曜日 1 時半～3 時 (それ以外でも在室時可)					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170201
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中田 範夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
4年次の演習「卒業演習」において卒業論文を作成するが、演習1と2はそのための準備をするゼミナールと考えている。授業は基本的にはテキストを利用する。テキストを報告する順番を決めて1回に1～2人に報告してもらおう。授業では議論を行いたいので、報告者以外の学生は質問を考えてくる必要がある。					
<b>授業の一般目標</b>					
4年次の卒業論文演習において作成する卒業論文を目標として授業を進める。まずは、管理会計や原価計算についてどのような研究分野であるかについて広く深く勉強する。次に、次第にテーマを絞って深く研究していきたい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、報告、授業への参加度、レポート作成などによって総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
インサイト管理会計／加登 豊編:中央経済社					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
楽しく3年間過ごしましょう。					
<b>連絡先</b>					
933-5556(研究室)					
<b>オフィスアワー</b>					
時間のあるときはいつでもお出でください。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170202
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古川 澄明			区分	
<b>授業の概要</b>					
ゼミ2年生:前期、中小企業診断士資格知識をベースにして、企業調査・研究を開始する。目標は、4年生卒業論文研究として企業のケーススタディをまとめることである。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。最終的目標:企業社会や公務員社会に入った役立つ能力を身につけること、すなわち何ら何の課題を分析し、取りまとめてプレゼンテーションできる能力、報告書をまとめる能力、自分の知識・認識のレベルと限界を知り、そのような実力を高めるべきかを認識する能力、PCを自在に取り扱える能力、流行な人間関係を構築する能力、指揮統率の能力などを養うことにあります。積極的に自分を育てましょう。自分の器を大きくしましょう。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。その基礎知識習得として、中小企業診断士資格受験にチャレンジする。					
<b>思考・判断の観点:</b> 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。					
<b>態度の観点:</b> 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育て、という観点を重視する。礼儀と節度を守り、指揮統率能力を身につけることを課題とする。礼節を重んじ、ゼミ生としての品位と相互尊敬には、立場や性別に関係なく、お互いに厳格でありたいものです。					
<b>技能・表現の観点:</b> PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。インターネットの活用、メールを利用した添付ファイル情報の交換などは、日常的に行うので、4年生までには、習熟することになる。また情報収集・整理能力、情報を一つの方向で報告書にまとめる能力を養う。					
<b>その他の観点:</b> ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるというのが、ゼミの原則である。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
総合的に評価する。全員が最高評価を得られるように指導を行うので、結果として、最高評価となるように、参加者の努力に期待する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
古川ゼミは、人材育成の場と位置づけている。企画・立案能力、文書能力、報告書をまとめる能力、プレゼンテーション能力、コンピュータ活用能力などを養うことを目標として、2年生の段階から自分たちで自主的に共同研究テーマと取り組む。それらの能力は、大学卒業後に民間企業や公務員に就職すれば当然にも求められる能力である。企業研究では、これまでに習得した、あるいは習得しつつある経営学や会計学の知識を投入することになり、必要ならば自主的に経営学の知識を学ぶことが重要である。3年間を費やして、独創的な卒論をまとめ、ハードカバー書に製本し、大学4年間の総決算とする。またゼミ独自のアルバムを編集しているので、楽しいゼミを全員参加で作らしましょう。					
<b>連絡先</b>					
学務					
<b>オフィスアワー</b>					
事前アポの上、随時					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170203
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	城下 賢吾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
テキストの輪読とレポート作成並びにゼミ生間のコミュニケーション					
<b>授業の一般目標</b>					
ファイナンスに関する基礎知識の習得と学生間のコミュニケーション					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
ゼミの参加度、報告、レポート、出席で評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
sirosita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170204
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	石田 成則			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>高齢社会における年金・医療・介護などの諸問題を幅広く学習する。世代間の順送りの扶養・助け合いシステムである公的年金制度では、高齢化に伴いとくに若い勤労者の保険料負担が高騰している。こうした事態は若年世代の可処分所得の伸びを抑え、また企業の労働コストを押し上げることで、わが国の経済活力に悪影響を及ぼしている。こうした問題を回避するために、老後所得保障における国・政府の役割を限定するとともに、民間企業や個人の自助努力を通じた民間活力の導入が促進される傾向にある。しかしこうした役割の委譲には、様々な問題点も指摘されており、これらを理論的にあきらかにし、その解決策を模索する必要がある。とくに、民間企業の提供する職域団体年金(企業年金)の受給権保証や、年金を提供する金融機関の倒産問題を研究することが重要課題となるので、演習においてこの課題に取り組んでいく。高齢社会ではさらに、老後所得確保の金銭的問題だけでなく、増加する高齢者の健康の維持・管理や、高齢後期に寝たきりになるケースでの住居・施設や介護人の確保など、数多くの多面的な問題が生じてくる。国・政府とともに民間企業でも対応が求められるこれらの問題の中から、自ら関心のあるテーマを選び出し、自主的に研究に取り組んでほしい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>輪読およびグループ報告を通じて、専門的知識を習得するとともに、プレゼン能力や討論力を身に付ける。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 輪読書の理解					
<b>思考・判断の観点:</b> 専門的な思考、とくにリスクマネジメントの考え方を習得する					
<b>関心・意欲の観点:</b> グループ報告での役割を果たす					
<b>態度の観点:</b> 出席と受講マナー					
<b>技能・表現の観点:</b> プレゼン能力					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と平常点					
<b>教科書</b>					
老後所得保障の経済分析／石田成則: 東洋経済新報社, 2007					
保険事業のイノベーション／石田成則: 慶應義塾大学出版会, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室は何時でも開放しています。就学上の相談があれば何時でもどうぞ。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170205
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	成富 敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
興味を持つテーマについて、基礎的な知識を習得するとともに、関連する文献の紹介や学習内容の発表をおこなう。					
<b>授業の一般目標</b>					
基礎的な知識の習得、関連する文献の紹介や学習内容の発表発表をとおして、文献を批判的に読み問題点を発見する能力を養い、さらに問題を解決し、得た成果をまとめ、人に理解してもらう能力を身につけることが目標です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表状況、授業への参加の様子、授業外レポートなどをもとに、評価します。出席は必須です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
問題を解決へ導くには、仮説やモデルをつくり、自分が「思う」を人に「説明できる」段階に引き上げる必要があります。この演習では、「思う」を「説明できる」に引き上げる基礎を勉強します。発表中心の授業であり、発表の順番はかなり頻繁にまわって来ます。したがって、一回の発表が終わったら、次の発表の準備を始める必要があるでしょう。発表を重ねるなかから自分の研究テーマを見つけ、そのテーマについて深く掘り下げることが大切です。どこまで掘り下げられるかはみなさん次第です。粘り強く考え強い頭を作ってください。また、演習の場で人の発表を聞き、発表のポイントを理解し、さらに疑問点を見つけて、発表者に分かるように質問を組み立てる姿勢も大切です。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170206
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	武居 奈緒子			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>本演習では、テーマとして、江戸期から現代までのマーケティング・流通に関する諸問題を扱う。まず、基本的文献を輪読して、基礎概念、専門用語、基本的考え方について習得する。その後、それらをベースにグループ・プロジェクト研究の報告、討論を行う予定である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティング・流通に関する基礎的知識、研究方法を習得する。</li> <li>2. マーケティング・流通を歴史的に考察する。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170207
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	羽生 正宗			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170208
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山下 訓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
自ら疑問点を探し、自ら解決していく方法を学びます。					
<b>授業の一般目標</b>					
この演習形式の授業では、何が疑問点かを探し、その背景にどのような考えがあるのかを探し、調べて発表していきます。分からない所が何処であるかを発見すれば、実は半分以上問題は解決しています。ものを問うときに、既に答え方が決まっているからです。是非、自ら問題を設定し、解決し、発表する訓練をしましょう。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
5518 yamasita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日昼休み					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170209
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	藤田 健			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
演習 I は、おもに製品開発プロジェクト演習をおこなう。					
<b>授業の一般目標</b>					
マーケティングの基礎知識を理解する。					
製品開発プロジェクト演習で、製品を完成させる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> マーケティングの基礎知識が理解できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 製品開発プロジェクト演習で、製品を完成させられる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
基礎理論の理解度、ゼミへの参加度、製品開発プロジェクト演習での貢献度を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
ゼミナール マーケティング入門/石井 淳蔵・嶋口 充輝・余田 拓郎・栗木 契: 日本経済新聞出版社, 2004					
1からのマーケティング[第3版]/石井淳蔵・廣田章光: 碩学舎, 2009					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
無断欠席・遅刻は厳禁である。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170210
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤田 智丈			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>管理会計を中心として、企業経営について学習します。企業経営には、組織を導く「戦略」、戦略を実現するための「計画」、計画が適切に遂行されるための「統制」といった様々な仕組みが必要です。このような仕組みについて、重要な要素は何なのか、どうすればうまくいくのか、といったことを主に会計情報の観点から考えるのが管理会計です。</p> <p>具体的には、経営者や管理者がその職務を遂行するにあたって、どのような会計情報や分析が必要なのか、また、従業員を動機付けして彼らのやる気を引き出すような仕組み(業績評価等)にはどのようなものがあるのか、激しい競争下でコストやビジネスシステムについて企業はどのような取り組みをしているのか、といったことを学習していきます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>経営と管理会計の基礎知識を身につけ、ビジネス関連のニュースを理解できるようになる。また、自分で実際の事例を分析できるようになる。</p> <p>説得力のあるプレゼンや議論をできるようになる。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 会計に関する基本的な知識を身につけ、用語を適切に使えるようになる。また、会計に関する報道を理解できるようになる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 会計に関する知識を現実の事例にあてはめて分析し、問題点や改善策を考えることができるようになる。</p> <p><b>態度の観点:</b> 人の意見を聞き、考え、議論できるようになる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えていることや感じていることを適切に伝えられるプレゼンをできるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>発表(プレゼンテーション)や討論、予習・準備等を総合的に評価します。演習は普通の授業と異なり、生徒が自発的に発表し討論する場です。したがって、説得力のある発表や討論をできることが最も重要です。そしてそのためには、もちろん適切な準備が必要です。なお、出席は欠格条件です。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>経験から学ぶ経営学入門／上林憲雄 他:有斐閣, 2007</p> <p>管理会計・入門(新版)／浅田孝幸他:有斐閣, 2005</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170211
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	米谷 健司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>本演習は、企業分析・財務分析を主たるテーマとし、企業経営の実態を定性的・定量的に分析することを目的とします。企業分析・財務分析を行うには、まずは財務諸表のデータをきちんと理解することが必要です。そのため、演習の前半では財務会計のフレームワークについて学習します。ただし、企業経営の実態を浮き彫りにするには多角的な視点が必要となるため、演習の後半では経営戦略や企業財務のトピックも学習します。</p> <p>また、切れ味の鋭い企業分析・財務分析を行うには、①現実の現象を説明するセンスの良い仮説の構築と②その仮説をサポートする証拠の示し方がポイントとなります。これらは主に3年次、4年次の演習でトレーニングしますが、導入的な要素は2年次の演習から取り組みます。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>現実の現象を説明するセンスの良い仮説を構築できるようになる。</p> <p>仮説をサポートする証拠の示し方を学習する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業の貢献度で評価します。具体的には、報告準備、報告内容(レジュメおよびプレゼン)、授業中の発言などです。なお、出席は失格条件とします。</p>					
<b>教科書</b>					
ゼミナール現代会計入門(第7版)／伊藤邦雄: 日本経済新聞社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170212
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松浦 良行			区分	
<b>授業の概要</b>					
本演習では、ベンチャーキャピタルの経済発展における役割について理論的・実能的に研究することを目的としています。そのため演習 I では、分析に必要ないくつかの理論的枠組みや分析対象企業のリストアップや比較検討を行います。同時に、社会人として必要不可欠となる計算能力やプレゼンテーション能力の向上も目指します。					
<b>授業の一般目標</b>					
本年度の演習においては、次年度以降実際にベンチャーキャピタルやベンチャー企業を調査、分析していくために必要な基礎的素養を習得します。ベンチャーキャピタル及びベンチャー企業の役割や意義について多面的に理解し、ベンチャー企業発展に向けてのベンチャーキャピタルのあり方に関して一定のシナリオを構築し、他人に説明できることを目的とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> ・ベンチャーキャピタルとは何かを説明できる。					
・日本のベンチャーキャピタル業界の構造について説明できる。					
・ベンチャー企業発展に向けてのベンチャーキャピタルの役割について説明できる。					
・イノベーション推進のためのベンチャー企業の役割について説明できる					
<b>思考・判断の観点:</b> ・有望なベンチャー企業を理論的に説明し、それに基づいて具体的な企業名をあげることが出来る。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ・演習における発表のための資料を自発的に創意工夫できる。					
・教員の指導内容にとどまらず独自の調査・分析を行うことが出来る。					
<b>態度の観点:</b> ・講義に毎回出席する。					
<b>技能・表現の観点:</b> ・表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを効果的かつ効率的に利用できる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習への参加度や説明資料の水準を見て総合的に評価します。出席については4回以上の欠席で欠格とします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
不明な点があれば積極的に質問してください。					
<b>連絡先</b>					
原則的にメールで連絡してください。アドレスは、 <a href="mailto:matu@yamaguchi-u.ac.jp">matu@yamaguchi-u.ac.jp</a> です。					
<b>オフィスアワー</b>					
毎週木曜日午前中(9時から12時まで)を一応の目安としますが、在室中いつでも歓迎します。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170301
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
国際関係論をテーマに研究をします。 国際関係を政治的あるいは経済的アプローチによって研究します。国際関係の領域は広く、例えば外交や国際連合、戦争・紛争や安全保障、経済摩擦、海洋政策、国際観光など、現在の国際情勢のすべてが研究テーマになります。					
<b>授業の一般目標</b>					
国際関係に関する基礎知識の習得と、日本の外交政策の現状について理解します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は、出席(30点)、報告(70点)によって行います。					
<b>教科書</b>					
『外交青書』平成 20 年版／外務省編					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170302
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	河野 眞治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
多国籍企業について学ぶ。可能なら、日本企業の外国子会社への訪問調査を実施する。					
<b>授業の一般目標</b>					
多国籍企業と直接投資について深く学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 多国籍化の現状について理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 直接投資の理論について理解する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 学んだことをレポートにまとめ、発表する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポートと討論によって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 10:00-12:00					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170303
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	陳 建平			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
中国経済について学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
中国経済に関する基礎的知識の学習を通じて、計画経済から市場経済へ、伝統社会から近代社会へと移行する中国の現状に対する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況と発表、討論などの参加態度を総合して評価する。					
<b>教科書</b>					
開発経済学入門(第2版)／渡辺利夫:東洋経済新報社, 2004					
中国経済入門[第2版] 世界の工場から世界の市場へ／南亮進・牧野文夫:日本評論社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170304
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	尹 春志			区分	
<b>授業の概要</b>					
この演習では、日本及び世界をとりまく様々な社会・経済問題について取り上げます。今年度の演習 I で取り上げたテーマは、世界の食糧問題と日本の農業、貧困問題と日本の援助、格差問題です。特定の課題について、自分達で調べ、まとめ、発表するグループ学習を重視します。そのなかで、プレゼンテーションの仕方やレジュメの作り方なども随時学んでもらいます。					
<b>授業の一般目標</b>					
日本をはじめ世界で起こっている様々な問題についての理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習への参加度、報告・討論によって総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170401
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	安住 修一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>当ゼミでは、個々の税目の知識の習得のみでなく、税制度の存在意義(税は何のために必要か)や所得税,法人税、消費税等の各規定の趣旨及び具体的などのような問題や争点があるかに視点をあてて進めていきたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>「税制及び税務行政」の基礎知識を学びながら、どのような税制が望ましいかについて意見を持てるようにすること。  グループに分けて発表等を行うことでゼミ生間の協調姿勢やプレゼンス能力を磨くこと。  (</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席状況、ゼミにおける姿勢全般					
<b>教科書</b>					
<p>「日本が生まれ変わる税制改革」／森信茂樹:中央新書ラクレ  「税法入門 第6版」／金子宏他:有斐閣新書</p>					
<b>参考書</b>					
「図説日本の税制」:財経詳報社, 20 年版					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
azumi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170402
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	渡邊 幹雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
政治理論や思想を中心に、倫理学・道徳理論について、広い視野から学び議論してゆきます。その性格上、ゼミのテーマに堅苦しい制約はありません。取りあげる内容もかなり自由度の高いものになります。とにかく自分の意見を論理的に語るができる能力が身に付けば、このゼミナールの目的は達成できたといえるでしょう。					
<b>授業の一般目標</b>					
概要で述べたように、現代社会の問題を含む数多くの思想的・哲学的問題について、政治・経済・法・倫理・道徳の視点から、論理的かつ説得的に議論ができるようになることが、この授業の一般目標です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
ゼミの場合は出席することが第一。次に議論に積極的に参加すること。その姿勢がうかがえない場合、評価は低くなります。当然ですが、無断欠席をかさねた場合には、単位を与えることができません。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
授業終了後の一定時間であればいつでも結構です。					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170403
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中村 美紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本演習では、まず会社法テキストを講読し、その後会社法判例を読んで行きます。あらかじめ割り当てられた分担箇所あるいは事例について、報告者の報告にもとづき質疑応答、議論を行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
会社法の基本的事項を理解しつつ、卒論のために会社法について自らのテーマをもつこと、および社会に出たときのためにレジュメの作成およびプレゼンテーションの能力を養うことも目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価の観点、aゼミを楽しんでいるかどうか、bゼミを盛り上げているかどうか、c報告は勤勉にしているかどうか、dオンとオフのけじめをつけているかの4点です。					
<b>教科書</b>					
テキストブック会社法／末永敏和[編著]:中央経済社, 2006 会社法判例百選／江頭憲治郎他[編]:有斐閣, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ゼミは休まないでほしい。どうしても欠席が避けられない場合は事前に連絡してください(Eメール可)。					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟319研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
前期火曜日 12:50—14:50、後期火曜日 16:10—17:40。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170404
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	石 龍潭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、主に具体的問題(判例)の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、授業への主体的な参加が要求される。					
<b>授業の一般目標</b>					
具体的には、行政関係の判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる判例は、参加者が教官と相談の上、決定する(特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する)。報告には次の内容を含めるものとする。					
(1) 事実の概要					
(2) 判決の要旨					
(3) 簡単な評釈(学説、私見など)					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、出席による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
一緒に頑張りましょう。					
<b>連絡先</b>					
質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。 (経済学部 A 棟 408 室)					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170405
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	三間地 光宏			区分	
<b>授業の概要</b>					
「演習 I」と「演習 II」とを履修することで民法全体をしっかりと理解できるようにする。学習の順序など詳細については受講者と相談のうえで決めたい。					
<b>授業の一般目標</b>					
民法の基礎知識を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 民法の基礎知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 法的思考を身につける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 毎回のテーマについて予習・復習をする。 わからないことについては積極的に質問する。					
<b>態度の観点:</b> 毎回のテーマについて予習・復習をする。 積極的に発言する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 報告・質疑応答を適切に行う。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平常点による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
連絡用メールアドレスは第一回目の授業の際に示す。					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170406
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	梶原 健佑			区分	
<b>授業の概要</b>					
憲法を扱った判決に直に触れ、有権解釈機関である最高裁判所の憲法理解を学習する。さらに、当該論点における学説の展開を確認し、判例との比較を試みる。					
<b>授業の一般目標</b>					
第一義的な目標はもちろん、憲法に関する知識・理解の増進にある。さらにいえば、「法律学には唯一の正解などない」と云われるが、翻ってみれば、結論の妥当性と立論の論理性を自分の頭で判断することが求められるということである。その訓練の場になれば、と考えている。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 憲法学に関する基礎的概念や思考を理解でき、あわせて憲法解釈学上の諸論点に関する知識を獲得できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 判例・学説の批判的読解を通じて、当該論点に対する自分なりの見解を形成することができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に様々な文献を検索し、読み込んで、知識を吸収しつつ自分の見解を主体的に形成しようという意欲をもつ。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に議論に参加することを通じて、参加者とともに理解を深めようという姿勢をもつ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 学説・判例を適切に要約し、自分の見解とともに、参加者がよく理解できるよう工夫してプレゼンテーションできる。作法を守り、読み手に自分の知識・思索が伝わるようなレポートを書くことができる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告の質、質疑への参加の積極性、司会ぶり等に加え、年度末に提出してもらったレポートの出来を総合的に勘案して評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
意欲ある学生さんと一緒に勉強したいと願っています。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170501
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	河村 誠治			区分	
<b>授業の概要</b>					
世界とりわけわが国を含む東アジアにおける、地域経済や各種産業の動向などを視野に入れた、単なる遊び(需要者サイドの本能的ニーズやウォンツ)の領域を超えたところの、観光サービス経済の研究を主とします。					
<b>授業の一般目標</b>					
目標1: 今後各自が積極的に取り組める「テーマ」を見つける。					
目標2: 自立(自分で考え行動)的に、多くを読み、多くを書き、簡明に話す。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 観光などサービス経済の原理を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 観光などサービス経済の最適合理性を導き出す。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 世界の観光サービスをポスト工業化という視点からとらえ、他のサービス業との比較検討を行なう。					
<b>態度の観点:</b> 出席、発言、報告への熱意。					
<b>技能・表現の観点:</b> 考えを手短かにまとめる。					
書いて、各種媒体を用いて表し、話す。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習への参加の度合い+ 報告内容:50%+50%。3 分の 1 以上の欠席:欠格条件。					
<b>教科書</b>					
新版 観光経済学の原理と応用/河村誠治:九州大学出版会, 2008					
<b>参考書</b>					
Quantitative Tourism Industry Analysis/Tadayuki Hara: Butterworth-Heinemann, 2008					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170502
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	篠原 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170503
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この演習では、現実または虚構の旅を扱い、その文化的側面について考察する。</p> <p>古今東西、旅は旅行記や物語、絵画、映画等の主題となってきた。授業では、それらの具体的な事例・作品を取り上げ、旅の普遍的性質／地域・時代による性質、旅人の精神、旅の表象方法等を分析・検討していき、文化としての旅の理解を深める。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
旅の文化的側面に関する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習への参加度、課題の提出状況、期末レポートの成績に基づいて評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170504
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	朝日 幸代			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>本授業の目的は、観光および地域経済に関する知識を増やすことによって、現在直面する多様な問題を解決のために必要な考え方・そのための能力を養うことである。そのために、観光および地域経済に関する現状と地域経済政策の基礎となる理論を講義するとともに、観光および経済に対する数量分析を行える能力を養うためのコンピュータ実習を行う。各地で行われているイベントの経済波及効果の分析や観光および経済における環境問題についても逐次取り扱う。また、学生が興味を持つテーマにあわせて、レポート作成やプレゼンテーション技術のサポートを行う他、学生が観光を研究するために必要な体験をしていただける場の提供を検討し、進めていく予定である。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。</li> <li>・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、経済分析に適切に利用することができる。</li> <li>・観光や経済に関するレポートを作成する中で、レポートのテーマに合わせた統計データと分析ができる。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>・観光および社会や経済の問題について、経済学的な観点で理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で取り扱った統計および計量経済学的手法を理解し、レポート作成時に活用することができる。</li> </ul> <p><b>思考・判断の観点:</b>・現実の観光や社会、経済の問題について、経済学的な観点から理解したことを、それがどのような意味をもっているのかを思考し、判断できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>・観光および社会や経済の問題について、高い関心を持ち、それについて自ら情報収集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら情報収集をしたり、授業で取り扱った内容を用いて、レポート作成に取り組むことができる。</li> <li>・ゼミのメンバーの考え方や意見に関心をもつとともに、自らの考え方や意見も積極的に述べることができる。</li> </ul> <p><b>態度の観点:</b>・学ぶことに積極的かつ真摯に向うことができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミのメンバーの考え方等も尊重する中で、自分の考えや意見を述べることができる。</li> </ul> <p><b>技能・表現の観点:</b>・レポートや輪読のレジメ作成において、適切な情報およびデータを用いながら分かりやすく作成することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや輪読のレジメの発表において、聞き手の立場に立って分かりやすくプレゼンテーションをすることができる</li> </ul>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>レジメやレポートの作成内容やそれぞれのプレゼンテーションへの取組み、実習講義やゼミで行う観光研修をはじめとする観光を学ぶための活動への積極的かつ意欲的な参加について評価する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>観光経済学入門／ジェームズ・マック著；瀧口治，藤井大司郎監訳：日本評論社，2005</p> <p>産業連関分析入門／宮沢健一：日本経済新聞社，2005</p>					
<b>参考書</b>					
<p>産業連関分析入門：ExcelとVBAでらくらくIO分析／藤川清史：日本評論社，2005</p> <p>Excelによる産業連関分析入門：VBAのプログラミング手法をモデル構築で解説／井出眞弘：産能大学出版部，2003</p> <p>実戦計量経済学入門／山澤成康：日本評論社，2005</p>					
<b>メッセージ</b>					
<p>経済学科、観光政策学科における経済に関する数多くの授業を積極的に履修して下さい。特に関連科目の履修は演習1で学ぶ内容をより充実することにつながるため、ぜひ履修をお願いしたいと思います。また、演習 I は毎週授業に参加することによって学べる内容も多いため必ず出席して下さい。このゼミは、学生の皆さんが主役です。学生同士が協力しながら、学ぶことで刺激し合える仲間のゼミになればならば、ゼミを担当する者として大変うれしく思います。</p>					
<b>連絡先</b>					
<p>asahi@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170505
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>社会心理学的な方法を用いて観光・レジャー等を分析する卒論を書くために、1 年目は社会心理学的研究の教科書から発表しあう。観光・服装・スポーツ・恋愛・文化・インターネットなどたくさんのもありますし、社会心理学ならネットや図書館からでも入手し、それらうちのパワーポイントプレゼンテーションを作成し、交代で発表します。</p> <p>経済学的に考えると人間の行動が嗜好に基づいた合理的な選択ですが、社会心理学的に考えると人間がもっている嗜好は流動的で周囲の社会的・環境的文脈に影響されている、単純明快なものではありません。人間の行動の裏、行動者本人も自覚していない影響を読み解きたい学生にお薦めします。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>社会心理学的な研究の基本を学び、それについて発表できるようになること</p> <p>心理学とは何か、研究とは何か、基礎的な理解を身に付けること</p> <p>日本文化心理の影響を考えること</p> <p>英語で話すこと</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 社会心理学的な研究のいくつかを理解する</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 仮説をどのように実証できるかについて考えること</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 行動の「なぜ」に興味を持ち、無意識的な行動への影響に目覚めて動機の複雑さに興味を持つことです。</p> <p><b>態度の観点:</b> 発表を恐れないこと</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 英会話</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
研究発表に					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
takemoto at nihonbunka.com					
<b>オフィスアワー</b>					
いつでもよいです。不在なら 090 9588 3270 に電話して呼んでください。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033170506
開設科目名	演習 I			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	朝水 宗彦			区分	
<b>授業の概要</b>					
この演習のテーマは観光や留学、移住など、人的な移動に関する研究である。導入時にリサーチの基礎的な手法を学ぶが、その後各自が研究テーマを決めて基礎的なリサーチを行う。研究テーマは国際観光政策やエコツーリズム、文化観光、留学政策、異文化間教育、コンベンション、ビジネス移民など、様々な事例が想定される。					
<b>授業の一般目標</b>					
リサーチの基礎を学んだ後、研究テーマを決定する。その研究テーマに従い、自主的にリサーチを行う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 文献研究とフィールドワークの基礎を学ぶ。					
<b>思考・判断の観点:</b> 様々な基礎的資料を収集し、体系的にまとめる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 基礎的な調査方法を用いながら、自分で決めたテーマを調べる。					
<b>態度の観点:</b> 出席や課題提出に留意する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 他の受講者にもわかりやすく発表する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席 30 点、課題 30 点、期末レポート 40 点					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
他の受講生に迷惑をかけるので報告担当者は無断で休まないように。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033170601
<b>開設科目名</b>	演習 I			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	古賀 大介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>世界・社会経済を様々な歴史的観点から勉強していきます。この演習では、例えば、学校の歴史、お金の歴史、ファッションの歴史など、私たちにとって身近なトピックスを取り上げ、その歴史を学ぶことを通じて、世の中をより深い次元から把握する眼、本質を見る眼を養ってきたいと思います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発表に必要なスキルを身につける</li> <li>2. 経済史の基礎知識をマスターする</li> <li>3. 歴史を通じて、世の中をより深い次元から把握する眼、本質を見る眼を養う</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席・発表の総合評価。特段の理由がない限り、遅刻・欠席は認めない					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
一緒に楽しく勉強していきましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180101
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤井 大司郎			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>昨年に続いて「公共経済学」を進める。これまでの経験で分かると思うが、経済理論、とりわけミクロ経済学の基礎をしっかりとマスターしておかなければ、どこまでも無益な授業時間が続くことになる。</p> <p>読書会も引き続き行いたいと考えている。深刻な我が国経済、世界経済の今だからこそ、経済とは何かを実態に即して共に考えていこう。「前座」も慣れてきたであろうから、読書会と結びつけたり、将来の卒論テーマ発見に役立ててほしい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
民間市場経済についての理解の上に、経済主体としての政府について学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180102
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	塚田 広人			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>演習Ⅱの課題は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、時事問題の検討</li> <li>2、共通文献の学習</li> <li>3、卒論研究の開始</li> </ol> <p>の三つです。演習Ⅰと比べて3が新しく加わります。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
日本と政界の経済、社会の問題を原理的、また具体的に考える力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席と報告内容、議論への参加内容で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
楽しく、しっかり学びましょう。					
<b>連絡先</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 933-5558 ht@yamaguchi-u.ac.jp</li> <li>○ A棟424号室</li> </ul>					
<b>オフィスアワー</b>					
○ 原則として、水曜日1時半-3時(在室時はそれ以外でも可)					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180103
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	植村 高久			区分	
<b>授業の概要</b>					
1. テーマ 現代日本経済の歴史的考察 1.1980年から2009年までの日本経済の現状を経済、産業、消費生活の面から分担して研究し、実状を把握することに努める。とくに、2008年の金融危機とその後の世界同時不況を商店にする。 2.各自が興味を持つ個別テーマを決めて、意識的に研究を進めていくことを中心にする。					
<b>授業の一般目標</b>					
現在の日本経済の状況について、概略説明できる。日本経済の問題点とその原因について、説明できる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 日本経済の現状とさまざまな問題・解決法を簡潔に述べることができる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 様々な社会的選択肢の結果と意味を理解し、自己責任で選択肢を選ぶことができる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 日本経済の特定の焦点的課題や特徴のうち1つまたは複数について、様々な主張や論点を積極的に理解しようとする。					
<b>態度の観点:</b> 様々な問題を自力で理解し、自分の言葉で説明しようとする積極性を身につけている。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180104
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	兵藤 隆			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
演習Ⅱでは、演習Ⅰで身に付けた基礎的なプレゼンテーションの技術とディベートの技術をさらに発展させ、実践的な技術を身に付けることを目標とします。そのために、プロジェクトの企画・運営にも取り組んでもらおうと考えていますので、積極的にチャレンジしてください。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞を読んで今後の経済動向が語れるようになる。</li> <li>2. 就職活動がスムーズに行えるよう、職業(プロ)意識を高めていく。</li> <li>3. ビジネスおよび組織運営について実践的な技術を身に付ける。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ( <a href="http://thyodo.eco.coocan.jp">http://thyodo.eco.coocan.jp</a> )を参照にしてください。学生生活において最も「伸び」が期待できるのがこの時期です。一緒にかんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
thyodo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180105
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	寺地 伸二			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
テキストの輪読と発表。					
<b>授業の一般目標</b>					
テキストの輪読と発表。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表など。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180106
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	木部 和昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>演習Ⅱに引き続き、近代日本経済史を学ぶ。具体的には「企業・人物から見た日本経済史」、「地域経済の歴史」を中心に取り扱う。また、近代史料の講読および分析も本格的に行う。こうした取り組みの中から、次年度の卒業論文作成に向けて、自分なりの課題を見出すとともに、その下準備を進める。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>(1)明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。</p> <p>(2)身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。</p> <p>(3)史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。</p> <p>(4)卒業論文に向けた自分なりの課題を見出す。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。</p> <p>報告者以外も、報告内容をまとめたノートを提出させるが、これも評価の対象となる。</p> <p>報告 45%、授業内小レポート 15%、夏休みレポート 30%、授業態度 10%</p> <p>欠席が多い者は不合格となる。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年の終わりには、就職活動等が忙しくなる。その前に、卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。</li> <li>・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。</li> <li>・他の人の報告にも積極的に質問し、活発な議論を期待する。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
<p>経済学部 C207 研究室</p> <p>内線 5566</p> <p>E-mail; kibe@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180107
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村 淳一			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを理想としています。演習では教科書を中心にミクロ経済学・マクロ経済学の論理の習得に努めます。平行して、地域経済(観光)の問題に2年次の学内討論大会で取り組み、日本経済の問題に3年次の全国討論大会で取り組みます。自分の研究テーマは、そうした過程で関心や興味を持った経済・社会問題を自由に選んでいます。常に経済・社会に対する問題意識を持ってもらうために、新聞の社説を読むことを義務付けています。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>経済理論の応用を習得する。          数学・統計学の応用を習得する。          現在の経済・社会問題を把握し、問題意識を持って議論する。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 各分野の基本的知識を理解している。  <b>思考・判断の観点:</b> 論理的に判断ができる。  <b>関心・意欲の観点:</b> 日常的な経済・社会問題を意識的に考察する。  <b>態度の観点:</b> 積極的に質問する。  <b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えを他者に理解可能な形で表現できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容と議論への参加態度による。					
<b>教科書</b>					
現代経済学の数学的基礎(上) / A.C.チャン:: シーエーピー出版, 1995					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180108
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山田 正雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経済分析の方法を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
経済分析の方法を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
参加姿勢、報告、出席によって評価します。					
<b>教科書</b>					
マクロ経済学・入門 第3版／福田慎一、照山博司:有斐閣, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180109
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	仲間 瑞樹			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>日本経済・世界経済の諸問題に関心を持ち、手際よくプレゼンテーションを出来るようにすること。  また多くのページ数からなる資料を、手際よくまとめ、問題点や課題、それらの解決法を、わかりやすく説明できるようにすること。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>自分の言葉で与えられた課題を説明すること。  ディスカッションに積極的に参加すること。  英語で自分の意思を伝えられるようにすること。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>資料の読み込みが十分であること。  <b>思考・判断の観点:</b>資料の論点・問題点や課題そして解決法を自分の言葉で説明すること。  <b>関心・意欲の観点:</b>出席、質疑応答の度合など。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、発表、質疑応答から総合的に評価。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
講義内で紹介する。					
<b>オフィスアワー</b>					
講義内で紹介する。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180110
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	濱島 清史			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>今年度はキャリア形成論を中心に行なう予定である。より具体的には、労働経済論の講義やテキストを別途基本とし、ゼミではそれに関する応用的なテキスト或いは(労働経済・厚生労働)白書を輪読し、さらにヤル気のある学生には関連文献を読破してもらい、専門性を深めていきたい。業界企業研究も関連させる。ゼミ合宿やゼミナール大会への参加も継続し、発展させたい。テーマの一つとして、昨今の世界同時不況と非正規雇用が考えられる。時事問題も発展的に継承していく。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<p>今年度の目標は専門性を深めること。そのインセンティブを持たせるために、将来の仕事や就職とも関連する内容としたい。労働経済論、キャリア形成論、社会政策論などに関する専門性である。自分の専門はこれなんだといえるようになってもらいたい。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> キャリア形成論、労働経済論、社会政策論などの基本事項をマスターする。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 日本的雇用慣行について、社会通念とその批判を理解し、もって社会通念一般を批判しうる思考能力・判断力を養いたい。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自分の専門性を極める重要性を体得すること。もちろん、他の科目にも関心を持ってもらいたい。労働経済論・社会政策論のゼミに居る限りは、これらについて専門性を深めるべきである。</p> <p><b>態度の観点:</b> 限られた時間の中で集中力を持続させてもらいたい。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 文章表現能力、プレゼンテーション能力、ディベート力、ディスカッションにおける司会進行力、などを身に付けてもらいたい。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>レポート、プレゼンテーション、ディスカッションの司会進行、ディベートにおける発言、出席など。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>マテリアル人事労務管理／佐藤博樹+藤村博之+八代充史:有斐閣, 2006</p>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>専門性を極めよう!</p>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180111
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鍋山 祥子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>私たちが日頃考えていることや興味を持っていること、逆に納得がいけないことって、実は立派な「学問」につながっていたりする。せっかく大学生をやっているんだから、自分と学問とのつながりについて、じっくり考える機会があってもいいんじゃない？ 私のもっとも重視するのは、この「内発的な問題意識」です。</p> <p>演習Ⅱの進め方は、4年次までの長期計画のもとに組み立てられています。まず2年次(演習Ⅰ)には、できるだけ多くの社会問題の存在にふれ、何故それが社会問題として取り上げられているのか、という背景についての理解を深めます(社会学的思考の習得)。3年次(演習Ⅱ)には、KJ法を活用してゼミ員全体による「問題意識の地図」を描いた後、個々人の問題意識を文献・資料研究によって各自が追求し、ゼミでの報告・議論をおこないます。そして、4年次には「自分なりの卒論」をまとめ上げます。こうしてできた卒論は大学時代、あるいは今までの人生の集大成になることでしょう。</p> <p>本ゼミに求められる姿勢は、ゼミ内で「自分をさらけ出す勇氣」と「自分がゼミを創っていくという当事者意識」です。最後に、参考までに私の研究領域をキーワードで述べると、高齢社会・社会政策・ケア論・地域福祉・労働と家族的責任との両立(ワークライフバランス)・ジェンダー・福祉国家論・NPO・アイデンティティなどです。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「学問」と「自分の生活」との結びつきを意識化すること。(社会学的思考の習得)</li> <li>2. レジュメ作成・文献資料検索・レポート作成・議論の方法を習得すること。(学習技術の習得)</li> <li>3. 日常生活のなかにある「自分なりのこだわり」を明確化すること。(研究テーマの探求)</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1. 授業内討論への参画度合(出席は欠格条件) 2. グループ課題の遂行 3. レポート評価を総合的に判断します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
私からは研究テーマを与えませんので、自分で追求したいテーマを探すという困難に挑む積極的態度が不可欠です。活発で率直な意見交換ができるような、楽しい雰囲気でのゼミでありたいと思っています。					
<b>連絡先</b>					
Eメール:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 3/4 限					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180112
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	齋藤 英智			区分	
<b>授業の概要</b>					
地域経済、観光経済の理論を理解するとともに、社会経済の実態も考慮しながら、地域経済の活性化策について考える。 卒業論文の作成に向けてテーマを設定し、資料収集等を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
報告、意見交換などを通じて自分の意見を的確に相手に伝え、また受け答えができるようにする。 質問に対して調査し、的確な回答ができるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 地域経済、観光経済に関する知識を修得する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 社会経済現象をさまざまな角度から考察できる力を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に発言し、自らの意見を的確に述べるができる。					
<b>態度の観点:</b> 無遅刻無欠席を原則として積極的に参加する。					
<b>技能・表現の観点:</b> スピーチ、報告を通じてプレゼンテーションの方法を向上させる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告(50%)、参加姿勢・発言内容など(50%)により総合的に評価する。なお、出席は欠格条件とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
遅刻、無断欠席は厳禁である。特に報告担当者には、授業の進捗を妨げるので注意すること。 やむを得ず授業を遅刻、欠席する場合は事前の連絡を義務づける。					
<b>連絡先</b>					
hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp メールで質問や問い合わせを行う際は、メールの件名に“【演習Ⅱ】〇〇”と名前を必ず明記してください(件名がない場合はメールを破棄します)。					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室(経済学部A棟4階425)在室中はいつでも研究室に来ていただいて結構です。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180113
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	馬田 哲次			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
学生の研究テーマについて指導をします。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「7つの習慣」を身につける</li> <li>2. 企画力、創造力を身につける</li> <li>3. プレゼンテーション力を身につける</li> <li>4. コミュニケーション力を身につける</li> <li>5. 問題解決・分析能力を身につける</li> <li>6. データ処理・事務処理能力を身につける</li> <li>7. 幅広い教養を身につける</li> <li>8. 判断力を高める</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
TOEIC スコア、読書レポート、出席を総合的に判断します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
umada@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180201
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	成富 敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
演習Ⅰに引き続き、各自が興味を持つテーマについての知識を習得するとともに、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなってもらいます。					
<b>授業の一般目標</b>					
各自が興味を持つテーマについてより深く掘り下げる。また、自分の考えを聞き手にわかるように説明できる。他の人の話を理解し、適切な質問ができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表状況、授業への参加の様子、授業外レポートなどをもとに、評価します。出席は必須です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180202
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	古川 澄明			区分	
<b>授業の概要</b>					
研究内容・方法					
(1)フグ・ビジネスの調査					
現在、ゼミ2年、3年生の先輩が下関唐戸魚市場(株)や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方					
(a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査(今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の3割)					
(b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 - 輸入フグの増大化傾向					
(c) フグ・ビジネスの国際化とアジア - 香港、上海のフグ料理店					
(d) 養殖フグの急増と産地間競争 - 相場リーダーとしての下関の挑戦					
(e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 - フグを食べているのか?					
(f) 食生活の変化とフグ・ビジネス - 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か					
(2)山口の酒蔵の調査					
現在、ゼミ2年、3年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っています、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみたい方。					
(a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる(現在、五橋、男山、和可娘の3社を調査中)					
(b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞く					
<b>授業の一般目標</b>					
演習テーマ:経済のグローバル化とローカル・ビジネスの挑戦					
演習の目標:ローカルビジネスの調査研究と取り組むことで、調査研究に必要な経済学や経営学の知識を自主的に積極的に学び、また同時に、そうした知識を調査研究に応用する。そうした調査研究活動を通じて、実践的に、経営学の知識を身に付けることにある。					
(1)卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。					
(2)企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。					
(3)大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。					
<b>思考・判断の観点:</b> 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独創性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ゼミでは、研究の独創性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。					
<b>態度の観点:</b> 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。					
<b>技能・表現の観点:</b> PCの利用に習熟すること。ワープロ、表計算、プレゼンテーションのためのパワーポイントの利用は、普通のこととする。ビジネスモデルの開発のために、各種のプログラムを利用することを勧める。					
<b>その他の観点:</b> ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるというのが、ゼミの原則である。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					

前期:上記テーマに関する業界について、広く基礎知識を得る。同時に、業界を捉える経営学の基礎知識を学ぶ。

後期:現実のビジネスの世界に足を運び、インタビューを実施し、業界の方々から実際の経営の実状を学び、それを経営学の知識習得にフィードバックさせる。積極的に経営学的知識を身に付けるために、報告書を作成する。

**教科書**

**参考書**

**メッセージ**

ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

**連絡先**

学務

**オフィスアワー**

事前アポの上で、随時

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180203
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	有村 貞則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
戦略・組織・管理・財務の側面から経営分析を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
戦略・組織・管理の重要性を学習する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 戦略・組織・管理の重要性を理解できるようになる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 企業の成功と失敗を分ける要素を識別できるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 企業経営全般に関心を持つことができるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 企業経営全般に関心を持つことができるようになる。					
<b>技能・表現の観点:</b> プレゼンテーション力がつく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、出席、発表、発言による総合的評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180204
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	武居 奈緒子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>昨年度に引き続き、マーケティング・流通に関する重要な文献、アップデートな文献を輪読する。</p> <p>さらに、本年度は、ケース研究にも着手する。ケース研究を通じて、企業の意思決定、革新性がどのように企業の競争力の源泉になるかについて、皆でディスカッションしたい。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業が市場で直面する問題について分析する能力を養う。</li> <li>2. 長期トレンドを視野に入れて、現象を分析する能力を養う。</li> </ol>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180205
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	羽生 正宗			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180206
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	内田 恭彦			区分	
<b>授業の概要</b>					
前期は知的資産をベースにした経営の基本的知識について学習する。後期は前期で学んだ基本的知識を土台に日本企業のもの造り経営、および経験に培われた卓越した知識の開発と活用およびそのマネジメントについて考えていく。さらに卒業論文のテーマ、調査枠組み、調査対象企業などについても明確にしていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
自らテーマを探し、実際に調べたことを自分のことばできちんと表現していくことが第1目標です。またチーム活動として常に積極的にに関わり、上手にチーム運営していく技量を身につけることも目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 自分たちが関心をもった経営学のテーマに関しての基本的知識の理解。また実際の企業ケースにその考えを当てはめ分析・検討できる程度に習熟すること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 実際の企業について、どのように調べていけばよいかについての判断および現実の複雑な事象についてどのように解釈していけばよいかについての思考力が高まること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的なゼミおよびチーム運営を行っていくこと。またそのためのリーダーシップの発揮。					
<b>態度の観点:</b> 実際の企業を対象に調査を行います。調査企業などへの丁寧なあいさつ、調査協力に対する感謝の気持ちなどをきちんと持つこと。					
<b>技能・表現の観点:</b> 理解したり、調べたりしたことをできるだけ相手が理解しやすいようにプレゼンテーションを行う力の向上。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
より有意義なゼミ活動のために積極的に参加し、自らの考え、議論し、新たな知見を生み出していくこと。またそのための場のマネジメントを評価します。					
<b>教科書</b>					
資源ベースの経営戦略論／デビッド・J・コリス他:東洋経済新報社, 2004					
日本のもの造り哲学／藤本隆宏:日本経済新聞社, 2004					
「経験知」を伝える技術／ドロシー・レナードほか:ランダムハウス講談社, 2005					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
積極的に参加し、議論し、知的刺激にあふれたゼミにしましょう。					
<b>連絡先</b>					
y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180207
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	柳田 卓爾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期は、テキストを利用して、流通・マーケティング、経営に関連する著書を読む。後期に関しては、何をするかを、みんなで相談して決める。例年だと、卒業論文の準備に取り掛かっている。前期で学んだことを生かして、自分自身で見つけた卒業論文の「問い」を、他のみんなに理解できるような形のレポートにまとめていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
「問い」を立てるとはどうか、を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
前期に関しては、担当箇所のレジュメ、報告(プレゼンテーション)、報告書、等による。後期に関しては、レジュメ、報告(プレゼンテーション)、レポート、等による。また、出席は、欠格条件である。					
<b>教科書</b>					
戦略的思考の技術 ゲーム理論を实践する, (中公新書)/梶井厚志:中央公論新社, 2002					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
よりよい卒業論文を完成させるためには、どうすればよいか。日々、何をすればよいか。この点を「強く」意識しながら、この1年間を過ごして下さい。 また、就職活動も始まります。こちらの課題も、がんばっていきましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180208
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	渋谷 綾子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
経営情報論、ビジネスゲーム、線形計画法など演習Ⅰで学んだ内容、および新たに演習Ⅱではビジネスモデルについて学ぶ予定。それらのなかから最も興味深いと思われるテーマを発見し、発表やディスカッションを通して考察を深め、卒業論文作成の準備をする。合わせて業界研究も行なう。					
<b>授業の一般目標</b>					
演習Ⅰと演習Ⅱで学んだことをもとに自分のテーマを決定し、プレゼンテーションやディスカッションの能力を高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業貢献度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションへの参加度によって評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
ビジネスモデル革命第2版／寺本義也、岩崎尚人、近藤正浩:生産性出版, 2007					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
shibuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日12時～13時。また、在室中いつでも可。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180209
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤田 智丈			区分	
<b>授業の概要</b>					
演習Ⅰに続いて、会計という手段・知識が世の中でどのように用いられているのかを、さらに深く学習します。					
<b>授業の一般目標</b>					
会計を議論するための十分な知識を身につけ、自分で興味のあるテーマについて調査発表できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 現実の会計問題を議論するに足る、十分な知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 身につけた知識を現実の問題にあてはめて分析し、問題点や改善策を考えることができるようになる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 世の中で起きている様々な会計関連の問題を自分で調べられるようになる。					
<b>態度の観点:</b> 積極的に意見を述べ、説得力のある議論をできるようになる。					
<b>技能・表現の観点:</b> 自分の考えていることや感じていることを適切に伝えられるプレゼンをできるようになる。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表(プレゼンテーション)や討論、予習・準備等を総合的に評価します。演習は授業と異なり、生徒が自発的に発表し討論する場です。したがって、説得力のある発表や討論をできることが最も重要です。そしてそのためには、適切な準備が必要です。なお、出席は欠格条件です。					
<b>教科書</b>					
ゼミナール現代会計入門(第7版)／伊藤 邦雄: 日本経済新聞出版社, 2008					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180210
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	米谷 健司			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は、職業会計人コースの会計専攻3年生を対象とするものです。職業会計人としての専門知識を学ぶと共にコミュニケーション能力を高めることに重点をおいています。授業に対して受身になるのではなく、積極的に参加する姿勢が必要とされます。					
<b>授業の一般目標</b>					
自分の持っている知識と能力を駆使して、より説得力のある説明ができるようになることプレゼンテーション能力を高めること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
評価は、出席50%、発表50%とします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180301
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
文献調査等を精力的に行い、データの収集と分析に基づいて、その成果を報告する。					
<b>授業の一般目標</b>					
データの分析能力を高め、同時に成果の報告に際してはパワーポイント等を使用して、プレゼンテーション能力の向上を図る。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価は、出席(30点)、報告(70点)によって行います。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180302
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	李 海峰			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
授業の概要 「世界の工場」から「世界の市場」へと変化している中国経済について、社会経済理論と実証を通して、検討する。					
<b>授業の一般目標</b>					
授業の一般目標 中国経済、経営についての研究分析を通して、中国の市場環境にどう適応していくのか、日本経済の今後の課題、企業の経営戦略を考え、自分の論点を発表してもらう。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、授業態度、プレゼンテーションなど、					
<b>教科書</b>					
中国経済入門／南 亮進:東洋経済新報社, 2005 中国経済発展論／中兼:東京大学, 2003					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
一寸光陰一寸金、寸金難買寸光陰、					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
研究室にいる時、いつでもよろしい					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180303
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	尹 春志			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
現代の日本と世界とりまく諸問題について、自ら調べ、まとめ討論することで認識を深める。					
<b>授業の一般目標</b>					
特定の社会・経済・政治問題について、論点を見つけ、調べ、まとめ、討論する能力をみにつける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席・報告・討論への参加度にもとづいて総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180304
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	陳 建平			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180401
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	平中 貫一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
民法判例等の授業。					
<b>授業の一般目標</b>					
民法を学ぶ。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告を評価。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180402
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	上杉 信敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
行政に関する法現象についてすでに演習Ⅰにおいて1年間学習してきたことを受けて、さらにそれを継続するとともにさらに次の領域や段階に進んで考えていくことがその内容となる。					
<b>授業の一般目標</b>					
第二段階の行政法についてみていくことである。1年間の内容について残されたものを継続し、さらに次の領域や段階のものを行う。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告分担の内容や出席状況、演習進行にわたる質疑応答など、さらにレポートの内容などを総合判定する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
興味のあるものをいろいろやってみましょう。					
<b>連絡先</b>					
内線(5588)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180404
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中村 美紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本演習では、まず会社法テキストを講読し、その後会社法判例を読んでいきます。あらかじめ割り当てられた分担箇所あるいは事例について、報告者の報告にもとづき質疑応答、議論を行います。					
<b>授業の一般目標</b>					
会社法の基本的事項を理解しつつ、卒論のために会社法について自らのテーマをもつこと、および社会に出たときのためにレジュメの作成およびプレゼンテーションの能力を養うことも目指します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価の観点、aゼミを楽しんでいるかどうか、bゼミを盛り上げているかどうか、c報告は勤勉にしているかどうか、dオンとオフのけじめをつけているかの4点です。					
<b>教科書</b>					
テキストブック会社法／末永敏和[編著]:中央経済社, 2006 会社法判例百選／江頭憲治郎他[編]:有斐閣, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
欠席が避けられない場合は、事前に連絡をしてください(Eメール可)。					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟319研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
前期火曜日 12:50—14:50、後期火曜日 16:10—17:40。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180405
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	石 龍潭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業では、主に具体的問題(判例)の検討を通して、行政法の重要な制度の理解を深めるとともに、問題の解決を自分で考え、それを表現する能力を養う。したがって、これまで履修した講義などによる知識を習得・理解していることと、授業への主体的な参加が要求される。					
<b>授業の一般目標</b>					
具体的には、行政関係の判例を取り上げて、判例研究を行う。取り上げる判例は、参加者が教官と相談の上、決定する(特に勉強してみたい領域、トピックがあれば、それを優先する)。報告には次の内容を含めるものとする。					
(1) 事実の概要					
(2) 判決の要旨					
(3) 簡単な評釈(学説、私見など)					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
レポート、出席による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
一緒に頑張りましょう。					
<b>連絡先</b>					
質問等のある学生は、気軽に私の研究室に来てください。 (経済学部 A 棟 408 室)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180406
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	安住 修一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>所得税、法人税、消費税、相続税、国際課税の基礎知識を習得する。</p> <p>さらに、国際化に伴い発生する所得税・法人税に係る問題について、国際課税の変遷や外国税額控除制度、移転価格制度、タックスヘイブン税制などについて学ぶ。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
演習Ⅰでの知識に加え、税に対する専門的知識を深化させ、さらに国際課税に対する問題意識を養い基礎知識を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
ゼミ全般の姿勢					
<b>教科書</b>					
「税法入門 第6版」／金子宏他;有斐閣新書					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
azumi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180407
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	三間地 光宏			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前期は、昨年度に引き続き、テキストを使用して民法の基礎知識を習得する。 後期は判例演習を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
民法の基礎知識を習得する。 判例を分析・検討する能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
平常点による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
未定					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180408
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	油納 健一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
演習Ⅰの続きを行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
(1) 民法の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。					
(2) 民法学習を通して、問題発見能力・問題分析能力・私見創造能力・プレゼンテーション能力・ディベート能力など、社会人として必要な能力を身につける。					
以上の(1)・(2)で説明した能力は、法科大学院(司法試験)・司法書士試験・公務員試験受験を志す者はもちろんのこと、民間企業を志す者にとっても必要不可欠な能力であることはいままでもない。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。					
3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
yuno@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180409
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉川 信将			区分	
<b>授業の概要</b>					
会社法の計算、社債、組織変更等の分野を概観したのち、新会社法全般の個別的問題点を検討する。					
<b>授業の一般目標</b>					
現行会社法の主要な問題点を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 旧会社法の問題点、現行会社法の立法経緯・問題点につき、基本的な事柄を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 現行会社法の理論的問題点を探り、解決策を検討する姿勢を身に付ける。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に報告・討論に参加する姿勢を身に付ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
指定されたレポートの作成とそれに基づいた報告を中心とし、出席状況・討論への参加姿勢等を加味して最終的評価を決定します。					
<b>教科書</b>					
会社法第十版／神田秀樹:弘文堂, 2008					
<b>参考書</b>					
キーワードで読む会社法第2版／浜田道代編著:有斐閣, 2006					
商法判例集第3版／山下・神田編著:有斐閣, 2008					
<b>メッセージ</b>					
参加者の希望に配慮するとともに、実際の進行状況に合わせて、授業計画はフレキシブルに修正します。					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟413研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日12:50～14:20					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180410
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	土生 英里			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
前年度に習得した国際法の基礎をベースに、国際社会に生ずる様々な紛争について具体的事例を研究し、理解する。					
<b>授業の一般目標</b>					
国際社会における日本の位置づけを認識し、国際法上の権利義務を認識する能力を習得する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 多くの事例を読み込み、国際法上の取り扱いを学ぶ					
<b>思考・判断の観点:</b> 様々な実際のケースと、国際法上の権利義務のせめぎあいを理解する					
<b>関心・意欲の観点:</b> 興味のある事案について、積極的に情報収集をし、理解を深める					
<b>態度の観点:</b> 自らの考えを積極的な参加と発言によって表明する					
<b>技能・表現の観点:</b> 国際法上の専門用語の理解を深める					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席および積極的な参加と発言を総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
今年から徐々に英語の教材を導入します。頑張ってください。					
<b>連絡先</b>					
e.habu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月～水、講義、ゼミの時間以外					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180501
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	齊藤 匡史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
これまでに進めてきた中国理解の知識をさらに一步深くすすめ、情報収集能力や問題発掘・分析の視点、論述能力を養成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代中国社会とそれを取り巻く日本・アジアや世界との関係において、存在する諸課題を発掘分析し、論述・報告ができるようにする。</li> <li>・各自卒業論文のテーマを考察してゆく。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習への参加状況、レポートや調査事項の提出など総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180502
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	MARC LOHR			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
1.演習Ⅰに引き続、観光とメディアの関係について調べる。 2.研究発表					
<b>授業の一般目標</b>					
演習Ⅰに引き続き、外国と日本のマスメディアを比較・分析することによって、特に観光とメディアの関係を理解する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1.メディアの仕組みを理解する。 2.研究発表の方法を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 1.メディアの組織やメッセージについて判断力を深める。 2.自分の研究を深めることについて判断する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> メディアに対する関心を深めて、日ごろ、もっと積極的にその実態を探る。					
<b>態度の観点:</b> メディアをもっと効率的に利用する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
授業参加(50%)と期末レポート(50%)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180503
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	河村 誠治			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>テーマ 現代日本のサービス業と地域経済</p> <p>演習Ⅰで各自が興味を持って取り上げてきた諸産業とくにサービス業や地域経済などの個別テーマの研究を継続し、卒業研究に向けて意欲的に研究を深めていくことを中心にする。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
各自の興味を持って研究してきた個別テーマについて、自信を持ってその概略を説明できるようにする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> ポスト工業化におけるサービス業におけるさまざまな問題やその解決法を簡潔に述べることができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> さまざまな社会現象やサービス業を包括的に理解し、最適な方法や政策を提示することができる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 自分の見解とは異なるさまざまな主張や論点に耳を傾け理解しようとする。</p> <p><b>態度の観点:</b> 言葉を選び、自分自身の言葉で説明できるようになる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容 50%, 演習への参加の度合い 50%。3分の1の欠席:欠格条件。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180504
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	篠原 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033180505
<b>開設科目名</b>	演習Ⅱ			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鴨川 啓信			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>この演習では、物語、旅行記、映像等に表象された旅を扱い、その文化的側面について考察する。</p> <p>古今東西、旅は文学、絵画、映画等の主題となってきた。授業では、それらの具体的な作品を取り上げ、旅の普遍的性質／地域・時代による性質、旅人の精神、旅の表象方法等を分析・検討していき、文化としての旅の理解を深める。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
旅の文化的側面に関する理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習への参加度、課題の提出状況、期末レポートの成績に基づいて評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033180507
開設科目名	演習Ⅱ			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	宮崎 充保			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190101
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤井 大司郎			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>連休明けを目安に、各自、卒論テーマを仮決定し、自学を進めておくこと。秋以降は、毎回、本格的に卒論発表を順番で繰り返してゆく。夏までは、ステップと3年生との読書会を行う予定。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190102
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	植村 高久			区分	
<b>授業の概要</b>					
相互に問題意識を交換しながら、卒業論文を作成するためのテーマ設定を行い、次に必要な文献の継続的講読を指導する。最後に、卒論の取りまとめ方についての指導を行い、以後は個別指導を通じて、各自の卒業論文の完成度を高める努力を促す。					
<b>授業の一般目標</b>					
明確なテーマを持ち、首尾一貫して、必要な参考文献や関連領域の調査・検討を含む卒業論文を完成させること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 各テーマに必要不可欠な内容や文献をフォローしていること。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論文として全体が首尾一貫した主張をもつこと。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 各テーマについて、深い関心と積極的な自発的学習によって書かれていること。					
<b>態度の観点:</b> 文章作法を守っていることと卒業論文としての体裁及び読みやすさに配慮した表現となっていること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190103
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	柏木 芳美			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
過去2年間勉強してきたことを更に発展させ最終的には卒業論文を作成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文の作成					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 卒業論文の内容を十分に理解すること。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 1. 他人の論文に興味を示し、評価できること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 1. 卒業論文としての体裁を整えること。					
2. 日本語の表現を深めること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表 60～80%, 出席 20～40%, 他人のプレゼンテーションに対する評価 10%。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
e-mail: kashi-y@yamaguchi-u.ac.jp					
Tel&Fax: 083-933-5595					
<b>オフィスアワー</b>					
開始時点に伝える。研究室は経済学部C棟C213。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190104
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	馬田 哲次			区分	
<b>授業の概要</b>					
前期は、卒業論文の書き方について説明をする。後期は、各自の卒論のテーマに従って卒論指導を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 卒論のテーマの問題と答えを明確にすること。					
2. 構成をピラミッド構造にし、論理的な構造にすること。					
3. 参考文献の書き方、引用の仕方等、論文の形式的な面をきちんとすること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 選んだテーマについての十分な知識を持つこと。					
<b>思考・判断の観点:</b> 結論に至る論拠を明確にすると共に、論理的に思考すること。					
<b>技能・表現の観点:</b> 分かりやすい、論理的な文章を書くこと。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
TOEIC スコア、レポート、卒業論文で、総合的に判断する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
umada@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190105
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	兵藤 隆			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の作成					
<b>授業の一般目標</b>					
大学四年間の集大成としてふさわしい卒業論文を仕上げることを目標とします					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
論文と呼ぶにふさわしい内容かどうかを厳しくチェックします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
詳しくはゼミのホームページ( <a href="http://thyodo.eco.coocan.jp">http://thyodo.eco.coocan.jp</a> )を参照してください。山口大学経済学部を卒業したと胸を張って主張できるような論文に仕上げても らいたいと考えています。笑顔で卒業できるように一緒にがんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
thyodo@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190106
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	木部 和昭			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
近代日本経済史に関わる卒業論文作成のための指導を行う。最終的には各人の設定した課題にしたがって卒業論文をまとめて提出する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1,卒業論文作成のための課題を設定する(論文題目の決定)。 2,課題に関して史資料を収集・分析する。 3,自ら立てたテーマに従って卒業論文を完成させる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文の内容および口頭試問(80%)、受講者による報告(15%)、授業への取組(5%)で成績を評価する。出席の悪い学生は、卒業論文指導を受講していない訳であるから、提出しても卒業論文を受理しない。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職試験等で忙しくなると思われるため、早めに卒業論文に取り組んで欲しい。</li> <li>・欠席が多いと卒業論文を受理しない(=卒業できない)ので注意すること。</li> <li>・卒業論文はレポートではない。不十分な卒業論文については書き直しを要求したり、不合格とする場合があるので、真剣に取り組むこと。</li> <li>・就職試験等で休み場合は、事前連絡を忘れないこと。</li> </ul>					
<b>連絡先</b>					
経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail; kibe@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190107
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村 淳一			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学(計量経済学)を用いることを理想とします。卒業論文演習では、演習Ⅱの終わりに選んだテーマについて、(1)先行研究のサーベイ、(2)関連データの収集、(3)分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、を更に深め、適宜進行状況について報告をしてもらいます。論文作成が中心になるので、執筆中に出た疑問については随時質問に来ること。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。</li> <li>・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>標準的なマクロ経済理論を理解できている。  基本的な統計学の手法を修得している。  自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。</p> <p><b>態度の観点:</b>事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。  統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告内容と卒業論文の内容					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190108
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山田 正雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文作成のための報告及び指導					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文を仕上げる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文の内容と報告、出席により評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190109
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	仲間 瑞樹			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
自身が設定したテーマに沿った、論理的な卒業論文を作成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
具体的なデータ、論理的な根拠等に基づいた卒論を作成すること。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 論理性の高い日本語による文章を作成する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 今まで習った知識を卒論に反映すること。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
毎回の発表・出席、提出した卒論の内容から総合的に判断。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
推敲をした卒業論文を作成してください。					
内容に不備がある場合、内容のない卒業論文と判断される場合、卒論の書き直しを1月以降していただきます。くれぐれも手を抜かないで下さい。					
<b>連絡先</b>					
講義内でお知らせします。					
<b>オフィスアワー</b>					
講義内でお知らせします。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190110
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	濱島 清史			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒論作成を中心とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
論文としてのレベルを高めたい。卒論では、テーマに沿った現状、原因、対策などが抑えられていれば最低限芳としているが、通常、これを越えてしまう。その場合、より論文らしく、一つのテーマに沿って論じるという方向へ昇華させたい。自分の文章を中心に、脚注で引用を明らかにしながら展開すること。参考文献としては、論文も合わせて50本くらい読破することを目標としたい。できれば英語文献も入れられたい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒論の出来栄による。もちろん、その前の準備論文の提出、各章の内容のレジュメ報告、章立て発表、テーマ構想の確定、さらに卒論提出後の卒論発表会は必須である。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ゼミの中興の祖たれ！					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190111
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	鍋山 祥子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
各自の卒業論文の作成をおこなう。個別指導に加え、ゼミ員相互の報告と意見交換を踏まえながら、完成度の高い卒業論文の作成を指導していく。					
<b>授業の一般目標</b>					
ゼミ員相互の論文報告をおこないながら、互いの論文に関与しつつ、みずからの論文の完成度を高めていく。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
自分の卒業論文執筆への取り組み度合いを評価する、また同時に、他のゼミ員の卒業論文報告への関与度合いも重視する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
Eメール:nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日 3/4 限					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190201
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中田 範夫			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この授業は卒業論文を作成するためのものである。卒業論文のテーマを早めに決めて、卒業論文の作成に取りかかる。卒業論文の経過を最低3回は報告することを要求する。					
<b>授業の一般目標</b>					
各自の選んだテーマについて卒業論文としてまとめることを目標にする。最近では著作権等が厳しくなっているので、特にこの点には注意をして指導したい。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
出席、報告の内容、授業への参加度、そして卒業論文の内容で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190202
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	古川 澄明			区分	
<b>授業の概要</b>					
2年、3年の間に研究してきたテーマを卒業論文にまとめる。					
<b>授業の一般目標</b>					
オリジナリティのある卒業論文をしあげること。前期中に指定ボリュームの論文を自分で完成すること。それをベースにして、後期には、論文を仕上げる。オリジナリティある、経営学知識を十分に学んでその成果を反映した卒業論文を作成することが求められる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 企業やそのマネジメントについて、ケーススタディを実施するための経営学の基礎知識を身に付ける。ビジネスモデルの独自の設計を目標とする。					
<b>思考・判断の観点:</b> 独自のテーマ設定を行うので、テーマと研究方法の独自性を重視する。したがって、オリジナリティを問われる。深い思考力や、テーマや研究方法の妥当性を身に付けるために、幅広く知識を身に付けることが望ましい。					
<b>関心・意欲の観点:</b> ゼミでは、研究の独自性を重視するので、自分で関心のある、意欲的に取り組めるテーマを設定し、独自の研究成果を出すことが求められる。					
<b>態度の観点:</b> 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。					
<b>技能・表現の観点:</b> 研究は当初、チームで行い、やがて個人研究へシフトすることになる。チームでも、個人でも、積極的に、意欲的に取り組むことが重要である。課題を自分で見つける楽しさがあるが、独自の課題を見つけるまでの困難もあり、それが自分を自分の力で育てることになる。ゼミでは、自分を自分で育てる、という観点を重視する。					
<b>その他の観点:</b> ゼミの原則は、楽しいこと。ゼミ全員が楽しく学べることである。ゼミは、メンバー全員で作るものという考えを持つこと。各メンバーは、研究でも勉強面でも、ゼミに楽しさを提供する努力を求められる。積極的にサービスを提供することで、自分もサービスを受けるというのが、ゼミの原則である。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
全体的に評価する。とくに積極性、プレゼンテーションの善し悪し、独自性を重視する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。					
<b>連絡先</b>					
学務					
<b>オフィスアワー</b>					
事前アポの上、随時					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190203
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	長谷川 光圀			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の作成					
<b>授業の一般目標</b>					
各自のテーマに沿って、専門的に分析して作成する。そこから、独自の問題が見える。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 専門的分析力					
<b>思考・判断の観点:</b> 専門的思考の深さと広さ					
<b>関心・意欲の観点:</b> 問題意識の強さ、深さ、探求心					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
論文評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
テーマの選択に時間を掛ける。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190204
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	城下 賢吾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の作成					
<b>授業の一般目標</b>					
4年間の集大成としての優れた論文の作成					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
論文並びに出席点					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
sirosita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190205
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	石田 成則			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
講義で学んだことと演習で学習したことに基づいて、卒業論文を作成する。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文の内容を高めるとともに、演習内の討論を行い、関連分野についても理解を深める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 卒業論文の内容					
<b>関心・意欲の観点:</b> 卒業論文テーマにかかわる資料収集					
<b>技能・表現の観点:</b> 卒業論文作成および報告のマナーなど					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文の採点と報告態度					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190206
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	成富 敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の作成を目標に、テーマの絞り込みと研究内容についての発表をおこなう。					
<b>授業の一般目標</b>					
研究の深化と卒業論文の作成。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
受講状況、発表状況および成果物などをもとに評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190207
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	有村 貞則			区分	
<b>授業の概要</b>					
経営学あるいはそれに関連する卒論テーマを各自で設定し、その進捗状況の報告、および完成までの指導を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒論を完成させる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> テーマに関する既存の知識や情報を習得できる。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論理的思考や記述を習得できる。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 様々な経営的テーマに関心を抱くことができる。					
<b>技能・表現の観点:</b> ディスカッション力およびプレゼンテーション力がつく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
発表および完成した卒論の内容・質					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190208
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	内田 恭彦			区分	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文作成の指導を行います。演習Ⅱで策定した研究テーマなどに基づき、研究を進め、随時経過報告をしてもらいます。周囲の人からアドバイスやアイデアをもらいながら1年かけて卒業論文を作成していきます。					
<b>授業の一般目標</b>					
地域の企業経営に関するトピックについて、テーマを自ら設定し、実際に調査して、問題の原因や構造、解決するための方向などを自ら導き出し、論文としてまとめあげることが目標とします。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 事実に基づき思考し、問題の構造や原因の特定、原因と結果の関係などを明らかにする。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 事実に基づく議論を行う。多様な観点から事実を見て、複眼的に物事をとらえ、相手に伝える					
<b>態度の観点:</b> ゼミが活発と重なることもあるが、そのようなときにでも他の人々にできるだけ迷惑をかけないように配慮する					
<b>技能・表現の観点:</b> 多様な観点から事実を見て、複眼的に物事をとらえ、相手に伝える					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
問題意識の醸成→研究テーマの設定→仮説構築→調査設計→調査→分析→結果の考察→論文作成という一連のプロセスをきちんと行い、自分なりに研究テーマに関する深い洞察を得られたか否かが評価される。また仲間の研究にも関心を持ち、お互いにアドバイスをしながらより良い研究ができるように積極的にゼミ運営にかかわっているかどうか評価される。					
<b>教科書</b>					
資源ベースのヒューマンリソースマネジメント／伊藤健市:中央経済社, 2008					
知識の源泉／ドロシー・レオナルド:ダイヤモンド社, 2001					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
大学時代とくに頑張ったものの一つに卒業論文作成と言えるように頑張ってください。1年かけて自分の考えをきちんとまとめあげるといった経験は大変貴重なものですし、社会に出てからも自信になります。					
<b>連絡先</b>					
y.uchida@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190209
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	山下 訓			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文を作成するため、卒論の概要を発表します。					
<b>授業の一般目標</b>					
前期は企業価値等の財務分析、後期は卒論発表です。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
5518 yamasita@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日の昼休み					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190210
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	柳田 卓爾			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の執筆指導を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文を、期日までに完成させる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
研究報告などを、総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
大学生活 4 年間の総決算としての卒業論文です。全力で取り組んでください。悔いのないように。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190211
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	藤田 健			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
各自の卒業論文の完成に向けて研究をおこなう。					
<b>授業の一般目標</b>					
質の高い卒業論文を完成させることができる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 各自の専門分野の理論を理解できる					
<b>思考・判断の観点:</b> 各自の研究対象について理論的に分析できる					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
学期中の研究報告、ゼミへの貢献、および提出された卒業論文をもとに総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
無断欠席・遅刻は厳禁である。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190212
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	渋谷 綾子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>卒業論文を完成させることが目標です。まずテーマを決定し、それから1月の論文提出時期までのスケジュールを立てます。関連する本をたくさん読んでおきましょう。夏休みが終わったときに章立てができていることが一つの目安です。</p> <p>また、途中経過を発表してもらいます。気軽に発表しましょう。発表すればするほどそのテーマに詳しくなれることを実感してください。</p> <p>なお、卒業論文のテーマは自由。ゼミのメインテーマは「経営情報」ですが、他の分野の論文も歓迎します。ただし、経済か法律の知識に基づいた考察を含むこと。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
経済、あるいは、法律の知識に基づいた考察を含む卒業論文を完成させる					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
主に完成した卒業論文によって成績を評価します。途中経過の発表で優れたものがあればより有利です。また、積極性が示されればさらに有利です。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
自主的に学ぶ楽しさを体験してください。					
<b>連絡先</b>					
shibuya@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜日12時～13時。在室であればいつでも可。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190213
開設科目名	卒業論文演習			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	米谷 健司			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190214
開設科目名	卒業論文演習			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	橋本 寛			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190301
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	澤 喜司郎			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の完成を目指して研究報告を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文を完成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文によって評価します。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190302
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	河野 眞治			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の中間発表を行う。					
<b>授業の一般目標</b>					
立派な卒業論文を書くこと。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>技能・表現の観点:</b> 学術論文の形式を整えた卒業論文を書く。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間発表で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
水曜 10:00-12:00					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190303
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	田淵 太一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文作成にむけて、準備する。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文の完成を目標とする。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190304
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	陳 建平			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
1年間をかけて卒業論文を作成する。 卒業論文の作成基本方法から論文の構成、まとめ方について指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文を完成させる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 各自のテーマについて基礎的な知識を身につける。					
<b>思考・判断の観点:</b> 各自でテーマを設定し、それに即して自分の考え方や視角を養う。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自ら論文作成のスケジュールを管理し、必要な資料を入手する。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
4年間の成果を悔いのないように仕上げよ。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190305
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	尹 春志			区分	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文作成のための指導を行なう。					
<b>授業の一般目標</b>					
各自が自分のテーマに則して、卒業論文を作成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 卒業論文を作成するのに必要な形式、内容について学ぶ。					
<b>技能・表現の観点:</b> 論理的な文章を書く。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
中間発表と卒論の内容で判断する					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190306
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	豊 嘉哲			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190401
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	平中 貫一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の準備・報告。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文の完成。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告及び卒業論文による。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190402
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	上杉 信敬			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
2年間の行政法の学習を踏まえて、さらにそれを発展させていく。そのことと並行して、各参加者が自分が興味を持つ行政と法に関するテーマを自ら選定してそれを深め、論文にまとめていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
3年になる行政法の学習の中で何を深めたいか、やり残したものがあれば主にどのような領域や法理を深めたいか、などを明らかにしつつそれらのうちのどれかを取り上げていく。そうしたことと並行して、各自興味を持つ領域や主題について深めて、論文にまとめる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
演習中での報告、質疑応答の状況。 論文のテーマ設定、その方法、実証の程度、など論文の評価。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
がんばりましょう。					
<b>連絡先</b>					
内線(5588)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190403
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	安里 全勝			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
刑法総論、各論の重要項目を考察していく。判例を考察しながら、刑法理論が具体的事案にどのように適用されているかを見ていく。					
<b>授業の一般目標</b>					
刑法がどうい法律であるかを理解して貰う。そのために刑法総論と各論の重要問題を考察していく。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 刑法がどのような法律であるかを理解して貰う。					
<b>思考・判断の観点:</b> 法的思考の考察ということから、判例を考察し、刑法理論が具体的事案にどのように適用されているのかを見ていく。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
日頃の授業への出席点、卒業論文の内容によって評価。					
<b>教科書</b>					
刑法総論／安里全勝:成文堂, 2009					
刑法各論(財産に対する罪)／安里全勝:成文堂, 2009					
<b>参考書</b>					
演習ノート刑法総論[全訂第3版]／斎藤誠二編:法学書院, 2008					
演習ノート刑法各論[第4版]／岡野光雄:法学書院, 2008					
<b>メッセージ</b>					
予習、復習をして欲しい。					
毎回出席すること。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190404
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	渡邊 幹雄			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<p>演習1、演習2で身に付けた知識や論理展開を基礎に、各人の問題関心に応じて卒業論文を作成します。テーマにはとくに窮屈な条件は付けていないので、現代社会にかかわる問題を論じてもらえればいいと思います。もちろん、歴史的な議論でもかまいません。間口はすこぶる広いので、自由な発想で自分の主張を展開してほしいと思います。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
卒業論文の作成以外にありません。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>各人のテーマによる報告をしっかりとこなしてもらい、卒業論文の提出をもって評価します。卒論を提出しなければもちろん単位を与えることはできませんが、報告など、意欲に欠ける場合には評価が下がることになります。また、無断欠席がかさなった場合、単位は与えられません。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					
授業終了後の一定時間であればいつでも結構です。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190405
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	中村 美紀子			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
本演習では、あらかじめ割り当てられた会社法判例について、報告者の報告にもとづいて質疑応答を行いつつ、ゼミ生各々の卒業論文を作成します。					
<b>授業の一般目標</b>					
会社法について自らのテーマをもったゼミ生が卒業論文を作成します。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
成績評価の観点は、a ゼミを楽しんでいるかどうか、b ゼミを盛り上げているかどうか、c 報告は勤勉にしているかどうか、d オンとオフのけじめをつけているかの4点です。					
<b>教科書</b>					
会社法判例百選／江頭憲治郎他[編]:有斐閣, 2006 テキストブック会社法／末永敏和[編著]:中央経済社, 2006					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
会社法成立後の六法(2006年版以降)を用意すること。 欠席が避けられない場合は、事前に連絡をしてください(Eメール可)。					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟319研究室。					
<b>オフィスアワー</b>					
前期火曜日 12:50—14:50、後期火曜日 16:10—17:40。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190406
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	安住 修一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒論作成に参考となる資料(判例、参考論文、参考図書)や作成方法を指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
卒論作成					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
論文評価					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
(TEL)083-933-5580					
(メール)azumi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190407
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	油納 健一			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文の書き方を、個別に指導する。					
<b>授業の一般目標</b>					
1.問題を発見する(問題設定する)能力を身につける。					
2.その問題につき、判例・学説を自分で探しまとめる能力を身につける。					
3.論文を構成する(論文の章立も含む)能力を身につける。					
4.正確な日本語を書く能力を身につける。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
1年間の努力の程度と、提出された卒業論文で評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
就職活動が大変だからといって、卒業論文の勉強を怠るようなことがないように、頑張ってください。					
卒業論文を苦勞して書くことは法学の勉強になるだけでなく、日本語力や文章構成力なども十分に鍛えられるはずです。					
<b>連絡先</b>					
yuno@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190408
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	吉川 信将			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
明確な問題意識をもって卒業論文を執筆・完成させることができるよう、論点の演習・論文執筆指導を中心とする。					
<b>授業の一般目標</b>					
各自が選択したテーマに従い、判例・学説を丹念に研究し、自分の考え方を明確にした卒業論文を作成する。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 今、会社法では何が問題とされているのかを整理し、その論点を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 会社法上の問題点を如何に解決すべきかにつき自分の考えをまとめられるようにする。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 積極的に調査にあたり、問題点を洗い出す姿勢を身に付ける。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文の内容を主とする。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
キーワードで読む会社法第2版／浜田道代編著:有斐閣, 2006					
新しい会社法制の理論と実務／川村・布井編著:経済法令研究会, 2006					
演習ノート会社法第6版／奥島・鳥山編著:法学書院, 2006					
会社法における主要論点の評価／森・上村編著:中央経済社, 2006					
会社法の基本を問う／稲葉威雄:中央経済社, 2006					
<b>メッセージ</b>					
山口大学での学生生活の集大成ともいべき卒業論文を作成します。早目にテーマを決定し、地道に資料収集に励みましょう。					
<b>連絡先</b>					
経済学部A棟413研究室					
<b>オフィスアワー</b>					
火曜日12:50～14:20					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190409
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	土生 英里			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
各自が選んだテーマに沿って、卒業論文の準備と執筆に入ります。					
<b>授業の一般目標</b>					
3年次で学んだ知識をベースとして、興味ある分野のテーマを設定し、卒業論文を完成させます。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文の評価を最終評価とします。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
就職活動と併せて忙しい1年となります。相談がある場合は早めに連絡してください。					
<b>連絡先</b>					
e.habu@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
月～水 講義・ゼミの時間以外					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190410
開設科目名	卒業論文演習			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	立山 紘毅			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190501
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	宮崎 充保			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
扱う問題の決定をし、その論考を議論しながら、内容を固めて行く。また、論述の仕方を学ぶ。					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己発見問題を絞り込む。</li> <li>・参考図書、資料、など、卒業論文に必要なレアリアを求める。</li> <li>・論述の筋道を立てる。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 専門用語の理解					
レアリアの的確な把握					
<b>思考・判断の観点:</b> レアリアと自分の論点がどのようなところで交錯するかを判断する					
筋道を立てる思考					
<b>関心・意欲の観点:</b> 自分の関心ある世界を建設開始する					
<b>態度の観点:</b> 集中する					
時間をかけて丹念に丁寧に問題に対処する					
<b>技能・表現の観点:</b> 文章作成法					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週提出するハンドアウト、それを基にしたプレゼンテーションと議論</li> <li>・理由のない欠席4回で欠格</li> <li>・結論には必ずしも到らなくても、筋道の立て方、その表現法</li> </ul>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
卒業論文は16年間の教育の集大成として、ていねいに仕上げてもらいたい。そのために、ぎりぎりまで考える。それをどのように表現するか工夫する。					
<b>連絡先</b>					
mmiy@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					
空いている時間はオフィスアワーにします。					



開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190502
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	MARC LOHR			区分	
<b>授業の概要</b>					
卒業論文執筆のための指導である。					
<b>授業の一般目標</b>					
1. 卒論執筆のための研究計画を立てる。					
2. 研究発表と卒論執筆。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>知識・理解の観点:</b> 1. 自分の卒論テーマに必要な知識を取得する。					
2. 論文の構造を理解する。					
<b>思考・判断の観点:</b> 論文構成や内容について判断する。					
<b>関心・意欲の観点:</b> 幅広く自分の研究テーマに関して調べる意欲を持つ。					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒業論文(100%)					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190503
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	篠原 淳			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
<b>授業の一般目標</b>					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190504
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	朝日 幸代			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>卒業論文演習では、演習Ⅰ、演習Ⅱで学んだ内容を基礎として、卒業論文作成のためのグループ指導、個人指導、プレゼンテーション、他の学生からのコメントを得る発表を含め、最終的に、各自が選んだ研究テーマで、卒業論文を完成させることです。</p> <p>卒業論文演習では、各自選んだテーマについて、(1)現状分析、(2)先行研究のサーベイ、(3)関連データの収集、(4)分析手法(理論、統計、ソフトウェア)の修得、そして、論文形式に取りまとめていただきます。論文作成におけるグループ指導、個人指導、中間報告、個人指導、最終報告と進めていきます。論文作成においての疑問や問題点は積極的に解決するように個人指導およびグループ指導の場で質問してください。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実の観光、社会や経済問題について理解をし、それについての情報および関連するデータを収集することができる。</li> <li>・授業で取り扱うデータや様々な統計データの特徴や問題点を理解し、経済分析に適切に利用することができる。</li> <li>・観光や経済に関する論文を作成する中で、論文のテーマに合わせた統計データと分析ができる。</li> <li>・取りまとめた分析や論文を人にわかりやすく、正確に伝えることができる。</li> <li>・卒業論文を最後まで書き上げる能力を養う。</li> </ul>					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b>・観光および社会や経済の問題について、経済学的な観点で理解することができる。</p> <p>・授業で取り扱った統計および計量経済学的な手法を理解し、レポート作成時に活用することができる。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b>・現実の観光や社会、経済の問題について、経済学的な観点から理解したことを、それがどのような意味をもっているのかを思考し、判断できる。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b>・観光および社会や経済の問題について、高い関心を持ち、それについて自ら情報収集する。</p> <p>・自ら情報収集をしたり、授業で取り扱った内容を用いて、卒業論文作成に取り組むことができる。</p> <p>・ゼミのメンバーの考え方や意見に関心をもつとともに、自らの考え方や意見も積極的に述べるができる。</p> <p><b>態度の観点:</b>・学ぶことに積極的にかつ真摯に向うことができること。</p> <p>・ゼミのメンバーの考え方も尊重する中で、自分の考えや意見を述べることができる。</p> <p>・観光として重要なホスピタリティの精神をもって、なにごとにも対応できる。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b>・卒論や卒論のレジメ作成において、適切な情報およびデータを用いながら分かりやすく作成することができる。</p> <p>・卒論の中間発表、最終発表において、聞き手の立場に立って分かりやすくプレゼンテーションをすることができる。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
<p>授業態度・授業への参加度は 50%、受講者の発表(プレゼン)・卒業論文は 50%、出席は欠格条件とします。論文の形式、分析方法など卒論の水準に到達しているかが大変重要である。卒業論文をより正確に評価するためにも、必ず教員の指導を受けてください。</p>					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
<p>卒業論文演習は、学生の皆さんが主役です。学生さん個人が卒業論文へ取り組みながら、あるときは学生さん同士で協力し、学ぶことで刺激し合える仲間になっていただければ、ゼミを担当する者として大変うれしく思います</p>					
<b>連絡先</b>					
asahi@yamaguchi-u.ac.jp					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1033190505
開設科目名	卒業論文演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	陳 禮俊			区分	
<b>授業の概要</b>					
<p>今日では、人類の生産力(対自然支配力)はかつてなく巨大な水準に到達している。そのため、自然環境の状態は、自然生態系によって決まるというよりは、人間活動のあり方如何によって大きく規定されるという歴史的段階に突入している。それゆえ、人間活動の設計を一步誤るならば、人間活動の基盤そのものを崩壊させてしまうような環境破壊を招く危険性もかつてなく飛躍的に高まっているといわなければならない。こうした現代の環境破壊をめぐる現実とその危険性の一層の高まりは、実は現代の経済学に対する大きな挑戦でもある。ここに新しい学問としての「環境経済学」が誕生せざるを得ない強い現実的要請がある。</p>					
<b>授業の一般目標</b>					
演習Ⅰ・演習Ⅱで習得した知識を土台に、より高度な環境経済学に関わる文献を輪読・討議しながら、独創的な研究論文を執筆する能力を高める。					
<b>授業の到達目標</b>					
<p><b>知識・理解の観点:</b> 環境問題の現状、影響及びその原因を理解する。</p> <p><b>思考・判断の観点:</b> 環境問題を解決するための方策を考える。</p> <p><b>関心・意欲の観点:</b> 環境問題への関心、理解及び発言内容を考察する。</p> <p><b>態度の観点:</b> 積極的に出席し討議する。</p> <p><b>技能・表現の観点:</b> 経済学知識を応用する。</p> <p><b>その他の観点:</b> 他分野の知識との関連を探る。</p>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本講義は、受講者の発表(プレゼン)、出席によって評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視する。演習では、事前の予習と活発な討論を期待する。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えている。					
<b>連絡先</b>					
<p>研究室: 経済学部 A 棟</p> <p>電 話: 083-933-5526</p> <p>E-mail: lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190506
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	TAKEMOTO TIMOTHY ROLAND SCOTT			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
もう2回発表していただき、卒論研究で調べたい仮説を話し合い、卒論を仕上げること					
<b>授業の一般目標</b>					
卒論を仕上げることです					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>思考・判断の観点:</b> 卒論をどのように書けばよいか					
<b>その他の観点:</b> 卒論を仕上げることです					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
卒論と発表					
その他というのは卒論です					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
就活・卒論・英語					
<b>連絡先</b>					
takemoto at nihonbunka.com					
<b>オフィスアワー</b>					
電話してから夕方でもいつでもよいです。					

<b>開設期</b>	通年	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1033190601
<b>開設科目名</b>	卒業論文演習			<b>単位</b>	4 単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>	古賀 大介			<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
受講者各自が関心を寄せる産業・企業の過去・現在・未来についての分析を行ってもらい。尚、日系企業と外資系企業との比較研究であることが望ましい。					
<b>授業の一般目標</b>					
論文作成に必要な基本的な能力を身につける。正しく文章を理解する能力。それを文字で表現する能力などである。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
報告と論文を総合的に評価する。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
<b>メッセージ</b>					
きちんと仕上げ、卒業しましょう。					
<b>連絡先</b>					
<b>オフィスアワー</b>					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1034110001
開設科目名	マクロ経済学 I			単位	4 単位
対象学生	c			学年	～
担当教員	馬田 哲次			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1034130001
<b>開設科目名</b>	経済発展論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>				<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
第二次世界大戦後のアジア(主として東アジア、東南アジア)の経済発展を、理論的および歴史的に理解することを目的とする講義です。つまり、 対象地域: アジア(特に東南アジア) 対象時期: 1945年前後～現在 理論: 開発経済学、経済発展論、金融論、国際マクロ経済学、経営学、など 歴史: アジアの経済発展の軌跡(特に東南アジア地域に着目) が主な講義の枠組みとなります。					
・「経済発展論(旧課程、～平成17年)」と合同講義となります。					
<b>授業の一般目標</b>					
発展途上国の経済発展を、理論的および歴史的に理解した上で、この分野の知識・理解がない人に対して、自信を持って説明できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末に行なう筆記試験(試験期間内試験)および授業時間に提示・回収するレポートによって評価します。筆記試験は、講義内容を正確に理解できていることを前提に、それを自分なりに表現できたかどうかを重視し、論理性・文章表現力を基準にして評価します。レポートは、授業に関連する書物などの論評の課題を2～3回提示します(提出方法などは初回授業時にお知らせします)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
テキストブック開発経済学/ジェトロアジア経済研究所他編:有斐閣, 2003 東アジアの開発経済学/大野健一・桜井宏二郎:有斐閣, 1997 開発金融論/奥田英信・生島靖久・三重野文晴, 2006 経済開発論/高橋基樹・福井清一編:勁草書房, 2008 入門 国際金融/高木信二:日本評論社, 2006					
<b>メッセージ</b>					
アジアの歴史的な経験を踏まえながら、その経験を理論的に説明することを目指します。					
<b>連絡先</b>					
未定(初回授業時にご連絡いたします)					
<b>オフィスアワー</b>					



<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1034130002
<b>開設科目名</b>	東南アジア経済論			<b>単位</b>	2単位
<b>対象学生</b>				<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>				<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
この講義では、モノ(商品)という切り口から様々な産業の分野に焦点をあて、東南アジア経済と日本経済との関わりを学ぶことで、現代東南アジア経済を勉強します。なお、本講義では、東南アジアを、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポールなどの国々を指すこととします。					
<b>授業の一般目標</b>					
東南アジアの経済発展を、理論的および歴史的に理解した上で、この分野の知識・理解がない人に対して、自信を持って説明できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
期末に行なう筆記試験(試験期間内試験)および授業時間に提示・回収するレポートによって評価します。筆記試験は、講義内容を正確に理解できていることを前提に、それを自分なりに表現できたかどうかを重視し、論理性・文章表現力を基準にして評価します。レポートは、授業に関連する書物などの論評の課題を2～3回提示します(提出方法などは初回授業時にお知らせします)。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
テキストブック 21世紀アジア経済/今井宏・坂東達郎・高安健一・三島一夫:勁草書房, 2003 進化する多国籍企業/末廣昭:岩波書店, 2003 東アジアの開発経済学/大野健一・桜井宏二郎:有斐閣, 1997 テキストブック開発経済学/ジェトロアジア経済研究所他編:有斐閣, 2003					
<b>メッセージ</b>					
アジアの歴史的な経験を踏まえながら、その経験を理論的に説明することを目指します。					
<b>連絡先</b>					
未定(初回授業時にご連絡いたします)					
<b>オフィスアワー</b>					

<b>開設期</b>	前期	<b>曜日時限</b>	未定	<b>時間割コード</b>	1034130003
<b>開設科目名</b>	経済発展論			<b>単位</b>	4単位
<b>対象学生</b>	(旧)			<b>学年</b>	～
<b>担当教員</b>				<b>区分</b>	
<b>授業の概要</b>					
第二次世界大戦後のアジア(主として東アジア、東南アジア)の経済発展を、理論的および歴史的に理解することを目的とする講義です。つまり、対象地域: アジア(特に東南アジア) 対象時期: 1945年前後～現在 理論: 開発経済学、経済発展論、金融論、国際マクロ経済学、経営学、など 歴史: アジアの経済発展の軌跡(特に東南アジア地域に着目) が主な講義の枠組みとなります。					
・「経済発展論(新課程、平成18年～)」と講義部分(週1コマ)は合同となります。					
<b>授業の一般目標</b>					
発展途上国の経済発展を、理論的および歴史的に理解した上で、この分野の知識・理解がない人に対して、自信を持って説明できるようになる。					
<b>授業の到達目標</b>					
<b>成績評価方法(総合)</b>					
本講義では、以下の要素を合計して評価をします。					
I 演習部分の評価					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポーターとして文献を適切に要約し、プレゼンテーションできたか。</li> <li>・コメンテーターとして論点を提示し、議論を活発にすることができたか。</li> <li>・他の参加者(レポーター、コメンテーター以外)として、議論に積極的に参加したか。</li> </ul>					
II 講義部分の評価					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末に行なう筆記試験(試験期間内試験)および授業時間に提示・回収するレポートによって評価します。筆記試験は、講義内容を正確に理解できていることを前提に、それを自分なりに表現できたかどうかを重視し、論理性・文章表現力を基準にして評価します。レポートは、授業に関連する書物などの論評の課題を2～3回提示します(提出方法などは初回授業時にお知らせします)。</li> </ul>					
それぞれの配分は、下記を参考にして下さい。					
<b>教科書</b>					
<b>参考書</b>					
テキストブック開発経済学/ジェトロアジア経済研究所他編:有斐閣, 2003					
東アジアの開発経済学/大野健一・桜井宏二郎:有斐閣, 1997					
開発金融論/奥田英信・生島靖久・三重野文晴:日本評論社, 2006					
経済開発論/高橋基樹・福井清一編:勁草書房, 2008					
入門 国際金融/高木信二:日本評論社, 2006					
<b>メッセージ</b>					
アジアの歴史的な経験を踏まえながら、その経験を理論的に説明することを目指します。					
<b>連絡先</b>					
未定(初回授業時にご連絡いたします)					
<b>オフィスアワー</b>					